観光庁
Japan Tourism Agency

国際会議誘致に向けて
開催効果を高める支援ツール

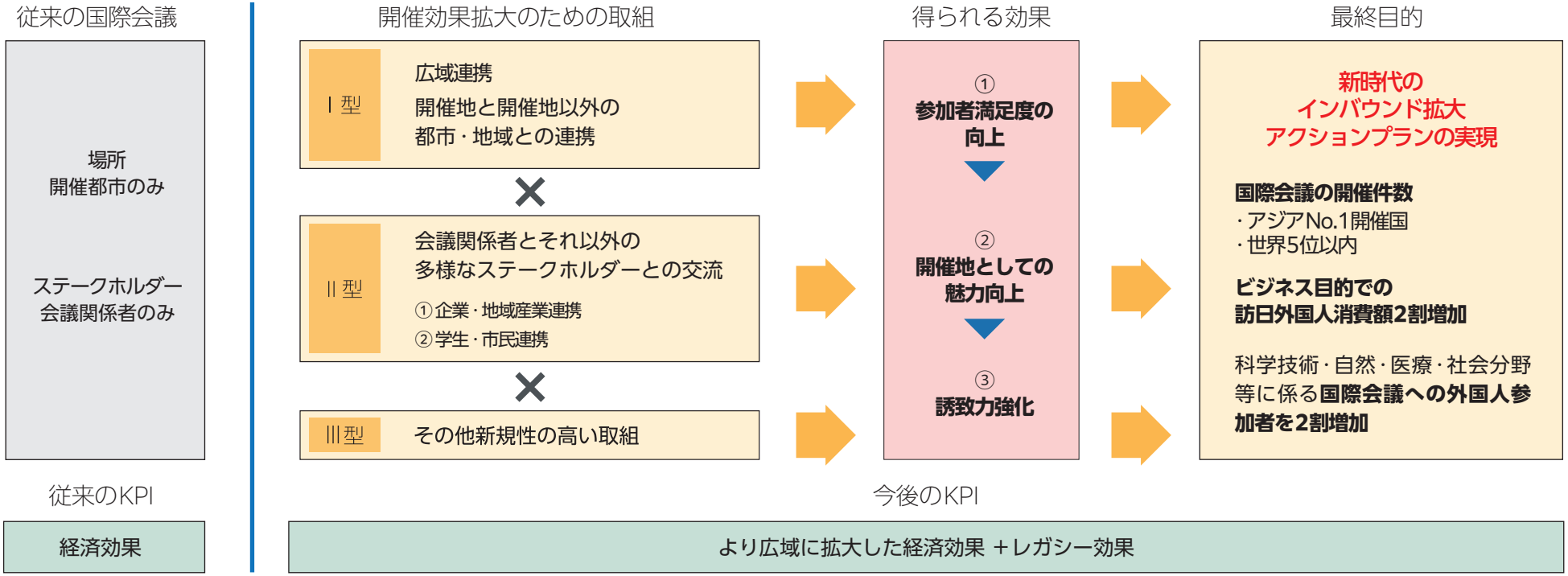
観光庁

令和7年2月

はじめに

令和６年度、観光庁では「国際会議の開催効果拡大実証事業」を行い、対象となる国際会議を募集し、採択された29の国際会議において様々な取組が実施されました。
従来、国際会議の多くは、開催効果が開催都市内にとどまっており、地域企業など、ビジネス関係者と国際会議関係者との交流の機会が限定的なものでした。本実証事業においては、国際会議の単なる開催にとどまらず、都市間の連携や多様なステークホルダーとの連携を通じた開催地外への誘客やビジネス交流の創出等により、国際会議の開催効果の拡大につなげ、その効果的な手法について調査検討を行い、その結果を国全体で共有することを目的としています。
実際に実施された事業においては、主に、①開催地と開催地以外の都市・地域と連携した事例（Ⅰ型）、②会議関係者と、企業・地域産業や学生・市民といった多様なステークホルダーとの交流を行った事例（Ⅱ型）、③その他の新規性の高い取組事例（Ⅲ型）、の大きく３つに分類されます。国際会議によっては、３つ分類の全ての取組を行った事例もありました。各事業においては、主催者やＣＢ、ＰＣＯや旅行会社等事業者の創意工夫と努力により、多様で個性的な取組が多く実行されました。
こうした取組は、結果的に参加者の満足度を向上させ、開催地の魅力が向上し、都市の誘致力の強化につながります。本実証事業の成果の共有により、全国において同様の取組が促進され、各都市の国際会議誘致力が強化されることを期待します。

国際会議の開催効果拡大のための取組は、国際会議誘致力の強化につながります。



具体的な取組事例　（29件の国際会議で実施された具体的な取組事例）

※太字は横展開が可能な事例

分類		具体的な取組事例	件数
Ⅰ型	広域連携	● **開催地外へのエクスカーション（＝広域エクスカーション）** ● 開催地外でのサテライト会議（二都市開催・開催期間外の実施を含む） ● **開催地外でのバンケット（ツアー後に実施）** ● **開催地外の自治体の紹介展示・PR（同県内別地域を含む）** ● **開催地外の郷土芸能・文化遺産等の紹介（地域文化資源の活用）**	22件
Ⅱ型	①企業・地域産業連携	● 企業へのテクニカルビジット ● **企業とのネットワーキング・ビジネスマッチング** ● 会議内でスタートアップ企業による自社事業プレゼン ● 企業展示・デモンストレーション ● **地元企業参加者を対象とした技術セミナー** ● 地域産業の協力を得たツアー・バンケット ● 地域の物産展示即売・物産紹介 ● 地域の文化・伝統工芸を学ぶワークショップ	13件
	②学生・市民連携	● **学生を招待したワークショップ** ● **学生によるポスターセッション・アワード授与** ● 学生によるMICE運営参画 ● 市民参加のセミナー・ワークショップ ● 会議参加者と地元の子供たちの交流企画	7件
Ⅲ型	その他　新規性の高い取組	● **サステナブルなMICE運営・会議運営の環境負荷最小化の取組** ● **観光関連事業者に対するハラル講習会の実施と会議での飲食提供** ● **MICE人材育成・運営・事前事後研修（MICE人材バンク設立）** ● CBによる自主的なサテライト会議・FAMトリップの主催 ● **観光事業者に対するLGBTQツーリズムに関する講演会**	5件

目次

番号順

【007】名古屋観光コンベンションビューロー… P.23
【010】横浜観光コンベンションビューロー…… P.25
【014】びわこビジターズビューロー …… P.27
【015】長崎国際観光コンベンション協会 …… P.29
【016】福島県観光物産交流協会 …… P.31
【021】富山コンベンションビューロー…… P.33
【024】仙台観光国際協会 …… P.35
【025】広島観光コンベンションビューロー…… P.37
【026】広島観光コンベンションビューロー…… P.39
【027】高松観光コンベンションビューロー…… P.41
【028】福岡観光コンベンションビューロー…… P.43
【029】北九州観光コンベンション協会 …… P.45
【031】横浜観光コンベンション･ビューロー… P.47
【035】京都文化交流コンベンションビューロー P.49
【040】沖縄観光コンベンションビューロー…… P.51
【041】京都文化交流コンベンションビューロー P.53
【042】北九州市観光コンベンションビューロー P.55
【046】名古屋観光コンベンションビューロー… P.57
【047】熊本国際観光コンベンション協会 …… P.59
【051】札幌コンベンションビューロー…… P.61
【102】大阪観光局 …… P.63
【106】広島観光コンベンションビューロー…… P.65
【107】松江コンベンションビューロー…… P.67
【108】つくば観光コンベンションビューロー… P.69
【109】松山観光コンベンション協会 …… P.71
【112】仙台観光国際協会 …… P.73
【113】おかやま観光コンベンション協会 …… P.75
【114】東京観光財団 …… P.77
【115】岐阜観光コンベンション協会 …… P.79

都道府県順

札幌コンベンションビューロー【051】…… P.61
仙台観光国際協会【024】 …… P.35
仙台観光国際協会【112】 …… P.73
福島県観光物産交流協会【016】 …… P.31
つくば観光コンベンションビューロー【108】… P.69
横浜観光コンベンションビューロー【010】…… P.25
横浜観光コンベンション･ビューロー【031】… P.47
東京観光財団【114】 …… P.77
岐阜観光コンベンション協会【115】 …… P.79
名古屋観光コンベンションビューロー【007】… P.23
名古屋観光コンベンションビューロー【046】… P.57
富山コンベンションビューロー【021】…… P.33
びわこビジターズビューロー【014】 …… P.27
京都文化交流コンベンションビューロー【035】P.49
京都文化交流コンベンションビューロー【041】P.53
大阪観光局【102】 …… P.63
おかやま観光コンベンション協会【113】 …… P.75
高松観光コンベンションビューロー【027】…… P.41
松江コンベンションビューロー【107】…… P.67
松山観光コンベンション協会【109】 …… P.71
広島観光コンベンションビューロー【025】…… P.37
広島観光コンベンションビューロー【026】…… P.39
広島観光コンベンションビューロー【106】…… P.65
北九州観光コンベンション協会【029】 …… P.45
北九州市観光コンベンションビューロー【042】P.55
福岡観光コンベンションビューロー【028】…… P.43
熊本国際観光コンベンション協会【047】 …… P.59
長崎国際観光コンベンション協会【015】 …… P.29
沖縄観光コンベンションビューロー【040】…… P.51

アルファベット順

AABE2024(The 29th Biennial Conference of the Asian Association of Biology Education) …… P.71
ABMF(ABMI ASEAN+3 Bond Market Forum) …… P.59
ABC Conference 2024(6th International Conference on Activity and Behavior Computing) …… P.55
ACCS2024(The 15th Asian Conference on Chemical Sensors) …… P.45
ALC'24(15th International Symposium on Atomic Level Characterizations for New Materials and Devices '24) …… P.69
DASFAA 2024(The 29th International Conference on Database Systems for Advanced Applications) …… P.79
EADC Nagoya(12th East Asian Area Dam Conference) …… P.23
EcoBalance 2024(The 16th International Conference on EcoBalance) …… P.73
EPRBioDose2024(The Joint International Symposium on the 14th EPR dosimetry and dating and the 9th International Conference on Biological Dosimetry) …… P.31
HVIS2024(17th The Hypervelocity Impact Symposium) …… P.69
HSR2024(The 8th Global Symposium on Health Systems Research) …… P.29
ICE2024(XXVII International Congress of Entomology) …… P.27
ICPE2024(The 20th International Conference on Precision Engineering) …… P.35
ICRA2024(2024 IEEE International Conference on Robotics and Automation) …… p.25
IGLTA(IGLTA Global Convention 2024) …… P.43
IIAI AAI 2024(16th IIAI International Congress on Advanced Applied Informatics) …… P.41
IIT2024(24th International Conference on Ion Implantation Technology 2024) …… P.33
IPS24 ／ ICARP2024(24th International Conference on Photochemical Conversion and Storage of Solar Energy(IPS24)/ International Conference on Artificial Photosynthesis-2024(ICARP2024)) …… P.39
ISS(The 23rd Annual Meeting of Infantile Seizure Society) …… P.57
MNC2024(37th International Microprocesses and Nanotechnology Conference) …… P.49
MSEAS2024(Marine Socio-Ecological Systems Symposium 2024) …… P.47
OptoX-NANO2024(Current Trends in Optical and X-Ray Metrologies of Key Enabling Nanomaterials/Devices for The Ubiquitous Society, Renewable Energy and Health) …… P.75
RIO SYWLC 2024(IEEE R10 SYWL Congress 2024) …… P.77
SIHDA 2024 OSAKA(LXXVIIe Session de la Société Internationale Fernand de Visscher pour l'Histoire des Droits de l'Antiquité) …… P.63
SPNHC-TDWG2024(SPNHC-TDWG Joint Annual Conference 2024) …… P.51
STS forum(STS Forum) …… P.53
TEAM2024(The 37th Asian-Pacific Technical Exchange and Advisory Meeting on Marine Structures) …… P.65
The 9th GEWEX-OSC(The 9th Global Energy and Water Exchanges Open Science Conference) …… P.61
15th ICOC(15th International Conference on Copepoda) …… P.37

実証事業の分類①

本事業で採択された29件の様々な分類

	事業番号	都市属性（国際会議）	国際会議名	実証事業名	会期	日数	国際会議参加者	実証事業参加者（国内外）	実証事業参加者（海外のみ）	参加費	備考
1	グローバルMICE	【007】EADC Nagoya 名古屋	第12回東アジア地域ダム会議	国際学術会議活動の情報発信強化による関連インフラ施設と周辺の観光資源化の促進	6/3～6/7	5	275	89	57	28,500	－
2	グローバルMICE	【010】ICRA2024 横浜	ロボット工学とオートメーションに関する国際会議2024	日本各地の企業・大学と国外研究者との連携を促進するロボット博覧会＆テクニカルツアー	5/13～5/17	5	6,829	130	50	1,000	－
3	グローバルMICE	【014】ICE2024 びわこ	第27回国際昆虫学会議	京都開催MICEから滋賀県へのエクスカーション・プログラム開発	8/25～8/30	6	－	－	－	－	－
4	中核	【015】HSR2024 長崎	第8回保健システム研究グローバルシンポジウム	「介護、防災、環境、障がい者支援、地産地消のイノベーション博覧会」	11/18～11/22	5	1,552	1552	1420	0	－
5	中核	【021】IIT2024 富山	イオン注入国際学会	富山県に根差す産業と半導体産業の融合による新技術を生み出すための機会創出	9/20～9/26	7	386	216	122	0	－
6	グローバルMICE	【024】ICPE2024 仙台	The 20th International Conference on Precision Engineering	学術的・観光的にバランスのとれたエクスカーションによる国内外研究者間の相互理解促進の試行	10/23～10/27	5	657	200	122	0	－
7	グローバルMICE	【025】15th ICOC 広島	第15回国際カイアシ類学会	日本の鍾乳洞観光ツアーと国際学会の融合を試みる：国際的学術活動で地域活性を	6/2～6/7	6	183	184	116	0	－
8	グローバルMICE	【026】IPS24 ／ ICARP2024 広島	第24回太陽エネルギーの光化学的変換・貯蔵に関する国際会議（IPS24）/ 人工光合成国際会議（ICARP）2024	国際学術研究地域への誘客と東広島地区産業の国際化 西条酒蔵見学・ティスティング/ 最先端工場見学（MICRON/サタケ） 酒蔵通り散策/座禅体験から地元酒蔵飲み比べ	7/28～8/2	6	403	119	63	0	－
9	中核	【027】IIAI AAI 2024 高松	第16回先進的応用情報学に関する国際会議	自治体と産業の広域連携により香川県をPRする国際会議のテーマパーク化	7/6～7/12	7	315	160	60	10,000	－
10	グローバルMICE	【028】IGLTA 福岡	IGLTA世界総会2024	IGLTA世界総会2024　福岡サテライト会議/メディアFAMトリップの実施	10/23～10/26	4	575	72	12	0	概算
11	グローバルMICE	【029】ACCS 2024 北九州	第15回アジア化学センサ国際会議	北九州・下関海峡エリアの観光プログラム開発	11/17～11/20	4	325	158	70	0	－
12	グローバルMICE	【031】MSEAS2024 横浜	海洋社会・生態系システムシンポジウム 2024	海洋科学の国際学会MSEAS2024と地域社会が協働する「Art for MOTHER OCEAN」プロジェクト	6/3～6/7	5	207	127	85	0	－
13	グローバルMICE	【035】MNC2024 京都	第37回マイクロプロセス・ナノテクノロジー国際会議	半導体加工プロセス技術セミナーとプロセス実習	11/12～11/ 15	4	582	220	30	0	－

	都市属性（国際会議）	事業番号	国際会議名	実証事業名	国際会議の会期	日数	国際会議参加者	実証事業参加者（国内外）	実証事業参加者（海外のみ）	参加費	備考
14	グローバルMICE	【041】STS forum 京都	科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム	地域に貢献するビジネスマッチング・交流/開催都市外・高付加価値型・課題解決型エクスカーション/万博・企業と連携した公共性の高い府市民向けシンポジウムの実施	10/6～10/8	3	1,359	169	149	0	－
15	グローバルMICE	【042】ABC Conference 2024 北九州	行動と振る舞いに関するABC2024国際会議	福岡県北九州市・大分県中津市連携国際会議の実施	5/28～5/31	4	72	72	42	1,500	概算
16	グローバルMICE	【046】ISS 名古屋	第23回乳幼児けいれん研究会国際シンポジウム	日本の祭り文化及び地元（愛知・名古屋）の染物文化を世界に発信	5/30～6/1	3	304	148	61	0	－
17	グローバルMICE	【051】The 9th GEWEX-OSC 札幌	第9回全球エネルギー水循環プロジェクト国際会議	地域産業と連携したテクニカルビジットの実施および開催都市外でのエクスカーション	7/7～7/12	6	901	75	43	5,000	－
18	政令	【113】OptoX-NANO2024 岡山	ユビキタス社会・再生エネルギー・ヘルスに資するナノマテリアル/デバイスを実現する光・X線計測技術に関する国際会議	MICEをきっかけとした「長期滞在型岡山観光モデル」	11/27～11/29	3	99	21	13	0	－
19	グローバルMICE	【112】EcoBalance 2024 仙台	第16回エコバランス国際会議	会議の環境負荷最小化のための取組を通じた世代・地域間連携の実践	11/3～11/7	5	625	36	23	0	－
20	－	【040】SPNHC-TDWG 2024 宜野湾	SPNHC-TDWG合同大会2024	開催地の地域資源特色と専門家会議のテーマの高い親和性を最大限活かした先駆的国際会議モデルの創出	9/2～9/6	5	377	162	158	0	－
21	中核	【107】ALC'24 松江	第15回新材料とデバイスの原子レベルキャラクタリゼーションに関する国際シンポジウム	「たたらで縁結び」ー波及効果を広げるテクニカルビジットと地域貢献の融合ー	11/17～11/22	6	208	131	58	0	－
22	－	【108】HVIS2024 つくば	17th The Hypervelocity Impact Symposium	アジア初開催をきっかけとした宇宙産業の拡大	9/8～9/13	6	145	161	104	0	－
23	政令	【047】ABMF 熊本	ASEAN+3 債券市場フォーラム	国際会議（ABMF）参加者と地域金融経済関係者との相互理解及びネットワーキング	7/8～7/12	5	262	200	130	0	－
24	グローバルMICE	【102】SIHDA 2024 OSAKA 大阪	第77回国際古代法史学会	歴史・文化ハイエンド参加者を対象とした「知られざる」日本体験最大化実証	9/23～9/28	6	186	143	124	13,000	概算
25	中核	【106】TEAM2024 呉	第37回アジア太平洋船舶海洋構造工学会議	瀬戸内の都市間連携による海路・陸路を用いた新しいポストカンファレンスツアーの提案	9/25～9/28	4	152	152	77	0	－
26	グローバルMICE	【114】RIO SYWLC 2024 東京	IEEE R10 SYWL Congress 2024	サテライトワークショップ併催による参加者への地方都市アピール	8/29～9/1	4	332	332	205	7,000	概算
27	－	【016】EPRBioDose2024 弘前	第14回電子スピン共鳴による線量評価・年代測定および第9回国際生物学的線量評価に関する合同国際会議	開催都市外でのエクスカーション	9/25～9/28	4	89	36	30	0	－
28	中核	【115】DASFAA 2024 岐阜	第29回先進的応用のためのデータベースシステムに関する国際会議	「東海国立大学機構」（名古屋大学＆岐阜大学）の航空宇宙研究拠点の活用による新たなる観光資源の開発と、広域観光圏の形成	7/2～7/6	5	240	94	84	0	－
29	中核	【109】AABE2024 松山	アジア生物学教育協議会第29回隔年会議	国際会議開催によるMICE人材の育成と地域産業の活性化による国際対応の強化	10/12～10/15	4	240	60	20	5,000	－

実証事業の分類②

本事業で採択された29件の国際会議で実施された様々な取組の分類

	実証事業	Ⅰ型	Ⅱ型		Ⅲ型
		広域連携	多様なステークホルダーとの交流		その他の取組
			企業・地域産業連携	学生・市民連携	
1	【007】EADC Nagoya 名古屋	●			
2	【010】ICRA2024 横浜		●		
3	【014】ICE2024 びわこ	●		●	
4	【015】HSR2024 長崎	●	●		
5	【016】EPRBioDose2024 弘前	●			
6	【021】IIT2024 富山	●	●	●	
7	【024】ICPE2024 仙台	●	●		
8	【025】15th ICOC 広島	●			
9	【026】IPS24 ／ ICARP2024 広島	●	●		
10	【027】IIAI AAI 2024 高松	●	●		
11	【028】IGLTA 福岡	●		●	●
12	【029】ACCS2024 北九州	●			
13	【031】MSEAS2024 横浜		●	●	●
14	【035】MNC2024 京都		●		
15	【040】SPNHC-TDWG 2024 宜野湾	●			●
16	【041】STS forum 京都	●	●	●	
17	【042】ABC Conference 2024 北九州	●			
18	【046】ISS 名古屋	●			
19	【047】ABMF 熊本		●	●	
20	【051】The 9th GEWEX-OSC 札幌	●			
21	【102】SIHDA 2024 OSAKA 大阪	●			
22	【106】TEAM2024 呉	●			
23	【107】ALC'24 松江	●			
24	【108】HVIS2024 つくば		●		
25	【109】AABE2024 松山			●	●
26	【112】EcoBalance 2024 仙台		●		●
27	【113】OptoX-NANO2024 岡山	●			
28	【114】RIO SYWLC 2024 東京	●			
29	【115】DASFAA 2024 岐阜	●			
合計		22	12	7	5

1）取組の難易度と成果

取組の難易度順は、Ⅰ型＜Ⅱ型＜Ⅲ型となる。Ⅰ型は、エクスカーションを請け負うエージェントが担いCBの業務は手離れが良い。それに対してⅡ型では、関係者との調整に時間と手間を要する。その分、レガシーとして今まで見出すことの出来なかった国際会議における企業連携や視察、学生や市民との連携など新しい成果が生まれている。Ⅲ型ではさらに、過去にはない取組が生まれ、様々な登場人物が新たな関係性を構築し、地域の受け入れレベルを向上させている。

2）型ごとの違いと考察

Ⅰ型は地域の観光資源などを含む様々な豊かな彩りあるエクスカーションが多く見られた。国際会議のテーマに寄り添った内容も多いが、観光地を巡る内容も少なくない。一方でⅡ型は、国際会議のテーマにフォーカスしているため参加者の学術的な要求を満たす内容が大半である。これらから、ⅠⅡⅢ型の選択や複合的な組み合わせなど、地域にあった工夫した企画立案が必要と考える。

支援ツール作成の目的

国際会議誘致に際しては、主催者へ地域の魅力を最大限活用した提案を行うことが効果的である。令和6年度に行われた国際会議の開催効果拡大実証事業では、全国で29の実証事業が行われた。今後、各地で開催された実証事業は自走や横展開に向けて、成果を活用されることが期待される。そこで、各地のCBが参考となり得る取組を学習・検索し、新たな会議誘致に向けての企画・設計等を行う支援ツールを提供する。

支援ツールを構成するもの

第１章　エクスカーションの事例からみる効果的な取組を探す・企画するための5つのアクション

第２章　テクニカルビジットや企業との交流事例から効果的な取組を探す・企画するための3つのアクション

第３章　国際会議の開催効果を高める効果的な取組　セルフチェックリスト

令和6年度 実証事業の成果取組事例集　各事業の取組内容と3分動画

第1章

エクスカーションの事例から
効果的な取組を探す・企画するための5つのアクション

action
1

参加者満足度向上プロセスを考える

イベントや取組を通じて参加者の満足度を継続的に高めるための一連の段階やアプローチを指します。このプロセスは、参加者のニーズを正確に把握し、それに応じた具体的な施策を実行することで、満足度を高める好循環を生み出すものです。

一般的なプロセス例

ニーズ調査	イベント前に参加者の期待やニーズを調査（例：アンケートやヒアリング）。地域性やテーマ性を活かした独自の要素を検討。
↓	
魅力的なプログラムの設計	参加者の期待に応じたコンテンツを設計（例：専門性の高いセミナーや企業視察、地域の文化を取り入れたイベント等）。
↓	
参加者が体験できるコンテンツを用意	地域ならではのコンテンツを準備。また現地での移動、宿泊、食事の利便性や地域性を高める。
↓	
フィードバックの収集と改善	イベント終了後、参加者へはオンラインアンケートを実施。満足度を分析し、改善点を次回に活かす。
↓	
効果の拡散と再訪へのアプローチ	SNSなどを通じて参加者が地域の魅力を情報発信できる仕組みを提供。発信者にはインセンティブなども検討。

action
2

費用対効果を向上させる計画立案を行う

次ページ以降には、事業ごとの実施費用·参加人数、移動距離·参加者満足度などがマッピングされています。
これらを参考に効果的な取組事例を探し、計画·立案してください。

付加価値の創出

参加者の体験価値を高める。地域ならではの特色や特別感を盛り込んだコンテンツプランを提供

感動や体験の共有

参加者自身に広報を促す仕組み（例：SNS投稿キャンペーンや参加者特典）

地域とのコミュニケーション

地域の人々と触れ合う、語り合う、意見交換するなど「人」を通じて学び合う内容は国際会議参加者に有意義な内容

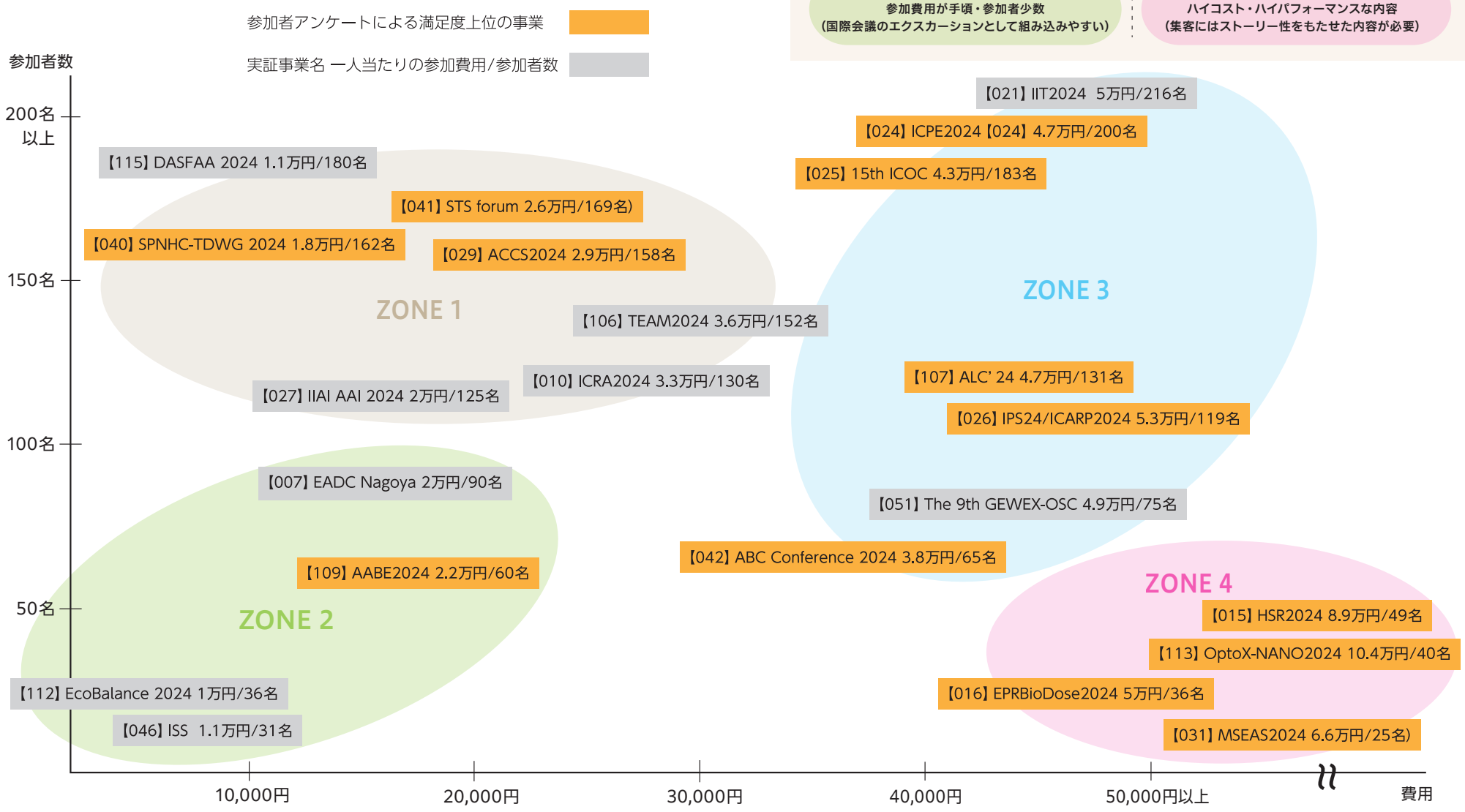
高評価の参加費は4万円以上

参加費用が4万円以上のエクスカーションは高い満足度が得られる実証事業の結果が出ている

action
3 効果的な取組事例を学ぶ・探す

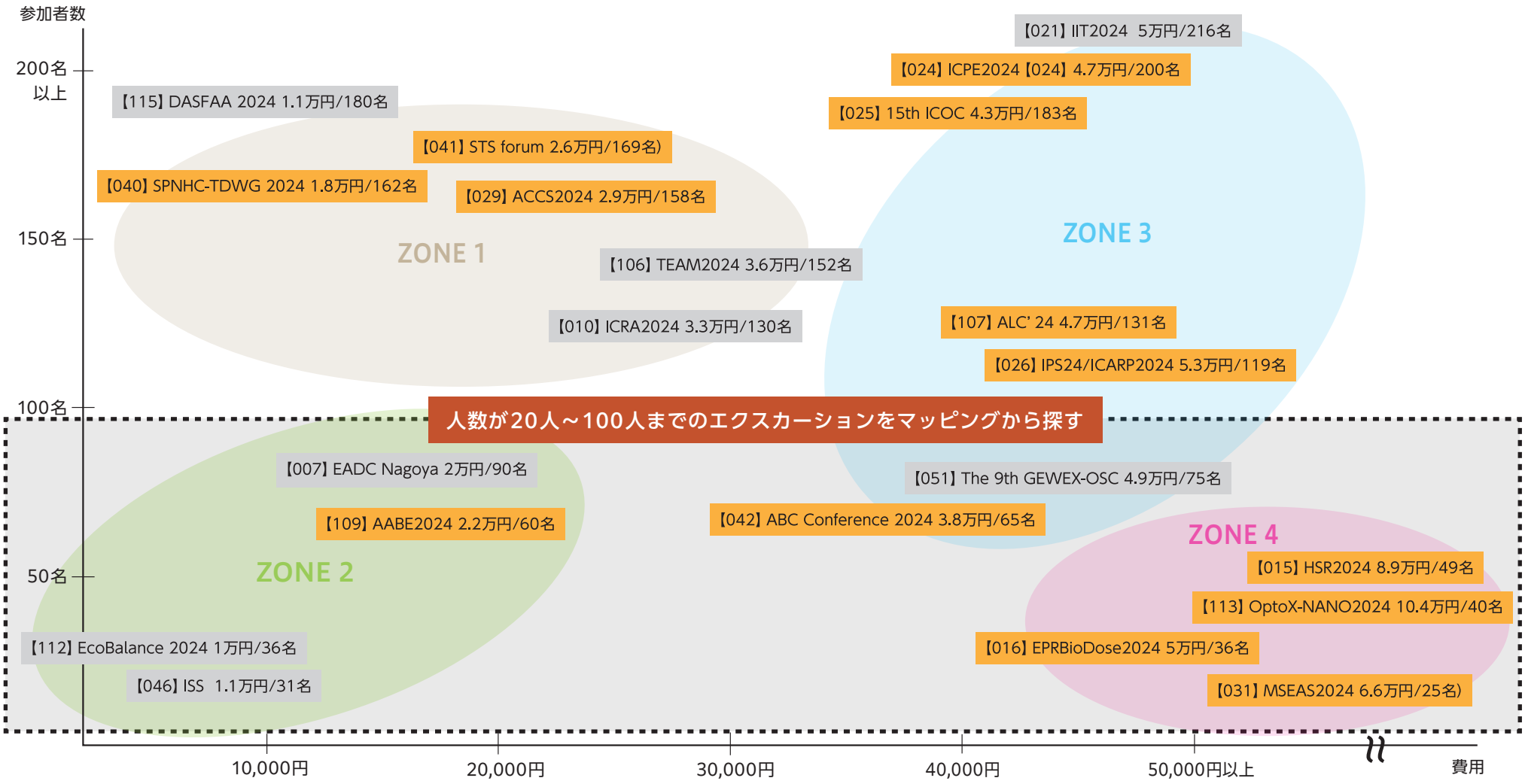
本年度実施された事業は大きく４区分のZONEに分けられる

- ZONE 1：参加費用が手頃・参加者多数（コストが手頃で参加者を集めやすい）
- ZONE 3：コスト高でも内容次第で集客が可能（強いテーマ性を持つ、地域連携で遠方へ訪問）
- ZONE 2：参加費用が手頃・参加者少数（国際会議のエクスカーションとして組み込みやすい）
- ZONE 4：ハイコスト・ハイパフォーマンスな内容（集客にはストーリー性をもたせた内容が必要）



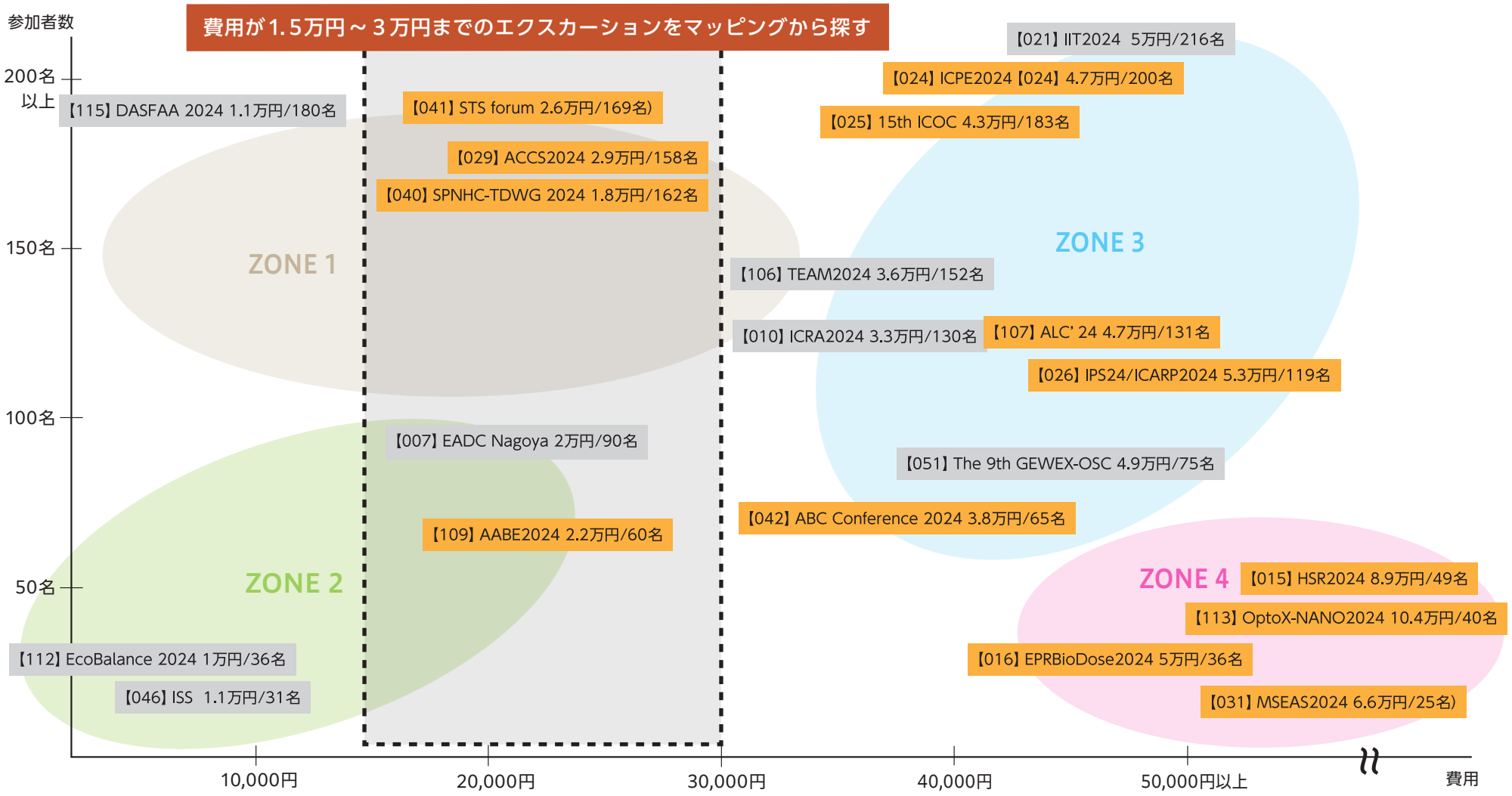
action
4a 人数やコストから事例を絞り込む 人数を絞り込む

参加者アンケートによる満足度上位の事業
実証事業名 一人当たりの参加費用/参加者数



action
4b 人数やコストから事例を絞り込む コストを絞り込む

参加者アンケートによる満足度上位の事業
実証事業名 一人当たりの参加費用/参加者数

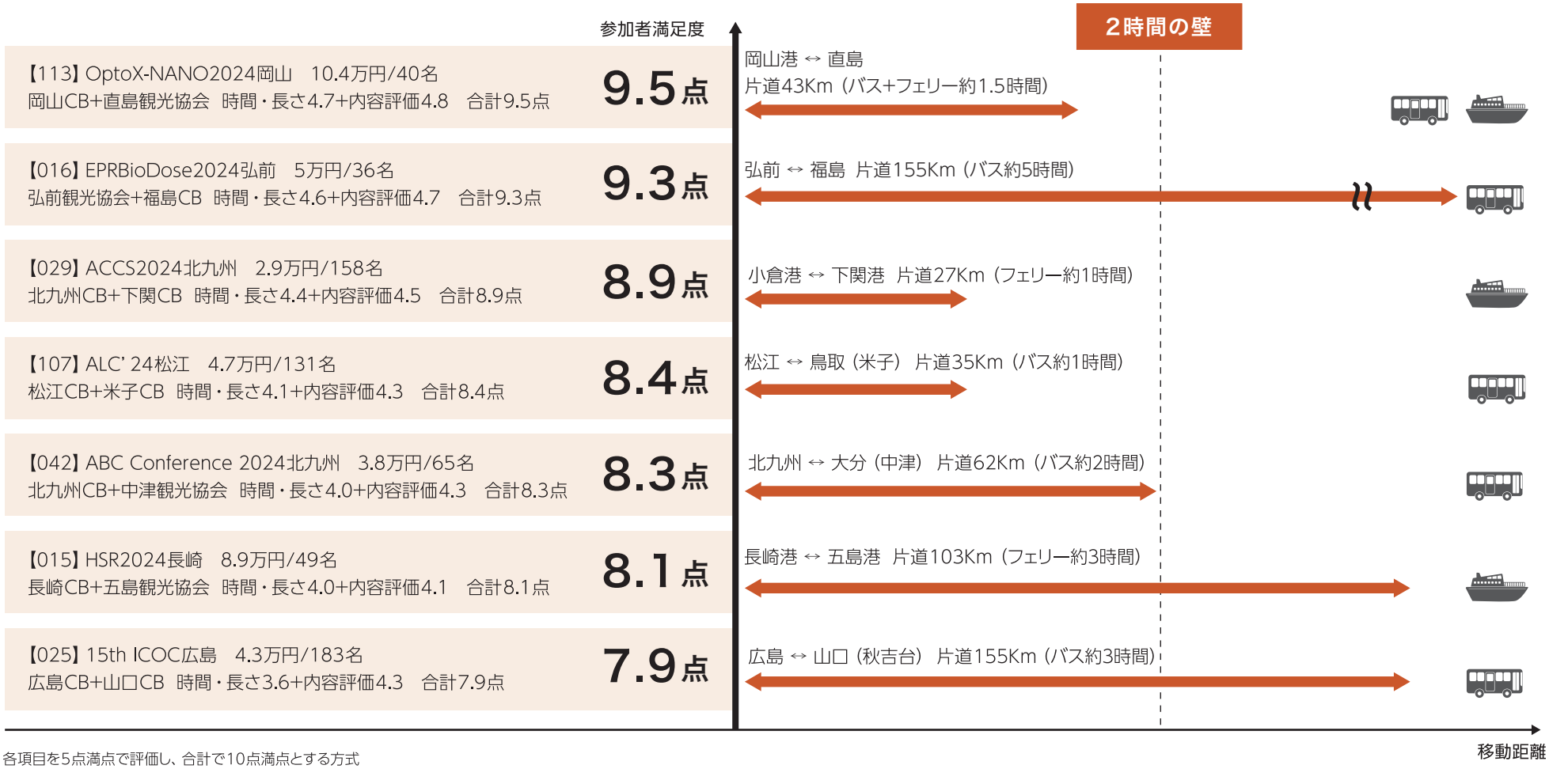


action
5 適切な訪問先がない場合は地域連携で遠出を検討する

開催地においてエクスカーションの適切な訪問先がない場合は、地域連携で遠出の検討は効果的

設計する際のポイント

平均では参加者アンケートからは移動に２時間以内が望ましいとの回答が多いが、２時間を超える場合でも事前に明確な参加目的を示すことができれば成功する。船の利用も有効な移動手段である。



各項目を5点満点で評価し、合計で10点満点とする方式

第2章

テクニカルビジットや企業との交流事例から
効果的な取組を探す・企画するための3つのアクション

action
1 参加者満足度向上プロセスを考える

テクニカルビジットや企業との交流を通じて参加者の満足度を継続的に高めるための一連の段階やアプローチを指します。
このプロセスは、参加者のニーズを正確に把握し、それに応じた具体的な施策を実行することで、満足度を高める好循環を生み出すものです。

一般的なプロセス例

ニーズ調査	テクニカルビジットや企業との交流についてニーズを調査（例: アンケートやヒアリング）。地域性、業種、テクニカルな製造現場の視察などテーマ性を活かした独自の要素を検討。
↓	
魅力的なプログラムの設計	参加者の期待に応じたコンテンツを設計（例: 専門性の高いセミナーや企業視察、地域の文化を取り入れたイベント等）。
↓	
参加者が体験できるコンテンツを用意	地域ならではの体験コンテンツや実演などを準備。また現地での移動、宿泊、食事の利便性や地域性を高める。
↓	
フィードバックの収集と改善	イベント終了後、参加者へはオンラインアンケートを実施。満足度を分析し、改善点を次回に活かす。
↓	
効果の拡散と再訪へのアプローチ	SNSなどを通じて参加者が地域の魅力を情報発信できる仕組みを提供。発信者にはインセンティブなども検討。

action
2 費用対効果を向上させる計画立案を行う

地域事業者など企業を巻き込むためにはビジネスメリット（マッチングのチャンス）を見出すことが重要。

ビジネスマッチングの為のイベント

ビジネスチャンスは、海外参加者の再来日の可能性を高くし、
地域事業者の発展機会を創出する

両者に共通でかつ重要なキーワード

ビジネスチャンス、技術交流、次世代育成、スタートアップ、人材育成等

マッチングイベントを設計する際のポイント一例

- 国際会議のテーマに沿った事業者探しを行う
- 開催地に事業者がない場合は広域連携等で探す
- ビジネスマッチング成功の鍵は、組み合わせの工夫（セミナー、交流会、展示会、ビジネスマッチング、企業視察を適切に組み合わせる）
- 普段見られないレアな企業視察先は満足度が高い
- 交流会は、インタラクティブなコミュニケーションが図れる絶好の機会。積極的な交流を図る工夫も必要
- 円滑なコミュニケーションに通訳は必要
- 海外参加者の平均年齢は若く、地域事業者側も若手育成を兼ねて現場に出す

action
3 効果的な取組事例を学ぶ・探す

◎は最も主たるビジネスイベント
○は連携イベント

	セミナー	交流会	展示会 ビジネスマッチング	企業視察	マッチングイベントの組み合わせの際に工夫した内容
【010】ICRA2024 横浜		○	◎	◎	最新テクノロジーを含むロボット実演の展示会に加え、企業視察と技術交流会を開催
【015】HSR2024 長崎		◎	◎	◎	最先端技術を学ぶテクニカルビジットと1,500名の交流会と展示会を同時開催
【021】IIT2024 富山		○	◎	◎	学生を無料招待し、研究者や企業と交流。次世代を育成する仕組みの高度な運営
【024】ICPE2024 仙台	○	○		◎	一般公開していない学術施設（ナノテラス）視察後に、サテライト会議・交流会で、情報共有
【021】IIT2024 富山		○	◎	◎	学生を無料招待し、研究者や企業と交流。次世代を育成する仕組みの高度な運営
【026】IPS24 ／ ICARP2024 広島		○		◎	一般公開していない半導体工場の視察等普段見られない企業視察先のセッティング
【035】MNC2024 京都	◎	◎	○		技術セミナーと交流会を通じて地元企業と会議参加者の交流を実施
【108】HVIS2024 つくば		○	◎		宇宙産業に関わる企業関係者の展示会へ訪問し、情報交換

第3章

国際会議の開催効果を高める
効果的な取組セルフチェックリスト

実施計画を確認するチェックリスト

● チェックリストの使い方

令和６年度の全29事業における課題等を整理した取組チェックリスト

テーマごとに計画の妥当性を探る

取組内容からヒントを探る

効果項目から最大化を図る

より効果的な実施計画へ
（チェックリストは誘致用提案書等にも利活用可）

カテゴリー	テーマ	☑	取組	効果	重要度
エクスカーション編	訪問先・企画内容		帰国時に報告できる内容を企画する	一般観光が中心であれば、研究者や大学、行政関係者は公費参加の対象外となる	高
			プレやポストカンファレンスツアーなどの位置づけを検討する	オフィシャルなツアーは、多くの参加者を集めることができる	高
			一般観光との差別化を図る	一般観光は個人でレンタカーを借りるなど個人旅行の傾向が増えている	
			移動距離は２時間以内が好まれる	移動距離は短いほうが良いとの傾向があり、募集時に気軽さを PR することができる	
			移動距離が２時間以上の場合は腹落ちするストーリー性が必要	移動距離が長くても、それなりに価値を訴求できる内容であれば参加者は集まる	
			県外など広域エリアの訪問は内容次第で効果的	様々な訪問先やコンテンツの組み合わせが可能となり充実した内容となる	
			観光スポットや見どころはレアな場所やコンテンツが好まれる	有名な場所よりも希少性、珍しい場所などの内容が好まれる	
			雨天時や台風などの悪天候時のバックアッププランを用意する	急な状況変化にも慌てずに対応ができる	
	募集時		国際会議参加登録と同時にエクスカーションの受付を行う	後日の募集は効果が半減（参加登録時に往復フライトを予約するため）	高
			募集時に年齢や参加国別等を把握する	平均年齢が低いと食事は多めの手配が必要。国別は食の多様性等の配慮に役立つ	高
			有料で募集する	無料は no show など当日キャンセルが出やすい	
	移動		バスにおける弁当などの食事はハラル対応なども考慮	食の多様性に対応	高
			海に囲まれた日本は船を利用した移動も海外には人気	景色が豊かな船のゆったりとした移動はエクスカーションに彩りを添える	
			バス移動中はガイドや通訳で地域の解説を行う	地域の特徴や歴史・文化・裏話などを紹介する	
			バス移動中に地域のプロモーションビデオなどを上映する	地域をより具体的に学ぶことができる	
			長距離移動は車内でのイベントやガイド、降車後のショッピングなど工夫をする	気分転換を挟み、長距離移動での疲れを緩和させる	

カテゴリー	テーマ	☑	取組	効果	重要度
エクスカーション編	飲食や パフォーマンス		食の多様性を十分に考慮する	ベジタリアン、ヴィーガン、ハラル対応などを準備し、表示も工夫する	高
			日本酒などの地酒、地ビール、ワインなどは人気がある	各地域の特産品を用意する	高
			カトラリーは箸と洋食用の両方を用意する	各国からの参加者を考慮する	高
			地域の余興などの披露は重要	体験型にするとより満足度が向上する	高
			市長挨拶など歓迎スピーチは効果的	地域を代表してのウェルカムメッセージは海外では重要な取組	
			アルコールの飲み比べ等は、余興として盛り上がる	各地域をより深く理解してもらう機会となる	
			会場に制限がある場合は、キッチンカーなどの活用も検討する	公的な施設は飲食の制限がある場合があり、その場合の工夫方法として役立つ	
			試食や即売のコーナーを設けることもアイデアとして有効	お土産として人気の地域特産品がある場合は役立つ	
			参加者同士のコミュニケーションが相互に図れる工夫を行う	知らない参加者の組み合わせになるような工夫を実施する	
			託児施設を用意する	お子様連れの方でも参加しやすい環境づくりを行う	
	ガイド・通訳		地域を熟知したガイド・通訳の手配は重要	クオリティーのばらつきがないようにする。マニュアル等あればさらに良	高
			SNS などのホットスポットやコンテンツを紹介する	参加者が SNS 上で自分の体験を拡散し、より日本の魅力が外部へ発信される	高
			日本と海外の文化や習慣の違いや裏話等を解説する	より日本への興味や関心につながる。再来日性も高まる	高
			ガイド・通訳の事前研修は効果が絶大	国際会議の専門性を事前学習することで会議テーマの専門用語を理解し参加者へ説明	
テクニカルビジットや企業・学生との交流編	訪問先・企画内容		帰国時に報告できる内容を企画する	一般観光が中心であれば、研究者や大学、行政関係者は公費参加の対象外となる	高
			国際会議のテーマに沿った企業訪問等の内容を検討する	日本の先端技術、文化、伝統工芸、ポップカルチャーなど様々なテーマが対象となりえる	高
			普段見れない・外部公開していないなどレアな訪問先を探す	希少性が増し、参加者の満足度が向上する	高
			企業探しは自治体や商工関係者等を巻き込み連携を図る	複数の視察先確保や関連した企業を見出すことで新たなビジネスの連携を創出する	
			移動距離は 2 時間以内が好まれる	移動距離は短いほうが良いとの傾向があり、募集時に気軽さを PR することができる	
			移動距離が 2 時間以上の場合は腹落ちするストーリー性が必要	移動距離が長くても、それなりに価値を訴求できる内容であれば参加者は集まる	
			県外など広域エリアの訪問は内容次第で効果的	様々な訪問先やコンテンツの組み合わせが可能となり充実した内容となる	
			スタートアップ企業など新しいビジネスモデルは参加者に 人気がある	〃	
			観光スポットや見どころはレアな場所やコンテンツが好まれる	有名な場所よりも希少性や珍しいなど内容が好まれる	
			雨天時や台風などの悪天候時のバックアッププランを用意する	急な状況変化にも慌てずに対応ができる	
	募集時		国際会議参加登録と同時にテクニカルビジットの受付を行う	後日の募集は効果が半減（参加登録時に往復フライトを予約するため）	高
			募集時に年齢や参加国別等を把握する	平均年齢が低いと食事は多めの手配が必要。国別は食の多様性等の配慮に役立つ	高
			プレやポストカンファレンスツアーなどの位置づけを検討する	オフィシャルなツアーは、多くの参加者を集めることができる	
			有料で募集する	無料は no show など当日キャンセルが出やすい	
	移動		バスにおける弁当などの食事はハラル対応なども考慮	食の多様性に対応	高
			海に囲まれた日本は船を利用した移動も海外には人気	景色が豊かな船のゆったりとした移動はエクスカーションに彩りを添える	
			バス移動中はガイドや通訳で地域の解説を行う	地域の特徴や歴史・文化・裏話などを紹介する	
			長距離移動は車内でのイベントやガイド、降車後のショッピングなど工夫をする	気分転換を挟み、長距離移動での疲れを緩和させる	
	学生との連携		地域企業との交流を通してリクルートなど就活にもつなげる	より高度な人材を求める企業は国際会議に関わる学生を歓迎する	高
			学生の参加を通して国際会議の開催意義を理解してもらう	国際会議に関心のある学生は、未来の研究者や主催者へとなる可能性がある	
			ワークショップなど参加者との交流の場は新たな経験となる	〃	
			高校生や大学生をボランティアとして活用する	活動を通して海外参加者と触れ合うグローバル感覚や地域の企業の取組を理解してもらう	

カテゴリー	テーマ	☑	取組	効果	重要度
テクニカルビジットや企業・学生との	飲食やパフォーマンス		交流会やネットワーキングを通じて参加者と企業がコミュニケーションを図る	情報交換やビジネスチャンスを得る機会は双方にとって有意義な取組	高
			食の多様性を十分に考慮する	ベジタリアン、ヴィーガン、ハラル対応などを準備し、表示も工夫する	高
			日本酒などの地酒、地ビール、ワインなどは人気がある	各地域の特産品を用意する	高
			カトラリーは箸と洋食用の両方を用意する	各国からの参加者を考慮する	高
			地域の余興などの披露は重要	体験型にするとより満足度が向上する	高
			交流会の会場内に企業をブースなどを設営し取組を PR する	情報交換やビジネスチャンスを得る機会は双方にとって有意義な取組	
			アルコールの飲み比べ等は、余興として盛り上がる	各地域をより深く理解してもらう機会となる	
			会場に制限がある場合は、キッチンカーなどの活用も検討する	公的な施設は飲食の制限がある場合があり、その場合の工夫方法として役立つ	
			試食や即売のコーナーを設けることもアイデアとして有効	お土産として人気の地域特産品がある場合は役立つ	
			参加者同士のコミュニケーションが相互に図れる工夫を行う	知らない参加者の組み合わせになるような工夫を実施する	
			託児施設を用意する	お子様連れの方でも参加しやすい環境づくりを行う	
	ガイド・通訳		地域や産業を熟知したガイド・通訳の手配は重要	クォリティーのばらつきがないようにする。マニュアル等あればさらに良	高
			SNS などのホットスポットやコンテンツを紹介する	参加者が SNS 上で自分の体験を拡散し、より日本の魅力が外部へ発信される	高
			日本と海外の文化や習慣の違いや裏話等を解説する	より日本への興味や関心につながる。再来日性も高まる	高
			ガイド・通訳の事前研修は効果が絶大	国際会議の専門性を事前学習することで会議テーマの専門用語を理解し参加者へ説明	
その他 新規性が高い 効果的な取組	地域における誘致・運営レベルの強化		サステナブルな MICE 運営を行う	SDGs やサステナブルな取組は世界的な潮流で参加者および地域に効果をもたらす	
			気候変動を見える化した取組は参加者にとっても重要な価値がある	〃	
			食の多様性に対応する講習会やメニュー開発を行う	ベジタリアン、ヴィーガン、ハラル対応などは国際会議誘致にも重要な武器となる	
			LGBTQ に対応する講習会や運営の取組を行う	海外の様々な多様性の受け入れ体制を強化する	
			学生等の MICE ボランティアを組織化し受け入れ体制を強化する	地域で開催する国際会議の受け入れレベル向上	
			新規コンテンツを MICE 向けに導入する	新たな切り口で満足度を高める	

令和6年度 実証事業の成果取組事例集

各事業の取組内容と3分動画

※ QRコードのリンク先は令和7年3月中旬まで有効

観光庁 Japan Tourism Agency

第12回東アジア地域ダム会議

概　　要　日本・中国・韓国の3カ国による、ダム事業の持続可能な維持発展を目指す国際会議

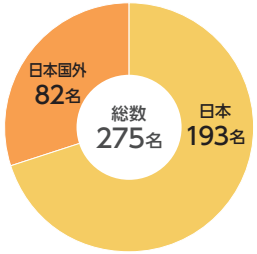
実証事業名　国際学術会議活動の情報発信強化による関連インフラ施設と周辺の観光資源化の促進

成　　果　**ダムの開発と整備が進んだ日本。ダム巡りも新たな地方の観光資源になり得る。**

会議テーマの「ダム」に関連した、二県（長野県・岐阜県）のダムを訪問するエクスカーション。
周辺観光地への立ち寄りと日本酒の紹介で、学術面のみならず文化面でも地方観光資源の掘り起こしを行う。

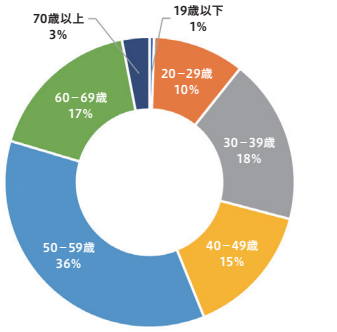
実証事業内容詳細

参加者情報 （参加国含む）	国際会議参加者：275名 （うち日本国外：82名） 実証事業参加者：178名 （うち日本国外：109名） 参加国　　：15か国
事業内容	名古屋→小渋ダム→馬籠宿→新丸山ダム→小里川ダム→恵那峡の2日間のツアー。ダムマイスターによるSNS発信。 国際的ダム工学ジャーナル記者を招聘し、全世界への情報発信。
事業のポイント	会議のテーマである「ダム」を訪問する広域にわたるエクスカーションにより、インバウンド効果の少ない地方観光資源の掘り起こしに成功。 ／ 海外メディアの招聘によってダムの魅力＋地方の観光資源が広く海外へ情報発信された。
事業の継続性	ダムと関連する広範囲な地域資源や可能性の魅力を伝えることにより、誘致の可能性の幅を広げていく。岐阜の他地域との連携も模索。



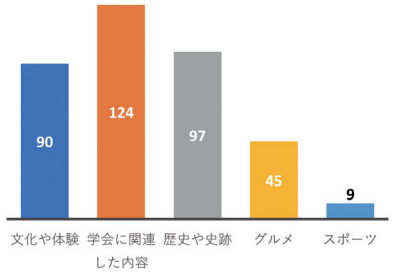
アンケート結果　集計数196名

地域と連携した企画内容の満足度



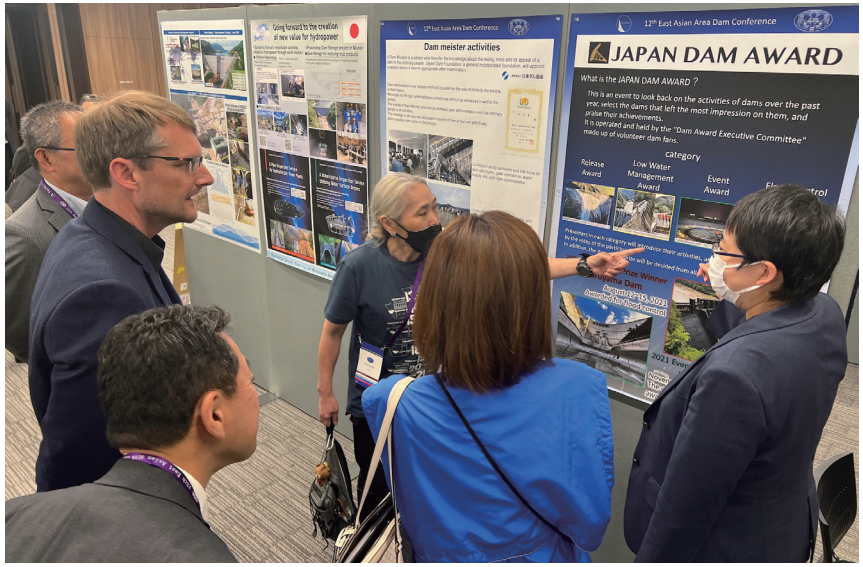
【設問：年齢構成】
50歳以上が半数以上を占める。

【設問：国際会議の成果・満足度】
年齢層が高めであったが、広域ツアーでも高い満足度を誇る。



【設問：好みのエクスカーション等】
学会に関連した内容を希望する声が多く、好みにあったエクスカーションといえる。

【007】EADC Nagoya　事務局レポート



ダムマイスターのポスタープレゼンテーションを取材する国際専門誌の記者

わが国のダム施設を観光資源化した
「ダムカレー」

ダムが望める公園に設置された看板

コレクターも多い「ダムカード」

建設中の新丸山ダムでは、完成後のダムを
バーチャルリアリティーで紹介

テクニカルツアーで、取材以外に参加者の
見学をサポートするダムマイスター

丸山ダムの広報誌
この発行にもダムマイスターが貢献

わが国独特のダム文化
観光資源化と国際的な評価

日本のダムは、世界的に特異な存在として注目を集めている。長野県の小渋ダムや岐阜県の新丸山ダム、恵那峡などがその代表例だ。これらのダムは、地域住民や観光客に対し広く公開され、安全性を保ちながら多くの見学者を受け入れている。一方で、海外のダムでは安全上の懸念やセキュリティの観点から一般公開が制限されていることが多く、日本独特の開かれた姿勢が際立っている。この特徴は、海外メディアや学会参加者からも高く評価されている。第12回東アジア地域ダム会議では、ダムマイスターらが同行するテクニカルツアーを通じ、参加者がダムと周辺観光地の両方を体験した。観光と技術見学を分けるべきという意見がある一方、観光を通じて日本文化への理解が深まるという肯定的な意見も聞かれた。ダムが単なるインフラを超え、地域文化や観光を支える多面的な価値を発揮している点が改めて浮き彫りになった。

ダムマイスターの力
SNSと現場でつなぐ魅力の発信

ダムマイスターは、ダムの魅力を広めるボランティアであり、日本ダム協会が認定するダム愛好家だ。彼らは専門知識と情熱を活かし、SNSやメディアでの情報発信やダムの紹介を通じて、ダムの実態や役割を広く伝えている。第12回東アジア地域ダム会議では、彼らの活動が一層際立った。岐阜県の馬籠宿や新丸山ダムなどを巡るテクニカルツアーでは、丁寧な解説で参加者の理解を深め、地域の文化や観光地とのつながりをアピールした。また、SNSを通じたリアルタイムの情報発信が、学会以外の一般層にも強い影響を与えたことは特筆に値する。最終日のフェアウェルパーティでは、ダムマイスターが撮影した写真をスライドショーで紹介し、多くの参加者から関心を集めた。英国の専門誌「Hydropower & Dams」もこの活動に注目し、日本独特のダム文化を取り上げた。彼らの活動は地域と国際社会をつなぐ架け橋として、新たな価値を創出している。

観光庁 Japan Tourism Agency

ロボット工学とオートメーションに関する国際会議2024

概　　要　ロボット工学とオートメーションの科学技術に関する会議

実証事業名　日本各地の企業・大学と国外研究者との連携を促進するロボット博覧会&テクニカルツアー

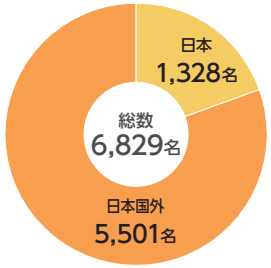
成　　果　日本が誇る最先端のロボットテクノロジーを活かした内容は◎。日本の輸出産業発展に貢献。

ロボットのデモンストレーションを行い、交流・議論を活性化。テクニカルツアーでは研究開発拠点を訪問。ツアーに参加できない参加者の為、訪問先研究者を招待し、技術交流会も開催。

実証事業内容詳細

参加者情報（参加国含む）

国際会議参加者：6,829名
（うち日本国外：5,501名）
実証事業参加者：130名
ICRA Technical Tour　（うち日本国外：50名）
参加国　　：66か国



事業内容

サイトビジット（産総研、MUJIN 等）、本会議場にてロボットデモンストレーションを開催。

事業のポイント

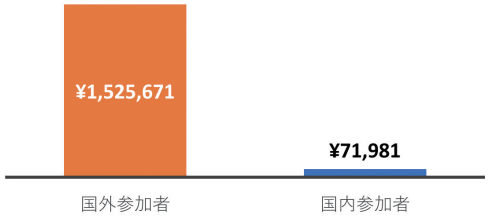
同会議初となるロボットデモンストレーションを行い大変好評となる ／ 専門性の高いテクニカルツアーにより最先端の研究開発環境をアピール。また、滞在日数増加につながる ／ 学生ボランティア・中高生対象のロボット展示ツアー等若者を参画させる取組は次世代への貢献大。

事業の継続性

ロボット実機の輸送費、電源容量設備が課題 ／ツアー訪問先は、リクルート目的でも受入に期待。マッチング機会の創出。

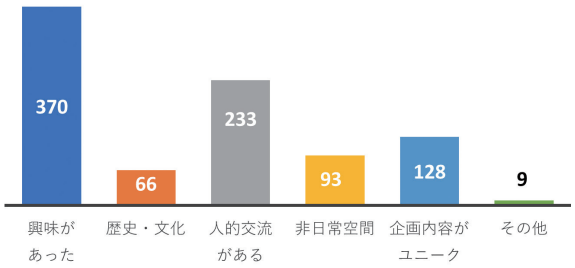
アンケート結果　集計数1,376名

専門性の高いサイトビジットの満足度



【設問：消費額平均】

平均金額で150万を超えている。交流を活性化した為、商談があった可能性も考えられる。



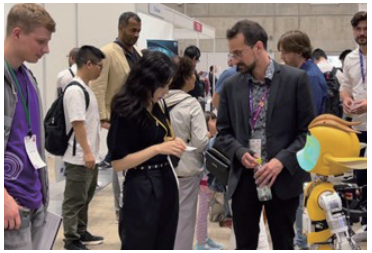
【設問：参加した理由】

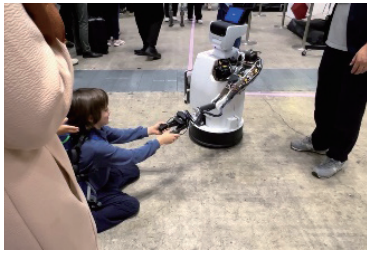
専門性の高いテクニカルツアーで興味関心が高い。

【010】ICRA2024　事務局レポート

観光庁
Japan Tourism Agency

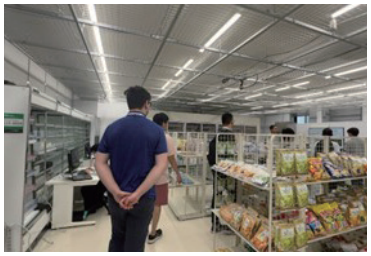
ロボットが一堂に会し行進するパレードには人だかりができた


会場内では至る所で名刺交換や
技術交流、面談が行われた


EXPOには一般の方も幅広く参加
家族連れの研究者の姿も多く見られた

技術交流会では世代や国を超えて
多くの交流がうまれた

技術交流会での訪問先企業からの
プレゼンテーションは、ツアー不参加者に
とっても有用な試みであった


テクニカルツアーでは様々な
企業、研究機関、大学を訪問

訪問先企業の社員と共に昼食をとり、
親睦を深めた

ロボット輸送支援で実現したロボットデモンストレーション

研究者がロボットを持参し、デモンストレーションやディスカッションを実施するという、この規模の国際会議として初めての試みが行われた。この取組を支えるため「Robot Travel Support」という仕組みを導入した。ロボットの輸送費は高額になる場合が多く、日本国外からの出展数が減少する懸念があったため、輸送費の補助が必要な申請者を審査し一定額の補助を行うことで、出展数の確保につなげた。また、この支援により、費用不足による出展キャンセルを防ぐ効果もあったと考えられる。補助対象者の選定基準の策定や、費用捻出などの課題はあるものの、今後も引き続き輸送支援を検討していく予定。
ロボットデモンストレーションの参加者からは「実物を見ることで実際の動きが良く分かった」などという意見が寄せられた。

テクニカルツアーだけで終わらない！
技術交流会を組み合わせた新たな試み

テクニカルツアーでは、日本を代表するロボティクス研究メーカーや国の研究機関、東京大学の研究室など、計7か所に延べ190人が訪問した。研究室の受け入れ人数に限りがあるため、募集後すぐに満席となり、大変な盛況ぶりを見せた。参加者からは次のような感想が寄せられた。
・日本の最先端研究施設では、実践的な応用を学ぶことができた。
・コンビニエンスストアでのロボットのデモが特に印象に残った。
・多種多様な産業用ロボットが一つの建物に集まっており、素晴らしいと感じた。
今回の特徴として、訪問だけで終わらず、その後に「技術交流会」が開催された。この交流会には、訪問先企業や研究所の担当者も参加。参加者との交流に加え、プレゼンテーションの時間も設けられ、テクニカルツアーに参加できなかった方にも技術交流の機会が提供されるユニークな試みとなった。

観光庁 Japan Tourism Agency

第27回国際昆虫学会議

概　　要　昆虫学全般にわたる最も包括的な国際会議

実証事業名　京都開催MICEから滋賀県へのエクスカーション・プログラム開発

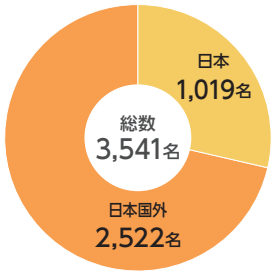
成　　果　**昆虫観察や採集など、体験フィールドワーク型、新しいエクスカーションの展開。**

京都で開催された国際会議でエクスカーション先を滋賀県に設定。広域連携の企画成功例。主催者側のフィールドワークが滋賀にあり、会議に沿った昆虫観察のツアー等を計画。（台風により中止）

実証事業内容詳細

参加者情報（参加国含む）

国際会議参加者：3,541名
（うち日本国外：2,522名）
参加国・地域　：73の国・地域



事業内容

昆虫観察や、座禅体験等滋賀県5つのツアーを計画。
滋賀県のMICE・観光ブース出展と物産販売を実施。

事業のポイント

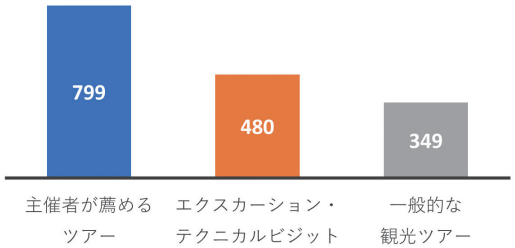
主催者側のアイディアを基に、PCOが計画、滋賀県VBと連携の打ち合わせを行い、実現可能に。ツアー内容はJTBに依頼し、運営を依頼。主催者・滋賀県VB・PCOの連携が成功した例。 ／ 今までの事例に捕らわれず、身近なフィールドワークの場所にスポットライトを当てる新規性が高い。

事業の継続性

横展開が可能。本事業を通して新たな訪問先や主催者へのアプローチ手段が強化される。

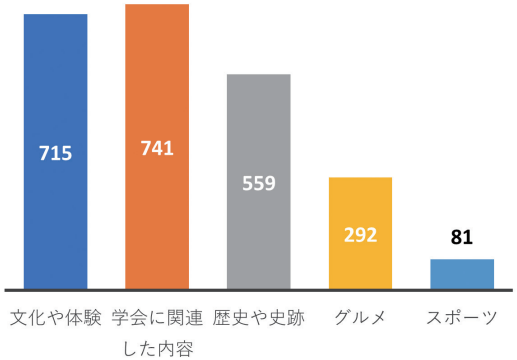
アンケート結果　集計数1,127名

地域と連携した企画内容の満足度



【設問：魅力的なプログラムの種類】

先生方が提案されたツアーを予定。主催者が薦めるツアーへの期待が感じられる。

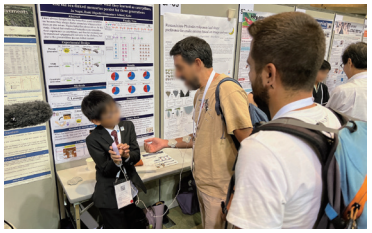


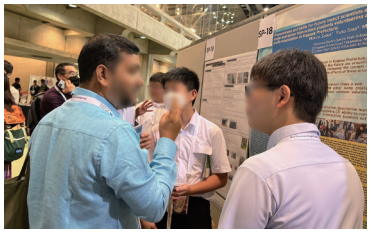
【設問：実証プログラムによる変化】

滋賀県まで足を延ばすことにより、国際会議のテーマに基づく体験が可能であった。実施されていれば、高い満足度を得たであろう。

【014】ICE2024　事務局レポート

滋賀県、MKタクシー、JTBのブースにて国際会議参加者の滋賀県訪問を提案


ツールを活用して海外参加者にプレゼンする小学生


海外参加者とディスカッションする高校生

多くの会議参加者が訪れポスターに見入っていた

海外参加者に人気のガチャガチャミニチュアの昆虫が入っていた

昆虫食も販売していた特設のスーベニアショップ

精巧に折られた、さまざまな昆虫オリガミ

昆虫観察と日本文化体験

ICE2024では、滋賀県VBと連携して多彩なエクスカーションを企画していた。ツアー内容には、三井寺での禅体験、信楽での信楽焼絵付け体験、琵琶湖博物館の見学、琵琶湖クルーズに加え、滋賀県高島市での昆虫観察も含まれていた。これらは、日本の自然や文化を深く感じる機会を提供するとともに、研究者同士の交流を促進することを目的としていた。しかし、台風の接近により、全てのツアーとイベントは中止となった。昆虫観察は、市民参加型イベントとして、滋賀県高島市のグリーンパークと想い出の森で行われる内容で、昆虫の生息環境を間近で体験し、昆虫学への関心を深める貴重な機会となる予定だった。参加者からは、「陶芸が好きなので信楽焼の体験を楽しみにしていた」、「無料のツアーを通じて他の研究者と交流できる機会がありがたかった」といった声が寄せられた。

自然の美しさと創造性が交わる昆虫アートの世界
折り紙やスーベニアで彩られた昆虫の魅力を紹介

滋賀県のびわこビジターズビューローによる滋賀・びわ湖×MICEのご提案及び滋賀県観光のブース出展と物産販売が行われた。びわこビジターズビューロー以外にもMKタクシー、JTBもブースを出展し国際会議参加者の滋賀県訪問をサポートしていた。

「昆虫」をテーマにした展示では、絵画や写真のコンテスト入賞作品が並び、昆虫のイラストをあしらった歴代の日本カワゲラ懇談会公式Tシャツが、まるで絵画のように飾られていた。また、世界的に人気の「折り紙」で作られたさまざまな昆虫が展示され、来場者の注目を集めていた。メインホールに隣接するホワイエには、昆虫関連の書籍やキーホルダー、トートバッグなどのグッズが並ぶスーベニアショップが出展され、昆虫食も販売されていた。ポスター会場近くに設置された「ガチャガチャ」には、海外からの参加者が大勢集まり、昆虫のミニチュアを手にした姿が多く見られた。

未来の研究者たちが昆虫学会議で輝く
小中高生によるポスタープレゼン、海外参加者も注目

京都国際会館では多彩な取組が行われ、その中でも特に注目を集めたのが「小中高生によるポスター発表」だった。海外参加者から寄せられた英語の質問に流暢に答える高校生や、翻訳サービスを利用して英文資料を事前に作成した小学生も見られ、その積極的な姿勢が参加者の注目を集めていた。このような経験が、昆虫学や科学全般における日本の研究力向上や、世界的なイニシアティブの獲得、確立につながることが期待される。

観光庁 Japan Tourism Agency

第8回保健システム研究グローバルシンポジウム

概　　要　保健政策やシステムの研究者、実務者が参加する世界最大の保健分野シンポジウム

実証事業名　介護、防災、環境、障がい者支援、地産地消のイノベーション博覧会

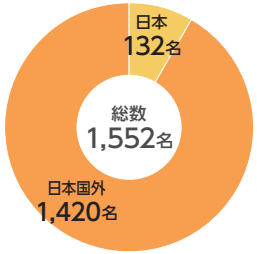
成　　果　**世界中から長崎へ110カ国・1,552名が参加。離島医療の実態を現場で学ぶエクスカーションは効果的。**

五島市での離島医療の最先端技術を学ぶテクニカルビジットと情報交換会を実施。また、介護、防災、環境、障がい者支援、地産地消分野の先進的な取組を展示するイノベーション博覧会を開催する。

実証事業内容詳細

参加者情報（参加国含む）

国際会議参加者：1,552名
（うち日本国外：1,420名）
実証事業参加者：1,552名
（うち日本国外：1,420名）
参加国　　：110か国



事業内容

長崎県五島市で、医療・介護・保健サービスのテクニカルビジットを実施。イノベーション博覧会では12社の企業ブース出展もあり。

事業のポイント

初の大規模国際会議をビジネスチャンスと捉え、自治体、長崎大学、事業者等が一体となってオール長崎で受け入れ体制を構築。 ／ 離島エクスカーションを国際会議のコンテンツとして開発し成功。

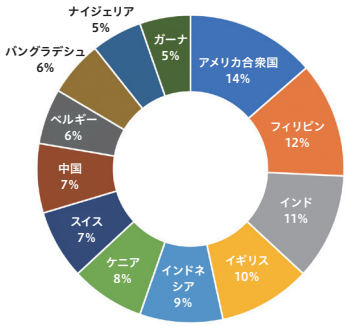
事業の継続性

離島をエクスカーションとして活用できる事例が構築できた。 ／ 大規模な国際会議のオペレーションをどう克服するかなどの課題解決

アンケート結果　集計数511名

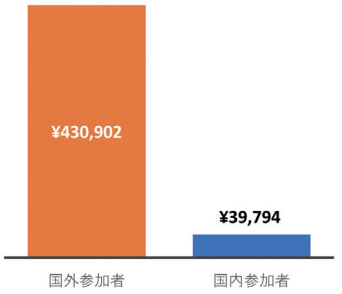
地域と連携した企画内容の満足度

3B. 参加国（66カ国）	
アメリカ合衆国	28
フィリピン	25
インド	23
イギリス	20
インドネシア	18
ケニア	16
スイス	15
中国	15
ベルギー	12
バングラデシュ	12
ナイジェリア	11
ガーナ	11
その他	155
合計	361



【設問：参加国】

24カ国からの参加者より回答を得た。全大陸から長崎に集結した。約6割が初来日で、日本をよく知るきっかけとなった。



【設問：消費額】

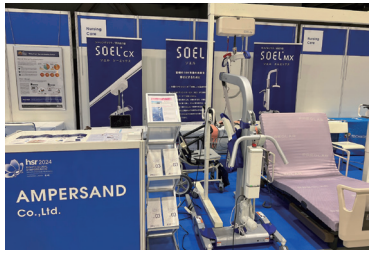
各国から来た参加者の消費額が43万円と平均を大きく上回る内容となった。

【015】HSR2024　事務局レポート

モバイルクリニックにて遠隔診察を受ける参加者

ドローンを実際に飛ばして、
治療薬を空から配達

五島市の食材であることを魅力的に明記し
食のPRを展開



企業ブースは機材展示・体験も可能

1,500名余りが参加した
イノベーション博覧会

ハラル対応の焼きそばも提供

障がい者支援のブースも設置された

離島地域におけるドローンによる医薬品配送を視察
様々な国で活用できる新たな輸送方式

長崎大学は、五島市国保健康政策課、久賀診療所、玉之浦診療所、株式会社福江薬局、そらいいな株式会社と協働し、離島地域におけるドローンによる医薬品配送の実証研究を行っている。この研究は、調剤薬局がないへき地診療所において、ドローンを用いて医薬品を配送し、オンライン服薬指導を行うものだ。研究期間は2023年8月10日から2025年3月31日の予定。研究の目的は、離島における治療選択肢の増加、診療所の在庫量の適正化、廃棄量の削減、医療格差の是正である。アフリカの参加者からは、「私達のクラスエリアも交通網が発達していないのでこのような輸送システムが入手できると医療現場の課題が解決する」と話していた。コロンビア出身の看護師は「地理的に森も多く手が行き届かない地域への解決策になり、今日体験したことは自国で、システムの導入を取り入れたい」と興奮気味に語ってくれた。

実演フライトを間近で確認、近未来のロジスティクスに参加者は驚き

長崎県五島で行われたドローン医薬品配送の視察では、ドローン技術が離島地域の医療アクセスを大きく改善する可能性を感じ、特に緊急時の迅速な医薬品配送への期待が高まった。視察を通じて、ドローン運用が地域医療従事者の負担軽減にも役立つことが確認された。また、医療関係者からは、ドローン配送の実用性と効率性に感銘を受けたという声が多く上がり、今後の普及への期待がますます高まっている。

110カ国からの参加者を一堂に集めたレセプション

出島メッセの会場には、入りきれない参加者が押し寄せた。イノベーション博覧会という地域の出展企業の展示会とレセプションを同時開催。長崎ならではのランタンに彩られた屋台が軒を連ね、ハラル対応の飲食も提供された。参加者からは「日本の素晴らしさを満喫した。テクノロジー、医療、自然、食べ物。どれをとっても日本の価値がクール」と感動を語っていた。

観光庁 Japan Tourism Agency

第14回電子スピン共鳴による線量評価・年代測定及び第9回国際生物学的線量評価に関する合同国際会議

概　　要

電子スピン共鳴(EPR) および細胞遺伝学的手法を用いた
放射線の生物学的線量評価に関する国際学会

実証事業名

開催都市外でのエクスカーション

成　　果

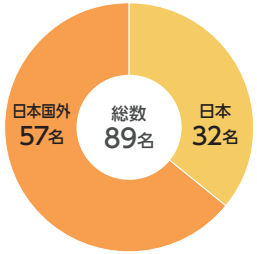
青森県弘前市から東電福島第一原発を視察。バスで往復10時間の移動も乗り越え、参加者からは感謝の声。

東日本大震災・原子力災害伝承館の見学、福島イノベーション・コースト構想の紹介、浪江町の教育再生、東電福島第一原発の視察、福島県産食材の安全性理解を通じ、複合災害や復興・再生の取組を学ぶ。

実証事業内容詳細

参加者情報
(参加国含む)

国際会議参加者：89名
（うち日本国外：57名）
実証事業参加者：36名
（うち日本国外：30名）
参加国　　：19か国



事業内容

弘前大学での会議終了後、弘前→福島へ移動し、
東日本大震災以降の復興に関する長距離エクスカーション。

事業のポイント

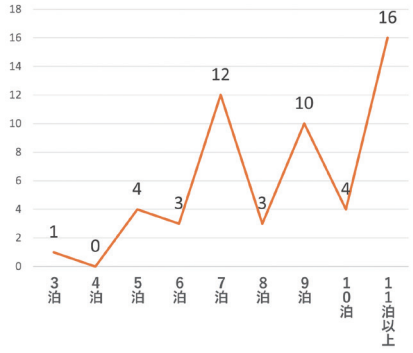
国際会議は線量評価をテーマにした会議であったため、弘前から福島への移動は参加者の負担も懸念されたが福島CBとの連携により実現し成功した。

事業の継続性

訪問した双葉郡は「再生」という次のステップに挑戦している。この取組に国際会議としていかに寄与できるかが重要である。

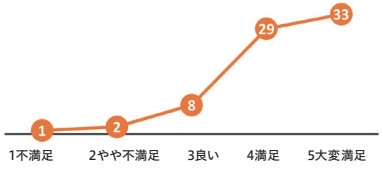
アンケート結果　集計数73名

地域と連携した企画内容の満足度



【設問：滞在日数(日本)】

7泊以上が大半を占めた。本事業への参加も含め長期間の滞在となった。

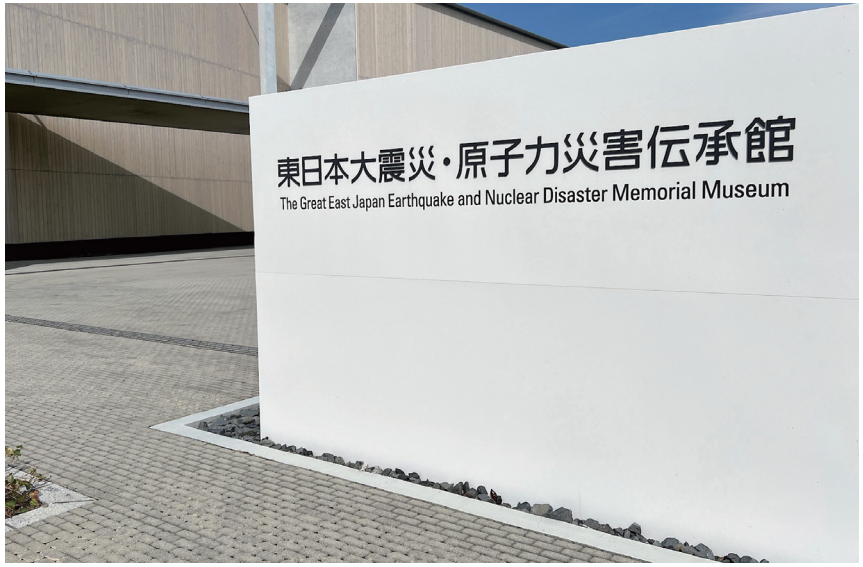


【設問：国際会議の満足度】

高い満足度を示した。また、下記のコメントにあるように多くの参加者から感謝や賛辞の言葉が寄せられた。

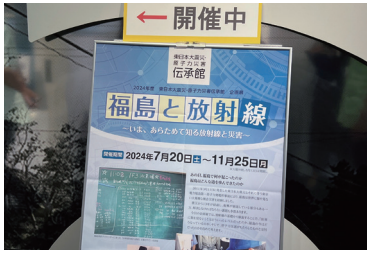
好意的な感想：
- Very satisfied with the entire organization and cost due to it being cost-friendly was a main reason I chose to stay for this excursion.
- The whole conference and post conference tour to Fukushima prefecture were excellent and informative.
- Great invitation satisfied with: venue, information access, organisation dissatisfied: none
- We can see the activities of the affected area.

【016】EPRBioDose2024　事務局レポート



大震災（地震）＋津波＋原子力災害の全てが学べる拠点

東日本大震災の写真が
数十点展示された渡り廊下



伝承館の企画展示は
ちょうど放射線の内容であった

詳細の説明が可能なホールにてセミナー
（東電の廃炉資料館）

東京電力は「リアルタイムで何を行っているのか」正しく情報を伝えることに注力している
（東電の廃炉資料館）

破損が激しい1号機
提供：東京電力ホールディングス

事故現場の建屋を間近に視察

絶好のタイミングでの東電福島第一原発視察

今回の視察では、事故の爪痕が色濃く残る東電福島第一原発の現状を、貴重なタイミングで見学することができた。特に1号機については、近い将来カバーで覆われる予定があり、水素爆発で壊れた外観を直接目にすることが難しくなるとされている。そのため、今回の視察は「現地の真実を理解する上で非常に重要なタイミングでの視察となった」と視察直後、主催の三浦先生は語った。視察の中では、事故発生時の状況から復旧作業の進捗に至るまで、詳細な解説があったようだ。参加者達は、事故直後の厳しい状況を再認識しつつ、徐々に復興へと歩みを進めている現地の努力を感じ取ったと思われる。破損した建物を目の当たりにすることで、復興の重みや課題への理解がより深まったと言える。

処理水への理解を深める

東京電力廃炉資料館では、汚染水を処理し海洋放出可能な状態にするまでのプロセスを、参加者自身の目で確認してもらえた。この取組について主催の三浦先生は、「報道だけでは伝わりにくい、現場の事実を理解してもらう大きな成果だった」と語っていた。真摯に説明を受ける参加者の姿勢が印象的だった。

真実を伝える写真展示、そして現地テクニカルビジットの開催意義

東日本大震災・原子力災害伝承館の見学時、三浦先生から「ここはぜひ見てほしい」と案内されたのは、展示を終えた後に通る渡り廊下に並べられた写真だった。これらは福島の人々の日常や事故直後の状況を映し出したもので、報道機関が提供した貴重な記録だった。報道では見ることのできない視点で真実を伝える写真たちは、日本語の説明文以上に強いメッセージを放っていた。参加者は静かに立ち止まり、一枚一枚に目を通していた。まさに現地で参加者が目の当たりにした震災のリアルな写真展示が示したものは、今後の研究や取組に大きな影響を及ぼすと想像される。強烈なインパクトが国際会議の価値へと発展していくと考えられる。

観光庁 Japan Tourism Agency

イオン注入国際学会

概　　要　産業界、研究機関、大学の技術者や研究者が新しい成果を発表しイオン注入とアニーリングの新しい応用のアイデアについて議論する機会を提供するための国際会議

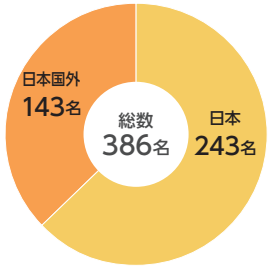
実証事業名　富山県に根差す産業と半導体産業の融合による新技術を生み出すための機会創出

成　　果　**学生の活躍は未来への投資。実施事業対策の委員会を発足し一致団結した取組は功を奏する。**

大学生・高校生を無料で招待。ポスターセッションも行い、著名な先生達との交流はグローバルな視野を持たせる。地元企業にもブース出展を依頼。委員会を発足し取組んだ成功例。

実証事業内容詳細

参加者情報（参加国含む）	国際会議参加者：386名（うち日本国外：143名） 実証事業参加者：216名（うち日本国外：122名） 参加国：18か国
事業内容	企業紹介ブースを会場に設置。富山広域にわたるエクスカーションツアー。学生を無料招待し会議・ツアーへの参加を実施。
事業のポイント	主催者・CB・PCOの強固な連携が事業を成功させた典型的な事例 ／ 事前に委員会を発足し、企業・学生を巻き込む体制づくり ／ 企業の理解を得るための度重なる地道な交渉努力。
事業の継続性	今後、富山で開催する国際会議に今回のような企業連携を図る。企業側への理解を得られるよう、丁寧な交渉を重ねる ／ 学生の学校活動への配慮。

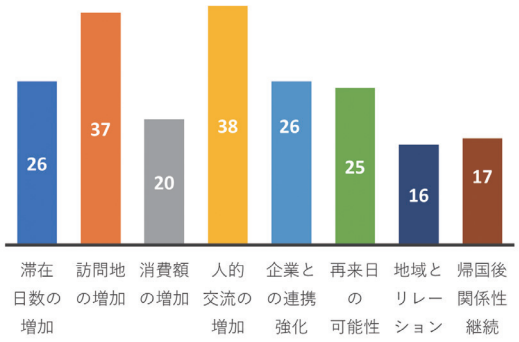


アンケート結果　集計数127名

地域と連携した企画内容の満足度

【設問：企業と知的・技術的な交流】

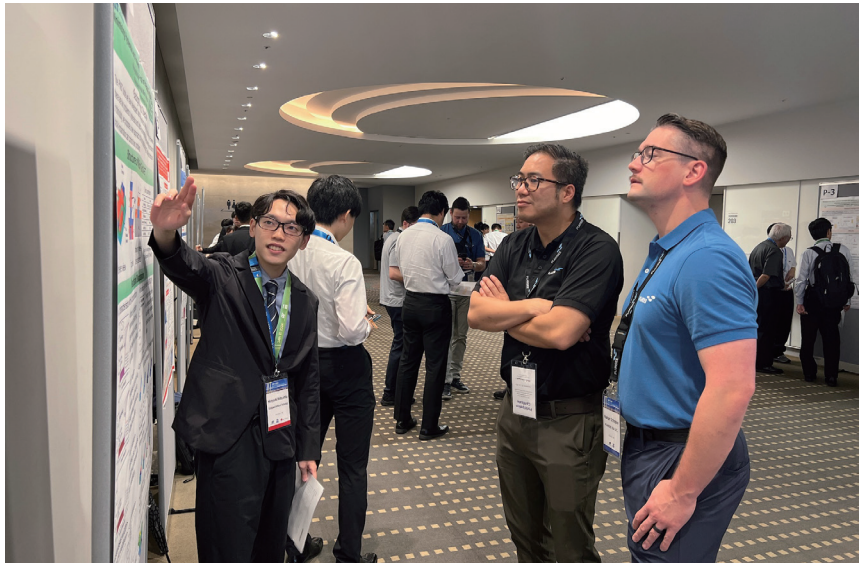
必要との回答が100%。会議参加者・企業両者ともに十分なメリットを感じる結果となった。



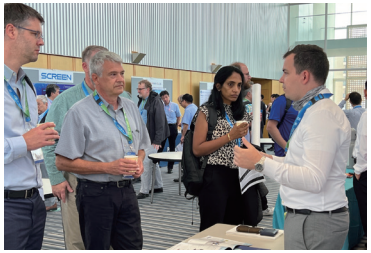
【設問：プログラムによる変化】

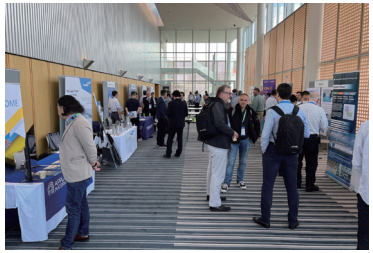
様々な企業への訪問、文化的なツアーにより、様々なレガシー効果を残す。

【021】IIT2024　事務局レポート

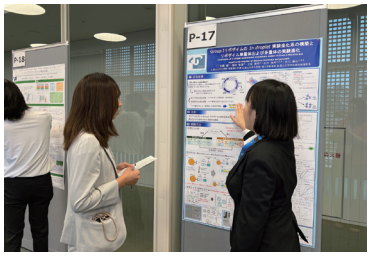

多くの学生にとって初の英語の研究発表となったポスターセッション

講演会の講師も参加して行われた
ワークショップ


展示ブースで企業と商談を行う参加者


企業展示には国内外・県内外を問わず
様々な企業が協賛

スイーツセッションにて
専門外の知識を持った企業の人と交流


年の近い女性研究者と意見を交わす
貴重な機会に

エクスカーションで訪れる予定の企業
によるプレゼンテーションも開催

国際会議がつなぐ新たなネットワーク

富山県での国際会議は、多くの驚きと発見に満ちる結果となった。当初、参加者が集まるかどうかの不安を抱えながらも、結果として国内外から予想を超える人数が集まり、特に海外からの評価の高さが印象的だった。次回開催国のオーストリアからも早い段階で「ぜひ参考にさせてほしい」と連絡があったほど。異分野や異文化との交流の可能性を実感することとなった。とくに異分野間の交流としては、新たなビジネスの可能性が多数示唆されたのも大きな成果と言える。また、エクスカーションの参加率は50%以上と高く、会議参加者が富山市外の地域を訪れる貴重な機会となった。エクスカーションのバス移動中は参加者同士の朗らかなコミュニケーションが多く見られ、会議の枠を超えた繋がりが生まれたことが大きな成果だ。こうした取組を通じ、地域と世界を結ぶネットワークが形成され、新たなビジネスや学びの可能性が広がったことは間違いない。人と人が繋がることで生まれる力を、改めて感じさせられた。

高校生たちが見せた可能性と未来

本会議では、主催者の「地元学生に国際会議を体験させたい」という強い思いで企画された、地元高校生・大学生の参加が大きな成果を生んだ。ポスターセッションでは、熱心なプレゼンにより審査員がすべてのポスターを見切れないほど活発な議論が展開された。また、女性が少ないと言われる工学系の会議にも関わらず女子の参加者が多く、特に高校生の半数が女子であった。彼女たちは講演会の講師などの先輩女性研究者との交流を通じて、キャリアの多様性と可能性を実感。専門分野の異なる参加者との意見交換は新たな視点を生み出し、学生と研究者の双方にとって刺激的な体験となった。今回の取組は、世代や性別を超えた交流により学生にとって貴重な学びの場となっただけでなく、地域全体に未来を描く力を与えた。本企画は、主催者・CB・PCO全員が同じ気持ちで関わることができた成功事例と言え、他の地域でも応用可能な新たなモデルケースと言える。今後もこのような取組が、全国で展開されることを期待したい。

観光庁 Japan Tourism Agency

The 20th International Conference on Precision Engineering

概　　要　「ものづくり」に関わる広範囲なテーマを討議する国際会議となり技術分野の国内外の研究者が会議を通じて交流することで最先端技術の情報交換、研究者間の国際ネットワークの構築を主目的とする

実証事業名　学術的・観光的にバランスのとれたエクスカーションによる国内外研究者間の相互理解促進の試行

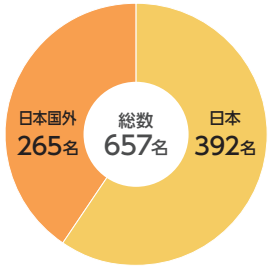
成　　果　**学術施設(ナノテラス) と観光地の組み合わせは、経済を刺激し地域等を紹介できる素晴しい機会。**

次世代放射光施設(ナノテラス) や松島などを巡る日帰りツアーを複数設定。国内外の参加者と市民の交流を促進し、相互理解を深める。また語学ボランティアを参加させ交流を図る。

実証事業内容詳細

参加者情報
(参加国含む)

国際会議参加者：657名
（うち日本国外：265名）
実証事業参加者：200名
（うち日本国外：122名）
参加国　　：26か国



事業内容

ナノテラス･JAXA･日本酒蔵(一ノ蔵) を巡る４コースを設定。ツアー終了後にレセプションも開催。

事業のポイント

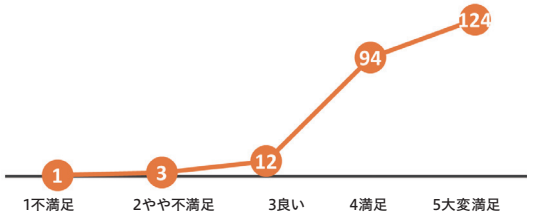
エクスカーションの機会に海外の著名な研究者と交流できる良い機会となっていた。

事業の継続性

今回の実施内容をレポートにまとめ、2年後に名古屋で開催予定の本国際会議の担当者に引き継ぎを行う。また仙台観光国際協会にも共有し、他の国際会議への継続性を確保する。

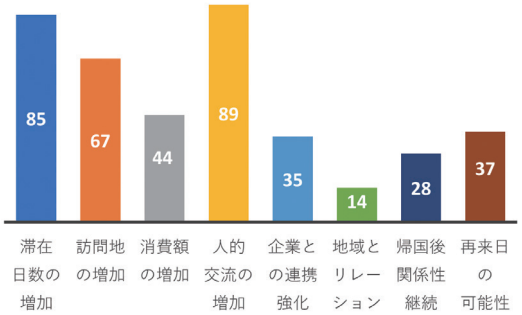
アンケート結果　集計数235名

地域と連携した企画内容の満足度



【設問：国際会議の満足度】

参加者が500名近くいるなか、圧倒的に国際会議の参加について満足度が高い結果となっている。



【設問：プログラムの評価】

滞在日数の増加や人的交流の増加、訪問地の増加が特に評価が高かった。

【024】ICPE2024　事務局レポート

受け入れが難航していたナノテラスだが、観光庁様、東北大学からの厚いサポートもあり実現

震災遺構荒浜小学校では、生々しく
刻まれた震災の痕跡を見学

被災地を巡り、被災者である
語り部から体験を聞く

昼食は牛タンはじめ、宮城県の
名産が堪能できた

秋保大滝は大自然を満喫できる
アクティビティ

サテライト会議では、4コースに別れた
参加者が合流し体験を共有

バンケット会場にはこけしや万華鏡など
宮城名物を体験・購入できるブース

至るところに復興の足跡が

仙台駅からバスで目的地へ向かう道中にも、車窓からの風景には震災の痕跡と復興の歩みが見て取れ、ツアーガイドから適宜解説が提供された。
沿岸部の大半は、かつて住宅が並び立っていた地域だったが、今は災害危険区域に指定され目立つ建物のない田園風景になっている。移動中に通った県道も、被災後に嵩上げして堤防としての役目を担う形に整備されたそうである。一帯はもともと米や大豆が取れる地域であったところを津波で壊滅したそうだが、その後きれいな水を足して海水の塩を薄め、畑として復旧させたそうだ。
平原にぽつんと盛り上がるような日和山の頂、かつて津波で社殿が流された後に復興したという富主姫神社を詣でたが、山頂に生えている1本の松の大樹だけは津波に流されず、震災前からそこに立ち、いまも青々と葉を茂らせている。眼下に広がる平野の、その彼方の丘の上には、かつての住民たちが現在住んでいるという居住地区を望むことができる。実際に訪れなければ目にすることもあまりない、復興のリアルな姿である。

サテライト会議に持ち寄られた興味深い印象や発見

サテライト会議では4つのツアーに参加した方々から、様々な発見や感想がもたらされた。それぞれに専門の知見を持つ方々ならではのユニークな視点での言及が多く、これまで色々な形で日本と関わってきた経験からの日本文化に対する考察も交えられ、興味深い報告になっていた。
松島の瑞巌寺を訪ねた中国の参加者は、「日本人の建物の装飾とてもシンプルでクリーン。家具の置き方や通路の設計がシンプルで居心地良く感じる」と語った。
震災について触れる参加者も多く、ドイツの参加者は「印象的だったのは、非常に過酷になることもある自然に対し日本人が立ち向かった勇気。私は2007年に仙台を訪れたが震災時にはニュースを見て本当に心が痛んだ。この場所に戻ってきて、日本人が強い精神力で自然の力と戦い続けているのを見ることができた」と語り、別の参加者は「地震が起こったとき私はバンクーバーにいて、地震と津波がそこまで達したことを今でも覚えている。何もかもが復興しているのを見られたことは素晴らしい体験だった」と報告した。

観光庁 Japan Tourism Agency

第15回国際カイアシ類学会

概　　要　浮遊性・底生性カイアシ類および寄生(共生) 性カイアシ類の研究成果を公表、情報交換する国際会議

実証事業名　日本の鍾乳洞観光ツアーと国際学会の融合を試みる

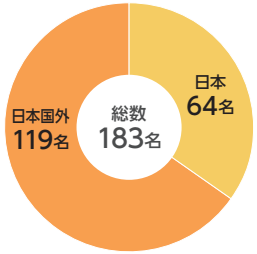
成　　果　**ストーリー性の高いエクスカーションは、移動距離が長くても参加者の理解が得られる。**

国際会議のテーマに沿った「生物採集体験」と「エクスカーション」の合せ技。広島と山口を結ぶ広域移動で距離は長いが、満足度も高い。一人あたりのコストがそれほど高額でなく、今後自走可能なツアーとして成功。

実証事業内容詳細

参加者情報（参加国含む）

国際会議参加者：183名
（うち日本国外：119名）
実証事業参加者：184名
（うち日本国外：116名）
参加国　　：15か国



事業内容

バス5台による広島～山口の日帰りツアー
（往復308km 片道2.5時間）

事業のポイント

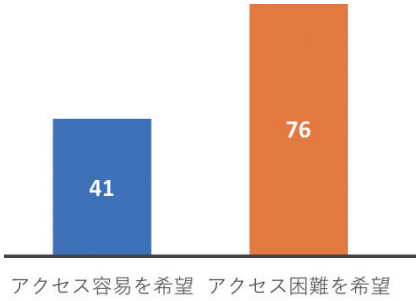
説明ガイドの専門性が高い評価 ／ 充実した食の準備で疲れを一掃
研究者同士の交流機会が豊富 ／ 同伴者も満足する内容
広島CBの充実した主催者伴走

事業の継続性

生物分野以外に環境分野にも応用可能

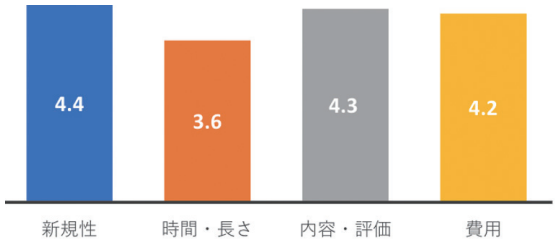
アンケート結果　集計数140名

専門性の高いエクスカーションの満足度



【設問：訪問先に希望する利便性】

全事業平均と異なり、交通アクセス困難な訪問先が人気。生物採集体験のような生物や自然を対象にしたツアーは最適な内容と言える。



【設問：実証プログラムの評価】

時間・長さについては全事業の平均点を下回るも、新規性や内容・評価・価格については、平均を上回る成果となった。

【025】15th ICOC　事務局レポート

清流でアユなどを鑑賞した

秋芳洞では、ジオガイドからの説明

秋芳洞内でのサンプリング調査

岩国寿司づくり体験

人気スポットは自然が多い場所だという

ニューヨーク・タイムズで「2024年に行くべき52カ所」に選ばれた山口市

山口ならではの酒でおもてなし

異文化交流の力
学術の場から生まれる友情も

国際的な学術活動を通じて、参加者が他国の研究者と長期的な交流を築く瞬間を目の当たりにした。「国際カイアシ類学会を通じて、数十年にわたる友情が始まった」と語る参加者もおり、このつながりが研究の発展に大きな役割を果たしている。

主催の先生に聞く、日本開催誘致への道のり
「数十年前の国際会議での1シーン」がはじまりだった

大塚教授に会議終了後、ヒアリングを行った。日本への誘致は平穏な道ではなかった。厳しい環境の中で、大塚教授は「ぜひ日本で開催したい」と思った。教授の若かりしころ、国際会議に参加し、刺激をもらい、感動を覚えた経験があり、次世代の若い方にもこの感動をぜひ味わってほしいという想いで、日本誘致に奮闘した。

エクスカーションは秋芳洞が最多の人気
「また訪れたい」との声が多数

アンケートでは、「秋吉台・秋芳洞」に対する再訪希望が最多票を獲得。秋芳洞内も手続きを行えば研究・調査が実施できるというノウハウがあったため、今回のメインのエクスカーションとなった。大塚教授が重鎮メンバー中心にアンケートを行ったところ、「国内外でこんなに素晴らしいエクスカーションはわたしは経験がない」とコメントがあったほどだ。

「日本をもっと感じたい」と海外参加者は思っている

大塚教授は、「来日前によく日本を調べてから来ている」と参加者から聞いたようだ。さらに、「世界遺産に行きたいんだ」「学会に来る前に熊野古道に寄ってきた」「風呂敷はどこで売ってるの？」など、日本をより知りたい、見たい、お土産として購入したい、そんな声があった。ありのままの日本を見せること、それが一番参加者が満足する内容ではないかと感じた。

観光庁 Japan Tourism Agency

第24回太陽エネルギーの光化学的変換・貯蔵に関する国際会議（IPS24）/ 人工光合成国際会議（ICARP)2024

概　　要　光エネルギーの化学変換と太陽光エネルギーの有効利用に関する国際会議

実証事業名　国際学術研究地域への誘客と東広島地区産業の国際化

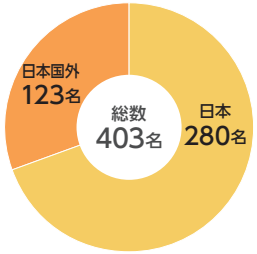
成　　果　**これまで広島市内で開催された国際会議のエクスカーション先として、選択が難しかった市外近隣都市で当事業を実施し、新規訪問先の開拓。**

西条の酒蔵見学・米国企業(マイクロンメモリジャパン株式会社)・東広島市地元優良企業(株式会社サタケ)・安芸国分寺訪問の4コースに分かれたアクティビティ後、東広島市庁舎に集合。市庁舎展望レストランにて国際会議参加者同士の交流会を実施。高い満足度を得る。

実証事業内容詳細

参加者情報（参加国含む）

国際会議参加者：403名
（うち日本国外：123名）
実証事業参加者：119名
（うち日本国外：63名）
参加国　　：25か国



事業内容

4つのコース(①西条酒蔵 ②マイクロンメモリジャパン㈱ ③㈱サタケ④安芸国分寺) に分かれ見学・アクティビティ後、東広島市庁舎展望レンストランで集合し、交流会を行ったエクスカーション。

事業のポイント

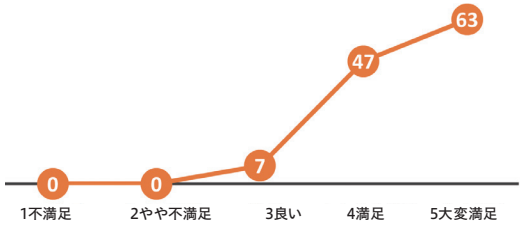
国際会議開催に伴う参加者多数のエクスカーション先として実施が難しい東広島市、一般に視察・見学を開放していない米国企業、広島県内でも屈指の優良企業である地元企業を巻き込んだ内容を実施。新たな広島県域でのエクスカーションを作りあげた。
広島県内で開催される国際会議のエクスカーション先として、東広島市・西条が可能と実証した。

事業の継続性

秘匿性の高いハイテク企業の内側や、酒蔵のバックヤードなど普段見れない場所を盛り込むエクスカーションは価値が高い。
広島観光CBは、国際会議誘致ツールとして利用。東広島市もPRツールとして利用する予定。

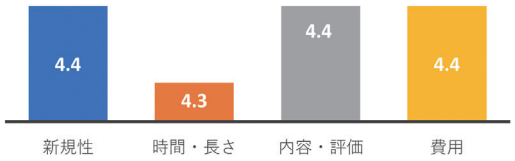
アンケート結果　集計数117名

地域と連携した企画内容の満足度



【設問：国際会議の満足度】

100%の人が満足と回答。東広島市での高い満足度伺える。



【設問：エクスカーションの評価】

全ての項目で高評価。新たな広島地域でのエクスカーションが実施可能だと証明された。

【026】IPS24 ／ ICARP2024　事務局レポート

東広島市長の挨拶

西条酒蔵見学

マイクロンメモリジャパン見学

株式会社サタケ見学

安芸国分寺へ訪問

植物原料を55%活用した
「森のタンブラー」

さまざまな西条酒が提供された

広島の新たな魅力を発信

今回の実証事業では、広島県域の観光資源として東広島市の産業や最優先技術の紹介がポイントとなった。西条の酒蔵見学では、杜氏による丁寧な説明と普段では見学できない醸造工程の公開が参加者の心をつかんだ。マイクロンメモリジャパンは、一部の企業や大学生等の視察は受けているが、国際会議参加者の視察受け入れは、初めてで、大勢の社員が案内や通訳として対応した。担当者から「今後、他の国際会議においても受け入れることが可能」との話があった。㈱サタケの工場見学は、年間10件程度（海外からの参加を含む）の実績があり、今回の見学もスムーズに行われた。参加者からは、最先端技術を有する企業に「観光しながら新たなコネクションを作るいい機会となった」「醸造蔵内の普段は見学できない場所まで案内してもらえて満足」などの感想も聞けた。

レストランのユニークベニュー化の可能性

今回の事業により、東広島市庁舎展望レストランで、国際会議の交流会が十分実施可能であることが実証された。東広島市庁舎自体は洗練された外観の建築物で、展望レストランから西条酒造群の煙突が見える景色は素晴らしく、参加者はほぼ全員が景色の写真を撮影しており、パーティー会場としても大変好評だった。昼はレストランとして営業しているが夜は貸し切りのみ対応のため、今後様々な利用が可能と考えられる。また、広々とした空間と洗練されたインテリアが訪れた人々に特別感を与え、食事のクオリティも高く評価されていた。イベント会場としてだけでなく、地元住民や観光客にも魅力的なスポットとなり得る可能性を秘めている。

広域連携で実った初の東広島市開催

広島は原爆ドーム、宮島など観光資源としての強力なコンテンツがある中で、東広島市・西条は、MICE関連のエクスカーション訪問先としての認知が浸透していなかったが、今回の実績をもとに新しいMICEへの価値を見出したといえる。今後の発展が期待できる事業となった。

観光庁 Japan Tourism Agency

第16回先進的応用情報学に関する国際会議

概　　要　情報学分野の新たな領域である応用情報学に関連したテーマの国際会議

実証事業名　自治体と産業の広域連携により香川県をPRする国際会議のテーマパーク化

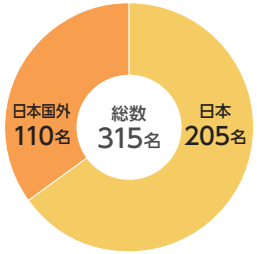
成　　果　香川県全域に亘る体験アクティビティや文化、交流、視察などを満喫するコンテンツフラッシュ。

体験や交流を含む全16種類のテーマパーク化したMICEコンテンツの取組
もっとも数多くの地域資源を活用し、地域における国際会議の開催効果を高めた

実証事業内容詳細

参加者情報（参加国含む）

国際会議参加者：315名
（うち日本国外：110名）
実証事業参加者：285名
（うち日本国外：120名）
参加国　　：11か国



事業内容

エクスカーション9種類、郷土芸能4種類、商店街におけるバンケット1種類、市町村の魅力を発信する紹介展示1種類の計16種類のコンテンツ。

事業のポイント

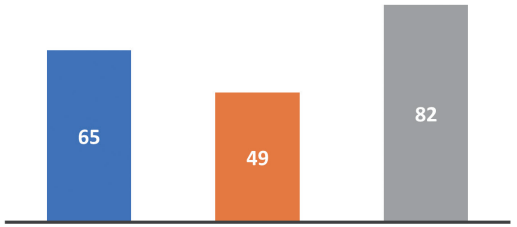
関連する自治体に協力依頼 ／ 充実した食の準備で疲れを一掃 ／ 研究者同士の交流機会が豊富 ／ 同伴者も満足する内容 ／ 主催者と高松CBの緻密な連携

事業の継続性

高松のみならず、全国各地へ水平展開できるユニークベニュー開発を通した地域資源の活用事例となる。

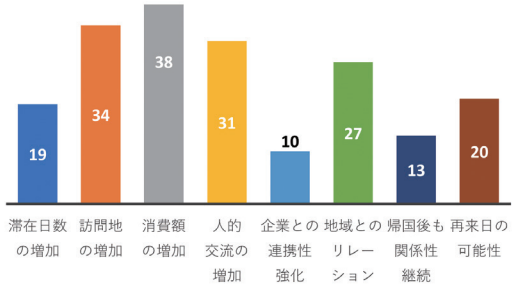
アンケート結果　集計数120名

地域と連携した企画内容の満足度



【設問：魅力的なプログラムの種類】

全事業の平均では主催者が薦めるツアーが最も低いのに対して、本事業では主催者の企画力が高く評価されている。



【設問：実証プログラムによる変化】

主催者が十分に練りあげて企画した結果、消費額の増加や地域とのリレーションなど地域へのレガシー効果が明らかになった。

【027】IIAI AAI 2024　事務局レポート

観光庁
Japan Tourism Agency

国際会議をテーマパーク化し、実施した4分野のアトラクション。驚異の16種類のMICEコンテンツ。

日替わり体験型エクスカーションの実施

- 和三盆を使った和菓子作り体験
- さぬき麺業 さぬきうどん作り体験
- 栗林公園への訪問
- ワイナリー工場の見学
- 屋島への訪問
- 府中果樹研究所の見学
- 綾菊酒造工場の見学
- 丸亀うちわミュージアム うちわ作り体験
- ボートレース観戦

日替わり郷土芸能の鑑賞

- サヌカイト演奏
- 小豆島 石節
- 人形浄瑠璃
- さぬきばやし

地域産業を学ぶ高松市中央卸売市場（うみまち商店街）バンケット

- 屋台村のような演出で食の祭典を実施（マグロの解体ショーなど）

香川県および市町村の魅力を発信する紹介展示

- ポスターや物品の展示
- 観光パンフレットの配布

綾菊酒造工場：酒作りの見学

讃州井筒屋敷：
和三盆を使った和菓子作り体験

さぬき麺業：うどん作り体験

丸亀うちわミュージアム：うちわ作り体験

さぬきワイナリー工場見学

うみまち商店街バンケット：
マグロの解体ショー

香川県および市町村の魅力を発信する
展示・パンフレットやポスター

府中果樹研究所で学ぶ未来の農業：参加者たちの熱心な質問と交流

日替わり体験型エクスカーションの一環として、「府中果樹研究所」を訪れた。専門家からの講義を受け、果樹栽培の技術や最新の研究成果について深い理解を得ることができ、その内容に非常に興味を示していた。特に、地元の果樹産業における技術革新とその可能性に対する関心が高まり、参加者からは次々と質問が飛び交った。また、参加者からは「普段見学できない場所に入ることができて、とても貴重な体験だった」との感想もあった。最終的に予定された時間を大幅に超えての質疑応答が行われ、参加者たちはその学びに大いに満足していた。この体験は、地域の農業の重要性や、地元産業の成長を支える先端技術の可能性について、参加者に新たな視点を提供する貴重な時間となった。

地元の味と祭りの雰囲気を楽しむ特別なうみまち商店街バンケット

「うみまち商店街バンケット」は、地元の魅力を最大限に引き出すため、高松市市場管理課と準備段階から打ち合わせを重ね、貸し切りイベントという特別な形で実現した。市場ならではの新鮮な食材を使用した料理が提供され、特に目玉となったマグロの解体ショーでは、職人の見事な技が披露され、歓声に包まれた。振る舞われた新鮮なマグロの刺し身を参加者たちは堪能した。「祭り」をイメージした会場、活気に満ちた市場の空気感と、地元の方々による温かいおもてなしが一体となり、地元との連携で実現したこの取組は、高松ならではの文化や人々の魅力を存分に発信しながら、観光と地域活性化を結びつける理想的な形のひとつであると感じた。

観光庁 Japan Tourism Agency

IGLTA世界総会2024

概　　要　LGBTQツーリズムの国際会議で全世界からエキスパートが一堂に会する

実証事業名　IGLTA世界総会2024　福岡サテライト会議/FAMトリップの実施

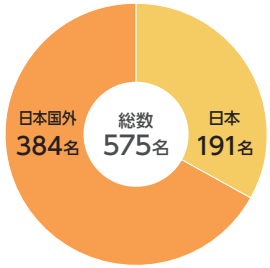
成　　果　**福岡の魅力をFAMトリップを通して世界へ発信。学生が国際会議で参加者と学ぶ機会も創出。**

IGLTA大阪大会後、福岡でサテライト会議を開催し、学生や賛助会員とのワークショップやレセプションを実施。
LGBTQツーリズムを正しく学び、おもてなし意識をグローバルスタンダードへ。

実証事業内容詳細

参加者情報（参加国含む）

国際会議参加者：575名
（うち日本国外：384名）
実証事業参加者：81名
（うち日本国外：21名）
参加国　　：51か国



事業内容

福岡の観光事業者に対してLGBTQツーリズムへの理解促進に繋がる講演やパネルディスカッションとLGBTQのインフルエンサー、エージェントを招聘したFAMトリップを実施。

事業のポイント

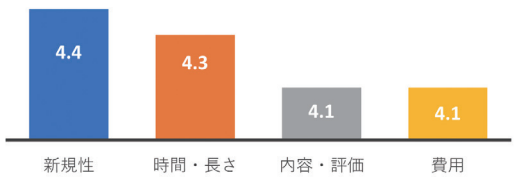
福岡CBと大阪CBの連携による誘致活動 ／ FAMトリップを通して福岡の魅力を存分に理解してもらいかつSNS等で情報発信 ／ 地域で活動する団体や学生を巻き込み国際会議で共に学ぶ機会創出

事業の継続性

LGBTQツーリズム基礎講座は、他の国際会議や他の地域にも参考となる内容で横展開が可能

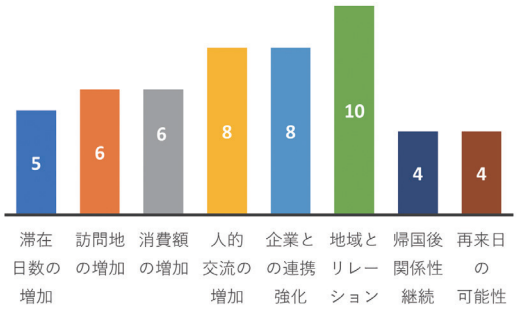
アンケート結果　集計数21名

地域と連携した企画内容の満足度



【設問：参加者の満足度】

新規性は高いものの、内容・評価は伸びないスコアとなっている。寄せられたコメントでは高評価もあったので賛否両論の結果と推定される。



【設問：プログラムの評価】

数日にわたって様々な体験メニューを実施した結果からなのか、地域とリレーションが一番評価が高かった。

【028】IGLTA　事務局レポート

ミニコンコンベンションでは地元の賛助会員からも様々な質問があり、
LGBTQツーリズムを拡げるきっかけとなった

ミニコンベンションでは、
地元の学生との交流も

「フォトジェニック」な動画を撮影する
インフルエンサーたち

インフルエンサーカップルのYouTubeで
福岡を紹介するビデオもアップされている

大阪観光局を中心に福岡CBも協力した
長期間の誘致活動が実を結び、国際会議
開催・FAMトリップが実現した

ラーメン＆餃子作り体験

ダイバーシティを表すピンクと
インクルージョンを掛け合わせた
ピンクルージョンパーティー

IGLTA初のアジア開催！10年越しの大阪と福岡の成果

ミニコンベンションとパーティが盛況に終わった翌日、福岡CBの菅氏に会議の経緯について伺った。大阪観光局は、10年前からIGLTA世界総会の誘致活動を始めており、まずそれまでLGBTQ業界になかった「JAPAN」の知名度を拡げることに尽力した。2022年、福岡も誘致に参加することになり、その年のミラノ大会、翌2023年プエルトリコ大会に参加、IGLTA理事やインフルエンサーとの関係を構築してきた。プエルトリコ大会での各都市PRタイムで、菅氏は博多ラーメンのポスターを持ち、業界では有名なインフルエンサーと一緒に福岡をアピール。それが功を奏し、FAMトリップに知名度の高い参加者を呼ぶことができた。インフルエンサーの一人は「このサテライト会議は素晴らしかった。福岡でLGBTQカルチャーにもっと触れてもらうために、業界の人たちと本当に良い話し合いができた」と話した。

英語で語る福岡の魅力！学生企画のグローバルなディスカッション

ミニコンベンションでは、分科会として「福岡グローバルMICEスクール」に参加する学生の企画で、参加者とのディスカッションを開催。学生からは地域の紹介や日本の大学生のことなど、様々なトピックが通訳も交えながら、英語で行われた。参加した学生は「最初は身構えてしまったが、気さくな人ばかりでこれからも英語を学ぶモチベーションになった」と話した。

いつでもどこでも撮影タイム、インフルエンサーたちの活躍

福岡のFAMトリップには3名のインフルエンサーが参加していたが、彼らは10万人のフォロワーを持つなど、LGBTQ業界ではとても有名人。インスタグラムとYouTubeチャンネルを運営する3名は、福岡は初めてということで、訪問先やイベント体験中は常に撮影タイム。ただ景色を撮影するだけではなく、ラーメン作りの面白さや大濠公園の説明をしたり、時には踊ったりしながら、ガイドブックにはない福岡の魅力を紹介。そして翌日までには、キャッチーなビデオをアップするというスピード感で、世界に発信していた。日本人とは違う角度や視点からその土地を紹介してくれるので、インフルエンサーの活用は他の国際会議エクスカーションや、観光事業にとっても参考になるだろう。

観光庁 Japan Tourism Agency

第15回アジア化学センサ国際会議

概　　要　アジア地域での化学センサの啓蒙と研究活動の発展を目的とした国際会議

実証事業名　北九州・下関海峡エリアの観光プログラム開発

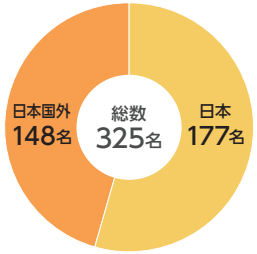
成　　果　**最新のハイブリッド燃料の船で移動し、あわせて地域の魅力であるふぐ料理や神社等の紹介は効果的。**

関門エリアにおいてMICE参加者向けに、陸路と水素船を使ったユニークなエクスカーションを実施し、関門の歴史をたどる。

実証事業内容詳細

参加者情報（参加国含む）

国際会議参加者：325名
（うち日本国外：148名）
実証事業参加者：158名
（うち日本国外：70名）
参加国　　：11か国



事業内容

小倉港～下関港を水素船で遊覧。春帆楼や赤間神宮を巡る、関門の歴史と最先端技術を合わせたエクスカーション。

事業のポイント

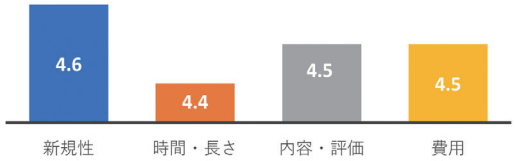
最新の船はテクノロジーの結集であり、食や神社は地域の優れたコンテンツ。これらの組み合わせにより相乗強化となる。ロケーションが近い北九州CBと下関CBのチームワークで成功。

事業の継続性

北九州CBは旅行業の免許を取得。
今後、ツアーの商品化を目指す。

アンケート結果　集計数253名

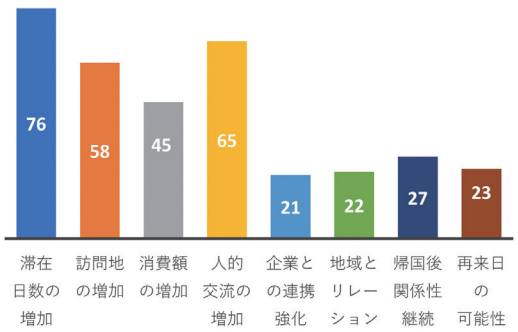
地域と連携した企画内容の満足度



好意的な感想：
- The excursion has a fee, but optional. But since the trip is unique, it should be worth it.
- クオリティがたいへん高かった。
- 水素船の乗船や春帆楼での会食があり、通常では体験できないExcursionだったから
- The venue is very good. The food is very good. The program was enlightening. The staff and how the logistics were planned are very organized.

【設問：参加者の満足度】

導入されたばかりの水素線は新規性が高く評価された。



【設問:エクスカーションの評価】

滞在日数の増加が最多。満足度が高くもう少し滞在したいという意欲の現れか。

【029】ACCS2024　事務局レポート

ハイブリッド船「HANARIA」
揺れや騒音、CO_2排出量を抑えられ、従来の観光船とは異なる快適性を実現

船内でのプレゼンテーション

老舗旅館「春帆桜」でのランチ

ふぐのコース料理を堪能

赤間神宮では参拝の作法が伝えられた

特別に内拝殿を見学することができた

門司港では自由散策を行った

歴史と未来が交差する水素船を使ったハイブリッド観光体験

関門海峡エリアは北九州市と下関市を結ぶ歴史的・地理的に密接な地域でありながら、行政区分の違いによりその魅力を十分に発信できていなかった。この課題を克服するため、両市のコンベンション協会やPCOが連携し、MICE参加者向けの新たな観光プログラムを展開した。日本初の水素とバイオディーゼル燃料を使用したハイブリッド船「HANARIA」を活用し、関門海峡を移動するユニークなエクスカーションを実現した。船内では、大型プロジェクターを用いたプレゼンテーションや、巌流島や平家物語など関門海峡に関する歴史を紹介。最新技術と歴史文化が融合する新しい観光体験が提供された。
参加者からは「水素船は音がしない、揺れない、空気がきれい」と驚きの声があった。また「ACCSのエクスカーションの中で一番良かった」という感想や、燃料電池を研究テーマにしている参加者からは日本の技術への称賛があった。

広域連携で関門海峡から始まる持続可能な観光の未来

今後は、SDGsを意識した持続可能な観光コンテンツとして、本プログラムを発展させる方針である。関門海峡を新たな観光地として位置づけ、北九州と下関の両コンベンション協会およびPCOが連携し、国際会議の誘致や観光需要の創出に注力する。
HANARIAは、夜景を楽しむナイトクルーズやマスコミ向け記者発表の場としての活用も視野に入れている。また、2026年に開催される国際会議において、本プログラムの実績を積極的にアピールし、誘致活動を強化する方針である。
関門海峡を新しい観光地として国内外に広く発信し、環境に優しい持続可能な観光モデルの確立を目指すとともに、国際的な評価向上に繋げていく計画である。

観光庁 Japan Tourism Agency

海洋社会・生態系システムシンポジウム 2024

概　　要　自然科学と社会科学の視点を統合して人間による自然利用の持続可能性と海洋科学の促進を目指す国際会議

実証事業名　海洋科学の国際学会MSEAS2024と地域社会が協働する「Art for MOTHER OCEAN」プロジェクト

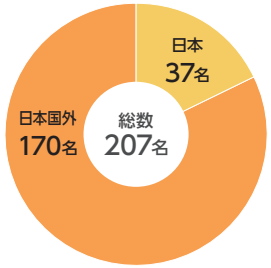
成　　果　**科学とアートの融合により、科学者・芸術家・禅僧・市民での対話を実現可能にする。**

体験型アート対話セッションに市民も参加。地域社会へつながりを拡大。ツアーでは、学会テーマである「海洋科学」と関わる鮮魚店と女性漁師のもとに訪問。違った切り口で効果の拡大を図る。

実証事業内容詳細

参加者情報（参加国含む）

国際会議参加者：207名
（うち日本国外：170名）
実証事業参加者：152名
（うち日本国外：108名）
参加国　　：34か国



事業内容

会議終了後、市民参加･体験型アート対話セッションを実施。エクスカーションは、葉山エリアで鮮魚店と女性漁師を訪問し禅体験・海の声を聴く芸術体験。

事業のポイント

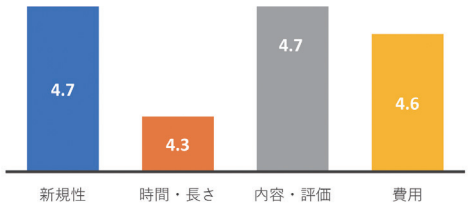
海洋科学の国際コミュニティにアートとの協働を促す場所の創出 ／ 国際会議と芸術領域の化学反応が様々なステークホルダーに開かれたことで、これまでにない協働を促す土台となる。

事業の継続性

「教育プログラム」として普及・継続する取組が慶応義塾大学グローバルリサーチインスティチュートとの協働により、研究・実践を行っており今後も活用を予定。

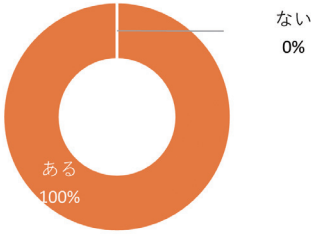
アンケート結果　集計数75名

芸術との企画内容の満足度



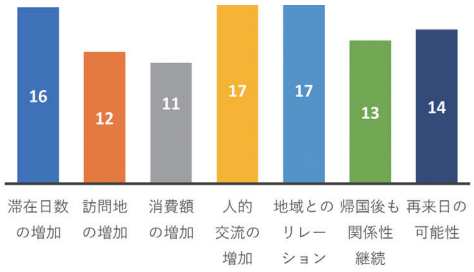
【設問：6/8フィールドツアーの評価】

新規性4.7と非常に高い数値。6/7ワークショップも4.5と高水準を誇る。



【設問：再訪したい・知人に教えたい場所】

回答者全ての人の記憶に残るフィールドツアーとなった。



【設問：プログラムによる変化】

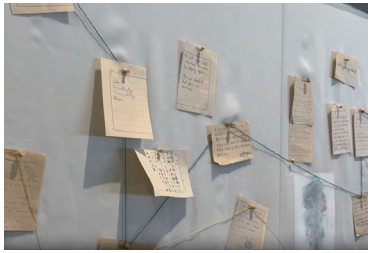
学会に関連し、地域交流にもつながった全てのバランスがよい事業内容。

【031】MSEAS2024　事務局レポート

新しいスタイルの瞑想体験

パシフィコ横浜の会場だと思えないほどリラックスして絵を描く参加者

ワークショップでは、アイヌ文化についても紹介された


会期前に行われたアートワークショップで描かれた作品も掲示されていた

住宅地の中にあるさかなの共同販売所

葉山の住宅地にある公民館もワークショップの舞台になった

ワークショップを通じて多くの交流が生まれた

どんどん惹き込まれる、国際会議では珍しい体験型ワークショップ

国際会議の終了後、同じパシフィコ横浜の会場で行われた「Art & Science Workshop」。詳しい説明がないままスタートしたが、アメリカでも活躍する禅僧・藤田一照氏による「裸足になって、自分を感じながら、思うまま歩いて」と提案された新しいスタイルの瞑想体験に、参加者はどんどん惹き込まれていき、目を開けた時には、みな清々しい表情で、あっという間に他の参加者と打ち解け交流が生まれていた。アメリカ人の女性は「瞑想体験から良いインスパイアを受けた」と話した。その後、近くの人たちと4人1組でグループを組み、「小さな始まり」をテーマにクレヨンで絵を描くイベントでは、すでに瞑想体験でアイスブレイクができていたので、どのグループにも自然と笑みがこぼれ、時には真剣な表情で各々が思う「始まり」を自由に描いていた。「珍しいスタイルの国際会議で、このアート体験を通じて、自分自身に気づいたこともあり、今後の研究に役立ちそうだ」と話す参加者もおり、新しい瞑想体験をきっかけに、自然発生的に交流が生まれ、人々が結束していくイベントだった。

北鎌倉の魚屋、葉山の公民館、住宅地の中で生まれる多様な「交流」

大船駅からスタートしたエクスカーションは、北鎌倉の住宅地にあるさかなの共同販売所「サカナヤマルカマ」、葉山町の真名瀬漁港と、そしてこちらも住宅地の中にある堀内会館で、それぞれワークショップが行われた。北鎌倉では、多くの外国人が魚屋に集まっていることを不思議がった住民が参加者に英語で話しかけ、思わぬ交流が生まれるという場面もあった。サカナヤマルカマの取組について、パナマ人の参加者は「自分が研究している、カナダの小さなコミュニティを基盤とした漁業グループの考え方に似ている。ローカルな取組に政府が目を向けてくれないのはどこの国も同じだと感じたが、違う業種・社会から参加しているこのショップの人々の、異なる世代間でのやり方はとても大切だ」と話した。葉山の公民館で行われたワークショップでは、2人1組でマッサージのような瞑想体験が行われ、知らない者同士が互いに「触れる」ことを通じて、自然に会話が生まれていた。普通の旅行では得ることのできない、意義のあるエクスカーションになったのではないだろうか。

観光庁 Japan Tourism Agency

第37回マイクロプロセス・ナノテクノロジー国際会議

概　　要　応用物理学会が主催する、半導体微細加工(マイクロプロセス) 技術、ナノテクノロジー研究に関する国際会議

実証事業名　半導体加工プロセス技術セミナーとプロセス実習

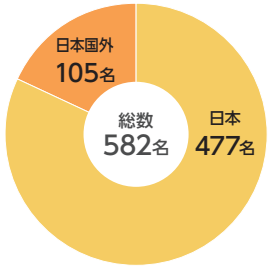
成　　果　**京都府の産業政策ナノテクノロジーを背景に、国際会議参加者と事業者のマッチングイベント実施。**

京都府と共催で最新の半導体技術セミナーを開催。装置紹介や実習を通じて最先端研究に触れ、研究者や新規企業の参加を促進する。

実証事業内容詳細

参加者情報
(参加国含む)

国際会議参加者：582名
（うち日本国外：105名）
実証事業参加者：186名
（うち日本国外：2名）
参加国　　：14か国



事業内容

京都大学ナノテクノロジーハブ拠点での体験実習を開催。セミナー・交流会では、京都産業21と連携し、地元を中心とした企業を招待。

事業のポイント

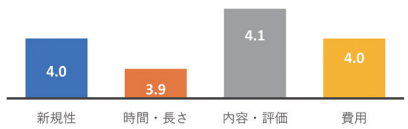
京都府の産業支援策とマッチングさせ、半導体産業振興・技術セミナーを開催。会議参加者と地元の半導体関連企業が参加し、地元産業の新規事業や技術・製品開発に結びつけた。

事業の継続性

今回の事例を今後の本国際会議でも「連携のモチーフ」として継続し、開催地の大学との連携も図る。

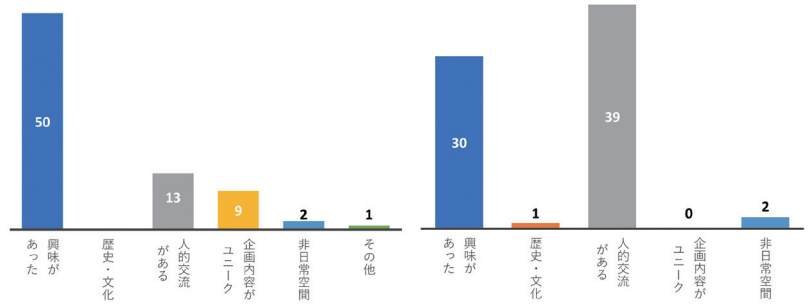
アンケート結果　集計数328名

地域と連携した企画内容の満足度



【設問：交流会の評価】

交流会の内容・評価の4.1は、本事業全体の平均値4.5に対してやや低かった。
地元企業の参加者の多くがセミナーのみ聴講であったため交流会で期待した交流が出来なかったのが原因と分析。



【設問：セミナーの参加理由(左)・交流会の参加理由(右)】

どちらも参加理由の最多数は、興味があったであり、交流会では人的交流を期待していた結果となっている。

【035】MNC2024　事務局レポート

セミナー会場の様子

技術セミナーが開催された京都ブライトンホテル・カディーコート

開会挨拶：上林 秀行氏（京都府商工労働観光部長）

地元企業講演者：川越 理史 氏（株式会社SCREENホールディングス）

ウエルカムパーティーで挨拶する講演者：小西 秀人 氏（京都電機器株式会社）

名刺交換も盛んにおこなわれていた

学会参加者とセミナー参加者で異なるネームプレートは、交流促進の仕掛け

初めて「地元企業と連携開催」した技術セミナー
「京都産業21」がSNSで参加者募集

MNCでは毎回「技術セミナー」を開催している。今回の京都開催では初の試みとして地元関連企業と連携し、その取組が紹介された。セミナー案内は「京都産業21」が「X(旧Twitter)」を活用して行い、わずか1〜2日で80名の応募があり、学会への関心の高さがうかがえた。会場隣のロビーには企業ブースが設けられ、学会参加者と地元企業との交流を促進する工夫がなされていた。セミナー終了後にはウエルカムパーティーも開催され、特別にセミナー参加企業も招待された。参加者からは「地元企業の話を聞けて非常に有用だった」、「地域産業の取組の一端を知ることができた」という好意的な声が寄せられた。一方で、「技術セミナーと聞いて期待していた内容とは異なり、会社紹介が中心で残念だった」との指摘もあり、技術的詳細や工夫に焦点を当てた内容への期待が示された。主催者は、こうした意見を今後の企画に反映させ、より充実したプログラム構成を目指すとしている。

更なる交流をはかる「ウエルカムパーティー」
技術セミナー参加者も招待、しかし…

ウエルカムパーティーは通常、学会参加者のみが対象だが、今回は地元企業参加者も招待された。京都産業21による事前告知が行われたものの、多くの地元企業関係者がセミナー終了後に会場を後にした。主催者は参加費を無料としたことが逆効果になった、少額でも事前に参加費を徴収していれば参加者の意欲を高められ、交流を促進できたのではと分析している。また、地元企業側が交流を目的としていなかった可能性や、交流会の開始時間がやや遅かった（午後5時50分開始）であったことも影響したと考えている。一方、参加者からは「人的交流が生まれ、新たな関係を築けた」、「研究者との十分な交流ができた」、「技術的な意見交換が満足できた」といった好意的な感想が多く寄せられた。特に「内容やコスト面ですべてがスムーズだった」との声もあり、一定の成果を上げたイベントとなった。主催者はこれらの課題を次回以降に活かす方針だ。

観光庁 Japan Tourism Agency

SPNHC-TDWG合同大会2024

概　　要　国際自然史標本保存学会(SPNHC) と生物多様性情報標準化委員会(TDWG) の合同会議

実証事業名　沖縄発のサステナブルMICE運営とエコツーリズム開発を核とした国際会議モデルの創出

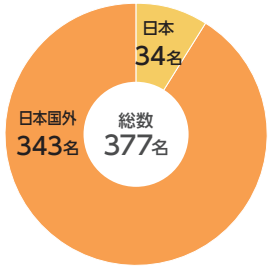
成　　果　**国際会議に関連付けたSDGsやサステナブルな取組は、先駆的な事例として貴重な成果。**

国際自然史標本保存学会と生物多様性情報標準化委員会の合同大会。沖縄のローカルSDGsガイドラインを使用し、サステナブルなMICE会議を実現。今後の同会議や沖縄観光コンベンションビューローの誘致活動にも影響を与えた。

実証事業内容詳細

参加者情報
(参加国含む)

国際会議参加者：377名
（うち日本国外：343名）
実証事業参加者：170名
（うち日本国外：166名）
参加国　　：29か国



事業内容

国際会議にSDGｓガイドラインを導入。エクスカーションでは6つ、エコツアーは2つのツアーを用意。

事業のポイント

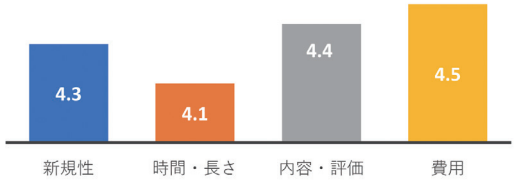
学会に関連付け、SDGsガイドラインを使用した初の試み ／ 学会のテーマ、SDGs、沖縄の魅力の3つを兼ね揃えた実証 ／ CO_2の測定など、気候変動に関連した観測をエクスカーションへ取り入れるなど高度な工夫が施された。

事業の継続性

MICEでのサステナブルの取組例は事例が少ないため、今後沖縄開催の他の会議にもガイドラインを使用予定 ／ 主体、PCO、CBの連携が必要。

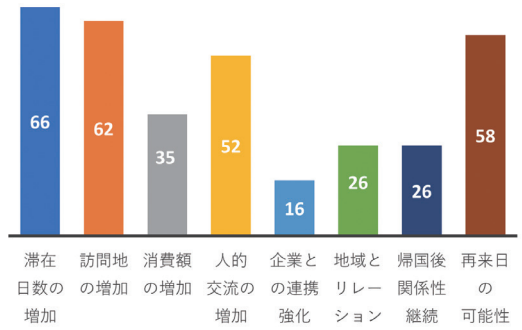
アンケート結果　集計数141名

学会と関連付けた企画内容の満足度



【設問：エクスカーションの評価】

全てが高評価。学会テーマにあわせ、沖縄の魅力をアピール。ネイチャーポジティブを絡めた内容も新規性の高さを伺える。



【設問：プログラムによる変化】

テーマに沿った内容により、様々なレガシー効果を残している。

【040】SPNHC-TDWG2024　事務局レポート

ブルーカーボンクルーズでは、珊瑚を観察し、リアルタイムでCO_2濃度を観測した

名護博物館では当時の暮らしから現代のSDGsにつながる知恵や考え方を紹介

参加者アンケートのお土産は本会議らしく自然に配慮した商品をセレクト

エコツアーの内容は動画などでまとめられ、初日の歓迎レセプションで紹介し広く周知

同伴の子ども達も楽しめる実験を開催
親子で一緒に学べる機会を創出

食事の内容は素晴らしかった

ベチバーはブレスレットやしめ縄として商品化され、農家の収入源にもしていく予定

ネイチャーポジティブの先進地を旅する「恩納村サンゴの村づくりツアー」

今回のエコツアーは少人数での視察という形になったが、実際に同行してみて、この規模での実施が非常に効果的であると実感した。各訪問先では、個人農家の畑や養蜂家の現場を10人程度のグループで訪れることで、内容を深く理解でき、より充実した体験が可能だった。この少人数制での持続可能な商品化を検討していたのが、今回の運営のお一人、SDGsの専門家としても活動する岩村さん（大栄コンサルタント）だ。ツアー内容の質の高さは一回限りにせず、会社研修旅行にも活用できる形で商品化の準備が進められていた。また、このような体験型ツアーは、訪問先にとっても地域の魅力を広める絶好の機会となっており、地元の人々の協力がなければ成立しない。参加者からも、農業や養蜂の現場を目で見て学ぶことで、持続可能な観光の意義を改めて実感したという声が多く聞かれた。今回の国際会議やエクスカーションを成功させるべく、集まった運営の皆さんからは、地元沖縄への熱い想いと、この土地でしか味わえない旅を提供したいという意欲が一人一人から伝わってきた。

沖縄開催独自のエクスカーションとSDGsが融合した特別な体験を提供

訪問先には博物館や水族館など、会議内容に適した施設を丁寧に企画。スタッフはクールビズ効果のある沖縄伝統の「かりゆしウェア」を着用。また一部訪問先では、参加者にウォーターサーバーとマイボトルの使用を呼びかけるなど、国際会議のテーマでもあるSDGsの理念に則った取組が行われた。訪問先はヤンバル地域の豊かな生態系や固有種に関する展示を行う名護博物館、海洋研究における最先端設備が整う国際海洋環境情報センター（GODAC）など。GODACは「標本の仕事をしているので、標本管理方法を見聞きできてとてもよかった」「化石収集の仕事をしているため、深海魚の標本はとても興味深かった」と参加者からも好評だった。また家族連れでの参加者も多かったため、子供向けの特別な体験プログラムを急遽用意。水圧で縮んだカップを観察する深海の水圧再現実験では、子供たちは驚きと興味を示した。この体験は科学や自然への関心を深めるきっかけとなり、未来の研究者たちの探究心に火を灯すものとなったかもしれない。

観光庁 Japan Tourism Agency

科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム

概　　要　世界的な科学者・政策決定者・企業経営者などのオピニオンリーダーが京都に集い、持続的な人類の未来の発展と繁栄のために議論し、意見交換を行う国際会議

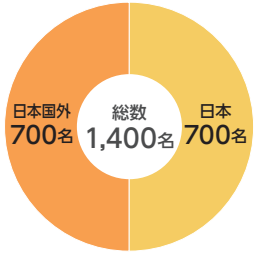
実証事業名　**地域に貢献するビジネスマッチング・交流 / 開催都市外・高付加価値型・課題解決型エクスカーション / 万博・企業と連携した公共性の高い府市民向けシンポジウムの実施**

成　　果　**経済波及効果の向上・広域への波及を実現し、市民・企業等との交流機会を多く創出し、開催効果を最大化**

シンポジウムで昨年比5倍を超える府市民が参加 / 京都府内13事業者とMICE参加者の交流機会創出 / プレポストツアーで前後泊需要を創出、観光課題を解決するツアーや周辺自治体のツアーで波及を広域に拡大。

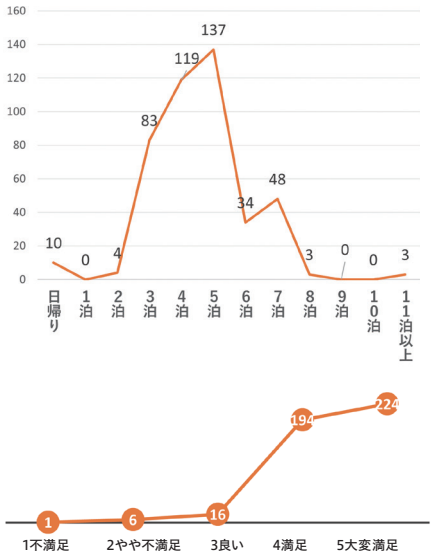
実証事業内容詳細

参加者情報（参加国含む）	国際会議参加者：1,400名（うち日本国外：700名） 実証事業参加者：1,287名（うち日本国外：762名） 参加国　：80の国・地域・国際機関
事業内容	ビジネスマッチング、エクスカーション、シンポジウムの実施
事業のポイント	ビジネスマッチング：MICE参加者と地元企業の交流機会を創出。加えて高校生との交流機会も創出。 エクスカーション：プレポストツアーの設定による前後泊需要の創出 / 京都府域・京北などのエリアへのツアー分散及び経済効果の波及拡大 シンポジウム：時代に沿ったテーマ・講師を選定の上、周知を強化し、オンライン参加者も含め、前年比約5倍の参加者
事業の継続性	翌年度以降のSTSフォーラム支援において、可能な範囲で継続すると共に、サステナブルなMICE開催事例として、他の国際会議へ周知し、取組を進めていく。



アンケート結果　集計数441名

地域と連携した企画内容の満足度

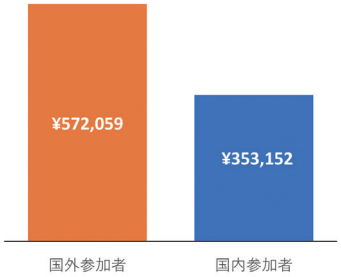


【設問：滞在日数（京都）】

宿泊代が全国平均よりもかなり高い京都で、4-5泊が多い。内容が伴う国際会議だからこそと言える。

【設問：国際会議の満足度】

中間と下位の回答は少なく、相当高い満足度



【設問：国内での消費額金額】

全事業を通して最も高い平均消費額。京都での国際会議は経済効果も抜群。

【041】STS forum　事務局レポート

京都北部にあり京組子工房でコースター造りを体験する参加者
複数の参加者が京組子の照明機器などの購入を相談した

早朝に開催された座禅体験
参加者は体験後、会議に参加した

エクスカーションは美山など京都府域での開催により、府全体の魅力を波及させ、地域分散の課題解決に貢献

ビジネスマッチング会場の両サイドに13のブースが並び、会議参加者への情報発信が行われた

参加者からの質問に答える出展事業者いたる所で活発な交流が行われた

公開シンポジウムでは募集定員の200名がほぼ満員になるほど関心が高かった

オンライン配信は首都圏など全国各地から300名を超える参加者が視聴した

エクスカーションで広域に開催効果を拡大させつつ、観光課題を解決。同時に、参加者満足度向上に貢献

昨年までは同伴者向けに京都市内の有名観光地を巡るエクスカーションを1コースのみ提供していたが、本実証事業では、会議前後や早朝、夕方などこれまでにない日程・時間で設定するとともに、これまで時間の制約で訪問しにくかった京都市外（府域）や市内遠方のツアーを設定した。これにより、自治体が取り組む観光課題である、“場所、時間の分散”を解決しつつ、経済効果の新たな創出、波及拡大を実現させていた。
参加者からは「コースの内容と案内が素晴らしく、参加者を楽しませようとする努力が感じられた」、「普段関心がなかった場所を知る良い機会になった」といった高評価が寄せられた。「参加者の満足度は非常に高く、エクスカーションの大切さを実感した」と主催者は語った。

ビジネスマッチングで地域企業とのMICE参加者の交流機会を創出。

初のビジネスマッチングが開催され、京都内13の企業・団体がブースを出展した。本イベントでは、科学分野をリードする研究者や世界的企業の代表者と地元事業者が直接交流する場として、活発な意見交換が行われた。本会議には科学政策や研究の方向性を左右する立場の参加者が多いことから、本取組では技術紹介や共同研究の相談に加え、科学政策や研究戦略に関する議論も交わされ、活発な交流が行われていた。

前年比5倍の参加者に最先端の知見共有を行なった、府市民向けの公開シンポジウム

公開シンポジウムは例年100人程度で実施されていたが、大阪・関西万博やSTS forumで扱われるAIをテーマとして、著名な講師と京都ならではの識者によるパネルディスカッションを行ったことや、効果的な周知により、最終的に500名（現地・オンライン含む）を超える参加者のもと開催された。これからの社会で取り入れられていくAIがテーマであることにより、学生から年配まで幅広い参加者が集まり、AI研究の最先端知見、AIの発達による生活への影響や適切な活用方法など知見が共有された。本シンポジウムは現地開催のほか、オンライン配信を行い、京都府域全体、首都圏等からも300名を超える参加者を集め、国際会議開催による便益を拡大することに成功した。

観光庁 Japan Tourism Agency

行動と振る舞いに関するABC2024国際会議　6th International Conference on Activity and Behavior Computing

概　　要　行動と振る舞いのコンピューティングに関する国際会議　主催：九州工業大学ケアXDXセンター、共催：IEEE福岡セクション

実証事業名　福岡県北九州市・大分県中津市連携国際会議の実施

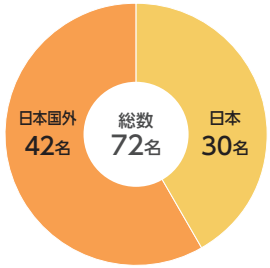
成　　果　**移動距離よりも内容を重視。二都市開催に分かれても(北九州・大分中津) 高い満足度。**

小倉城・中津城は同じ細川忠興建立の兄弟城。歴史的背景の繋がりのある二都市に新たな連携が生まれ実現。広域連携の成功例。エクスカーションでは圧倒的な自然美が海外参加者に大変好評。

実証事業内容詳細

参加者情報（参加国含む）

国際会議参加者：72名
（うち日本国外：42名）
実証事業参加者：137名
（うち日本国外：82名）
参加国　　：12か国



事業内容

北九州市小倉城でのバンケット→中津市でセッション。
エクスカーションは耶馬渓へ。

事業のポイント

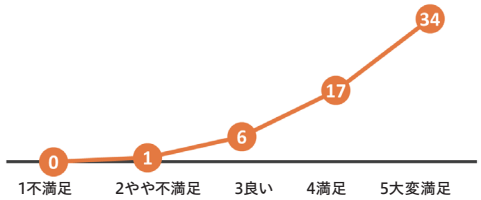
北九州CBと中津市観光課との新たな連携が生まれた。(中津市側はコンファレンスディナーを開催) ／ これまでインバウンドが来ない地域でMICE向けロケーション開発に成功。

事業の継続性

今回構築した関係性をもとに、今後も北九州市で開催される国際会議のエクスカーション先として中津市のコンテンツ化、誘致・開催ノウハウの継承を進めていく予定 ／ 会場や飲食店など受入体制の不足が課題。

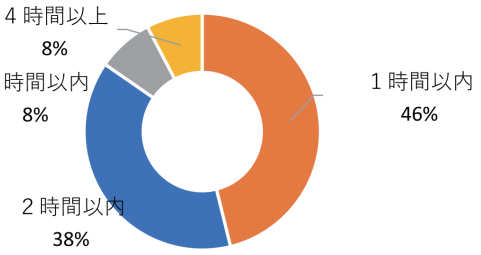
アンケート結果　集計数58名

地域と連携した企画内容の満足度



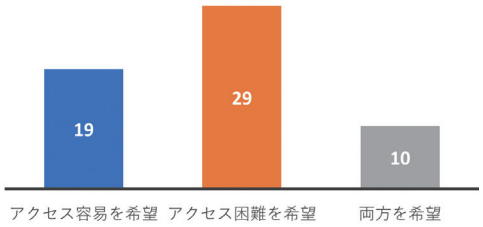
【設問:国際会議の成果・満足度】

不満足との意見が1件のみ。二都市開催の不便さを克服する内容の充実。



【設問：訪問先に希望する距離】

2時間以内まで許容との回答が84%。広域連携でも受け入れられている。



【設問：訪問先に希望する利便性】

アクセス困難希望が半数以上。訪問しづらい地域へも、企画内容次第で理解が得られる。

【042】ABC Conference 2024　事務局レポート

小倉城天守閣

北九州国際会議場でのコーヒーブレイク

小倉城天守閣でのバンケット

リル・ドリームでのコーヒーブレイク

福沢諭吉生家の見学

インバウンド地としての効果を高める為、耶馬溪を観光①

インバウンド地としての効果を高める為、耶馬溪を観光②

大型会議施設の無い地方での連携国際会議開催の工夫とノウハウ

ABC Conference 2024国際会議は、北九州市と中津市という異なる地域で開催された。特に中津市では、会議用の施設が整っておらず、古いレンガ造りの音楽ホールを会場に選んだ。会場設備が限られていたため、北九州市からウォーターサーバーを持ち込んだり、昼食や軽食は地元業者に依頼するなど、創意工夫を凝らした運営が行われた。また、中津城や小倉城という歴史的な施設を活用し、参加者に日本の文化や歴史を体験させることで、単なる学術的な知見の交換にとどまらず、参加者に地域の文化や歴史を感じてもらう機会ともなった。特に、最終日の訪問先である耶馬溪・青の洞門では、圧倒的な渓谷美や歴史的なトンネルを体験することができ、参加者から、「これまで訪れたことのない開催地は会議に参加する動機づけとなる」という声が聞けた。学術的な交流だけでなく、地域の魅力を伝える貴重な機会となり、参加者にとって深い印象を残すことができた。

交流が生む未来の可能性と日本の魅力

小倉城の天守閣最上階で開催されたレセプションは、国内外の参加者にとって非日常的な体験となり、大変好評を博した。事前の案内で、小倉城内にある展示見学が推奨され、多くの参加者が城の歴史や文化について理解を深めることができた。展示は地域の歴史や伝統を紹介するもので、参加者にとって有意義な時間となった。天守閣の最上階という特別な空間で行われたレセプションは、参加者同士の交流が促進され、新たな共同研究やビジネスの可能性が開けるきっかけとなる。地元の新鮮な食材を使った料理や特産品も大変好評で、参加者はその味に感動し、会議自体が特別な体験となった。参加者からは「皆と話しやすく、この環境やアイデア、食事のサービスがとても良かった」といった感想が寄せられ、会議全体の成功を感じさせる声が多く聞かれた。

観光庁 Japan Tourism Agency

第23回乳幼児けいれん研究会国際シンポジウム

概　　要　新生児・乳児・幼児の発作性疾患およびその関連疾患の研究と治療を国際的に推進し、学会参加者相互の親睦と情報を共有することを目的とした国際会議

実証事業名　日本の祭り文化及び地元（愛知・名古屋）の染物文化を世界に発信

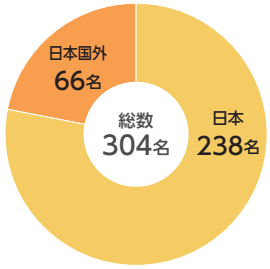
成　　果　**来日頻度の高い参加者（6回以上が53%）には、広域連携により新たな地域の魅力をアピールするチャンス。**

名古屋国際会議場中庭で郡上おどり体験を行い、翌日は岐阜県郡上市に訪れるエクスカーションを実施。一般的な観光地よりも、こだわった地域への訪問で異文化体験を展開。

実証事業内容詳細

参加者情報（参加国含む）

国際会議参加者：304名
（うち日本国外：66名）
実証事業参加者：179名
（うち日本国外：84名）
参加国　　：15か国



事業内容

国際会議場中庭に「夏祭り」を会場を設置。「郡上おどり」を体験。エクスカーションは岐阜県郡上市へ。

事業のポイント

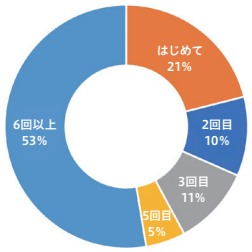
郡上市から「郡上おどり保存会」の方々を招き、開催時期以外での「郡上おどり」体験を可能にし、郡上市観光課との新たな連携が生まれた。

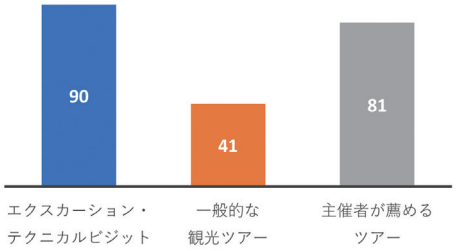
事業の継続性

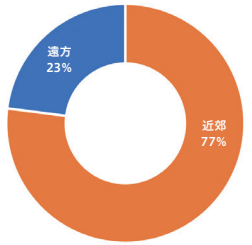
今回の実施事業をコンテンツ化し、名古屋CB、PCO（JCS）、旅行会社（JTB）が中心となり、愛知・名古屋への誘致の為のメニューとして、クライアントに提案・紹介していく ／ 東京開催の「愛知・名古屋MICE説明会」でも紹介。

アンケート結果　集計数174名

地域と連携した企画内容の満足度







【設問：来日回数】
6回以上が53％を占める。一般的な観光地にはすでに訪れている可能性が高い。

【設問：魅力的なプログラムの種類】
一般的な観光ツアーが平均では二番目に多いが、今回の結果から新たな魅力をアピールするチャンスが伺える。

【設問：訪問先に希望する距離】
2時間以内の近郊希望者が多く、名古屋を中心とした広域連携にも期待がもてる。

郡上おどりは、見よう見まねで誰でも参加できる
笛や太鼓の音が心地よく響き、参加者は一体感を感じた

縁日コーナーも設け
日本の祭り文化を伝えた

法被姿で記念撮影

風光明媚な郡上、名古屋から
約1時間の距離

エクスカーションには31名が参加
街歩きを満喫

精巧な食品サンプルに
参加者からは感嘆の声

お土産に食品サンプルを購入し
喜ぶ参加者

地域文化が国際会議を変える：郡上おどりと名古屋の挑戦

本事業では、岐阜県郡上市の「郡上おどり」をはじめとする地域文化を活用し、国際会議における新たなプログラム提案が行われた。郡上おどりの実演誘致は、国重要無形民俗文化財かつユネスコ無形文化遺産としての価値を活かし、特に海外参加者に日本の「祭り」を体験させることに成功した。参加者からは「こんなに楽しいイベントは初めてで、とてもエキサイティングだった」という声や「日本の祭りの雰囲気を体感できた」といった感想が寄せられた。また名古屋市の有松・鳴海絞を用いたオリジナル手ぬぐいの配布により、地元の染め物文化を効果的に発信した。

さらに、郡上市へのエクスカーションの企画も実施され参加者から高評価を得た。この事業は、名古屋エリアにおける学会開催のマンネリ化打破や、インバウンド誘致に向けた効果的なモデルケースとなり、今後の継続的な活用と発展が期待される。特に、郡上市観光課や岐阜観光コンベンション協会との連携強化が、名古屋市を中心とした東海エリアの学会誘致に寄与すると考えられる。

本物以上にリアル？郡上八幡が誇る食品サンプル

郡上八幡は食品サンプル発祥の地として知られ、その生産量は日本一を誇る。寿司や天ぷら、フルーツを模したキーホルダーは本物と見間違うほどのリアルさで、日本独自の文化として世界中から注目を集めている。これらは観光客にとってユニークなお土産であり、特に外国人観光客には日本文化の象徴として高い人気を誇る。その精巧さから、食品サンプルは今や「芸術」とも評される存在だ。

参加者は「日本ならではのお土産！とてもクール！」と驚きの声を上げつつ商品を選んでいた。中には、まとめ買いする人の姿も見られた。

なお、食品サンプルは制作体験も可能で、世界に一つだけのお土産を作ることもできる。今後、エクスカーションで更なる活用が見込まれている。

観光庁 Japan Tourism Agency

ASEAN+3債券市場フォーラム

概　　要　ASEAN+3債券市場フォーラム ／ ASEAN +3域内のクロスボーダー債券取引を促進することを目的として、様々な課題解決に向けて官民の専門家により検討を行う会合

実証事業名　国際会議（ABMF）参加者と地域金融経済関係者との総合理解及びネットワーキング

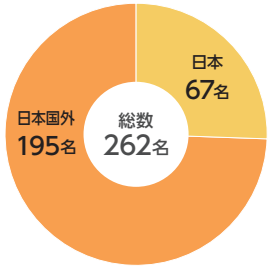
成　　果　**自治体とのタッグで地元ステークホルダーへ効果拡大。マンガをコンテンツとして利用するのは新鮮な切り口。**

アジア開発銀行が主催する会議で、主催者の特別講演やマンガに関する講演、ネットワーキング懇談会を開催。自治体との連携で地元ステークホルダーにも交流の機会を創出。

実証事業内容詳細

参加者情報（参加国含む）

国際会議参加者：262名
（うち日本国外：195名）
実証事業参加者：200名
（うち日本国外：130名）
参加国　　：21か国



事業内容

熊本城ホールにて講演とネットワーキングを開催。ネットワーキングには地元金融関係者・学生・行政担当者も参加。

事業のポイント

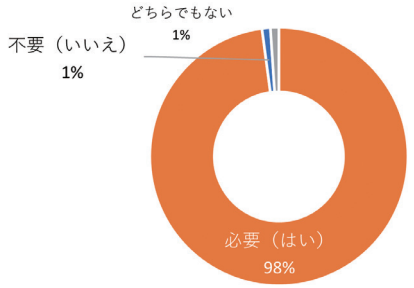
ASEAN各国及び中国・韓国の経済金融関係者と地元金融関係者との交流をもったのは初の試み。

事業の継続性

参加者と地元事業者の商談を促進するための仕掛けなどに工夫が必要であったが、課題を明確にすることができたので、今後は取組のパッケージ化や支援制度などを検討していくことで解決を図る ／ 海外参加者に人気の高いマンガをMICEコンテンツとして利用する価値は十分にある。

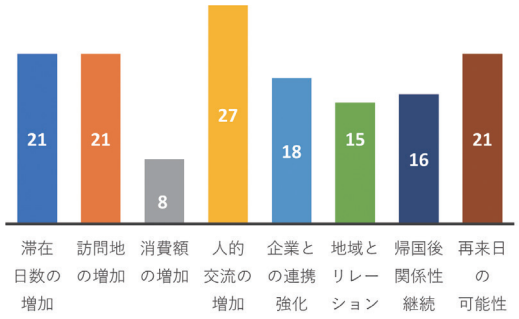
アンケート結果　集計数95名

地域と連携した企画内容の満足度



【設問：企業と知的・技術的な交流】

必要との回答が93%。参加者の43%が民間企業職ということもあるのか、交流を求める声が多かった。

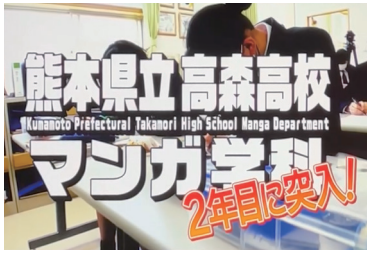


【設問：プログラムによる変化】

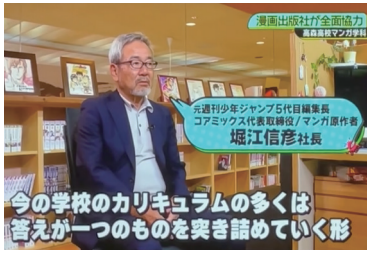
様々なレガシー効果をもたらした結果となっている。

【047】ABMF　事務局レポート

熊本地震を受けて、復興プロジェクトの一つとして再開発された熊本城ホールが会場となった



全国初！県立高校に設立されたマンガ学科



熊本で漫画家育成を行う堀江信彦氏

ステージショーにはくまモンも登場

コアミックスが旗揚げし阿蘇を拠点に活動する096K熊本歌劇団のパフォーマンス

熊本城をバックに交流会が行われた

地元企業によるサステナブルな取組の紹介

熊本発、地域活性と国際化が描く未来への架け橋

ABMFでは、育成のためのラボの設立や海外クリエイターの招聘・育成、県立高校のマンガ学科設立・運営など、さまざまなサステナブルな取組が紹介された。初めにアジア開発銀行の山寺智氏が、交流会でのネットワーキングを促進する目的で、日本人参加者向けにASEAN諸国の最新経済状況について解説。講演では、株式会社コアミックスの堀江信彦氏が「マンガはいかにして世界をつなぐのか？」をテーマに講演。事業説明や高校の漫画教育プロジェクトなどを紹介する映像が流れ、プレゼンテーションではネイティブ並みの通訳がついており、参加者を引き込むような説明が行われた。カザフスタンからの男性参加者は、「娘が日本の漫画の大ファンなので、漫画カルチャーについて非常に興味があった。漫画は日本人にとっても、国際化するためにとても大切なものなので、漫画産業への投資や今後の発展に非常に興味がある」と話した。その後、ミニステージでは、096K熊本歌劇団による刀を使った迫力あるダンスパフォーマンスや、くまモンのサプライズ登場があり、観客からは拍手や歓声が上がり大いに盛り上がった。

新たなMICEコンテンツとしての可能性

メインホールホワイエで、国際会議参加者、地元企業、学生ボランティアが参加する交流会が行われた。交流会では、ケータリング料理や地元・人吉の焼酎が振舞われ、中には焼酎を購入する人もいた。肥後銀行やコアミックスなど地元企業がブース出展、参加者はブースを見て回りながら話を聞いていた。英語と中国語の通訳も配置され、国際会議参加者と地元参加者の交流をサポートしていた。アジアからの参者からは、「熊本のソフトパワーを知る機会になった」、「日本は初めてだが、熊本の環境はとても良い。後日、熊本城を見に行くつもりだ」、「熊本の農業や漫画産業に期待を持てた」といった感想が寄せられた。地元企業の肥後銀行は、「TSMCの進出で熊本が急速にグローバル化する中、ASEAN諸国との交流は有意義だった」との声があった。主催者の山寺氏も「熊本を知ってもらう良い機会となり、特に堀江氏の講演のAIに関する話題が参加者に響いた」と話していた。学生ボランティアの一人は、「海外の方と交流し将来の参考になった」という感想があり、参加者全体が意義深い時間を過ごした交流会となった。

観光庁 Japan Tourism Agency

第9回全球エネルギー水循環プロジェクト国際会議

概　　要　地球規模の気候変動が水やエネルギーの循環に及ぼす影響について研究する国際会議

実証事業名　地域産業と連携したテクニカルビジットの実施および開催都市外でのエクスカーション

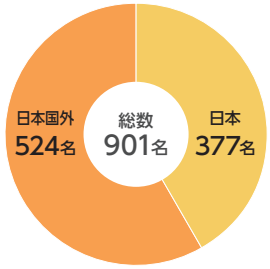
成　　果　**食の豊かさを通して気候変動を見える化したツアーは新分野のエクスカーション。**

本事業は、会議テーマである「水循環と気候変動」に基づくエクスカーションを実施。
上流から下流までの水の働きを、サイトビジットを通して学ぶストーリー性の高い内容。

実証事業内容詳細

参加者情報（参加国含む）

国際会議参加者：901名
（うち日本国外：524名）
実証事業参加者：120名
（うち日本国外：81名）
参加国　　：47か国



事業内容

エクスカーション（札幌市内および当別町）、サイクリングツアーの2事業を実施。

事業のポイント

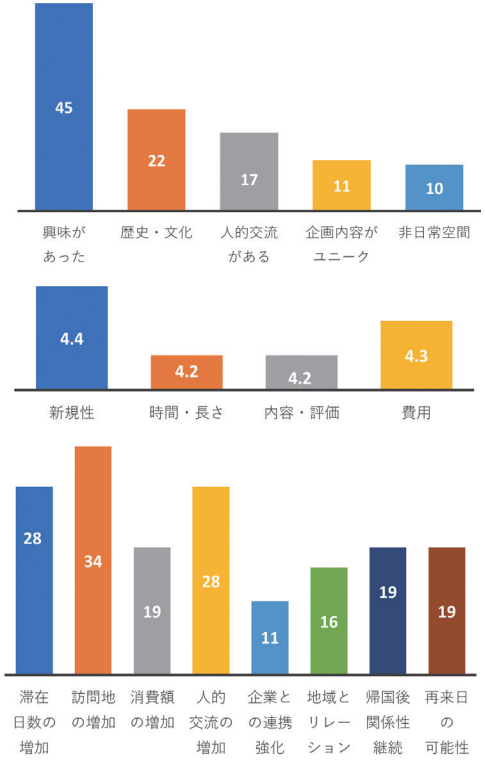
移動中のバスでは動画で水の働きと都市機能をくわしく解説 ／ ワイナリーでは、試飲体験 ／ 札幌市下水道科学館が存在すること自体が参加者から驚きの声 ／ サイクリングツアーはガイド付き。質の高い解説が満足度向上に。

事業の継続性

気候変動をツアー化した内容は、他の国際会議にも活用可能。一方で集客に苦戦。募集時にPV動画など工夫が必要。

アンケート結果　集計数332名

地域と連携した企画内容の満足度



【設問：テクニカルツアーに参加した理由】

興味本位だけでなく様々な魅力的な内容であったことが伺える。

【設問：参加者は新規性を高く評価】

全事業平均は4.2。0.2ポイントも上回り内容の高さを裏付ける評価となっている。

【設問：プログラムによる変化】

バランス良く様々なレガシー効果をもたらした結果となっている。

【051】The 9th GEWEX-OSC　事務局レポート

豊平川の「上流」に位置する豊平峡ダムでは
観光放流の迫力に参加者の注目が集まった

八剣山ワイナリーでは「中流」の水を
利用してぶどう作りが行われている

「下流」の札幌市下水道科学館では札幌市
で利用された水の処理について学ぶ

モエレ沼公園は産廃埋立地から
生まれ変わった公園

公園内での昼食は厨房設備搭載の
キッチンバスから提供された

サイクリングツアーでは
石狩川河川敷の大自然を走る

立ち寄り地のスウェーデンヒルズは
見晴らしの良い丘の上

北海道の自然とサイクリングの魅力

2024年7月12日、北海道の雄大な自然を満喫するサイクリングツアーが開催された。参加者は13名、石狩川河川敷やスウェーデンヒルズ展望台を巡り、北海道ならではの景色とスイーツを楽しんだ。参加者は野鳥や農作物について、つど足をとめてガイドライダーの解説を聞きながら質問をしたりと興味深い体験を共有。特に欧米の参加者は日常的にサイクリングに慣れていることもあり、満足度の高いツアーとなった。

参加者からは「太陽を浴びて外に出て新鮮な空気を吸うことができて良かった。ガイドはとても親切で安全意識が高く、知識も豊富だったので、本当に楽しい午後となった」といった感想が寄せられた。

インタビューでは他の参加者たちからも、「仕事で忙しい一週間の後にスポーツをするのは最高だった」「(観光で良かったことは) 田舎らしい地域を見ることができたことや、川の近くの自然豊かな場所を見ることができたこと」「街の外の農地が見れてとてもよかった」といった回答が多く得られ、郊外に足を伸ばし広大な平野を走り抜ける北海道ならではの爽快な体験への、高い評価を裏付けている。また、著名なYouTuberと協働して映像を記録し、その魅力を国内外へ広く発信した。

https://www.youtube.com/watch?v=N4144N9kdac

YouTube
チャンネルは
こちら

札幌の水と気候変動を学ぶツアーの成功

国際会議の一環として、テクニカルビジットツアーが行われた。参加者は75名、豊平峡ダムや八剣山ワイナリー、札幌市下水道科学館を訪れ、北海道の治水技術や食文化を学んだ。

特にワイナリーでは、地元のワインと食材を使ったオードブルが提供され、参加者同士の交流が深まった。近年、北海道各地では気候変動による温暖化でワイン醸造が盛んになっている。アンケート結果も高評価で、ツアーのストーリー性が参加者の満足度を高めた。

同伴者として参加したフィリピンからの女性は、「とても充実した有益なツアーであった。私は技術者ではありませんが、本当に楽しかった」と語っていた。

観光庁 Japan Tourism Agency

第77回国際古代法史学会

概　　要　法学のみならず歴史や文化に深い造詣のある参加者が一堂に会する会議

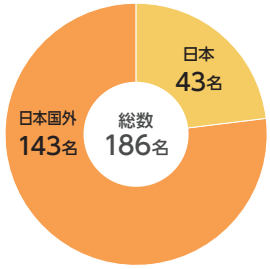
実証事業名　歴史・文化ハイエンド参加者を対象とした「知られざる」日本体験最大化実証

成　　果　歴史・文化のハイエンドな参加者が集まる国際会議で、希少性のある体験にスポットを当て武器にする。

能勢町の浄瑠璃鑑賞後、大阪城でバンケット。住吉大社の無言詣りなど、特別な体験を提供。
インバウンド効果の少ない地域も、歴史文化の面で関連のある古代法史学会にアプローチ。

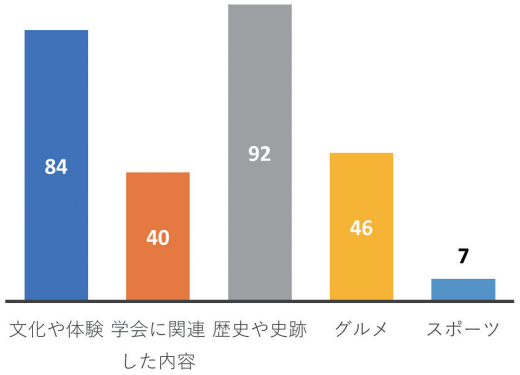
実証事業内容詳細

参加者情報 （参加国含む）	国際会議参加者：186名 （うち日本国外：143名） 実証事業参加者：143名 （うち日本国外：124名） 参加国　　：30か国
事業内容	大阪城BBQ、住吉大社ガラディナーなど、ユニークベニューでのバンケットを開催。エクスカーションではヴィーガンに配慮したコースも設定。
事業のポイント	西日本各地の大学に所属するローマ法・古代史研究者が集結し、異なる立場で貢献。阪大は能勢町との包括連携協定のもとで浄瑠璃鑑賞を、京都でのエクスカーションは京大で担当する等、多彩なプログラムの提供が可能となった。
事業の継続性	学会誌で本会議の運営記録を公刊し今後の同種の会議の誘致を促しているが、異なる分野も視野に入れるとCBの関与が鍵となる。



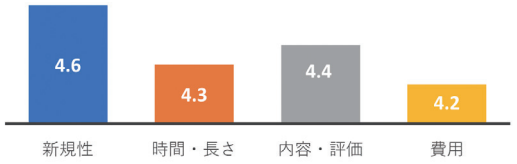
アンケート結果　集計数96名

地域と連携した企画内容の満足度



【設問：好みのエクスカーション等】

学会の特性もあり、歴史・文化の興味関心が高い。今回の実証事業が好みのエクスカーションとマッチした内容である。

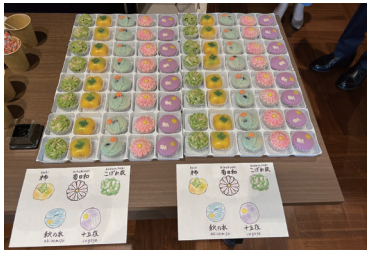


【設問：浄瑠璃観劇・大阪BBQの評価】

新規性が4.6、その他も高い評価で、高い満足度を得た。

舞台に上がり、浄瑠璃人形を操作体験する参加者

大阪市中心部にある
「大阪大学中之島センター」


日本文化紹介のひとつとして会議中に
お抹茶と一緒にふるまわれた和菓子

「旧第四師団司令部庁舎（もと大阪市立博
物館）の屋上でBBQ

目前にライトアップされた大阪城

無言詣後に集合写真を撮影

学会オリジナルロゴを入れた
オーダーメイドの枡。枡と風呂敷を
ギフトとして持ち帰ってもらった

伝統文化と現代の楽しみが融合したエクスカーション
浄瑠璃とBBQで味わう、歴史と食の融合

能勢町で浄瑠璃鑑賞と人形操作体験が実施された。人形操作体験については「文化に敬意が払われていない」という否定的な意見もあったが、一方で「地域に根付いた民衆文化に触れられた」という肯定的な意見もあり、参加者それぞれが異なる感想を抱いたようだ。その後、大阪城を望む歴史的な建物の屋上でBBQディナーが行われた。南米、アメリカ、トルコなど様々な地域から集まった参加者たちは、それぞれ「自分の国こそBBQの本場だ」と感じており、得意のスキルを披露し合って楽しんでいた。「BBQが国境を越えたコミュニケーションツールとして大いに役立ち、会話も盛り上がった」「夢中になりすぎて大阪城を撮影するのを忘れた」と語る参加者もいた。異なる文化を共有し合う中で参加者同士の交流が深まり、楽しく有意義な時間となった。浄瑠璃体験という日本文化との触れ合いと、慣れ親しんだBBQが絶妙に組み合わさったこのイベントは、印象に残る特別な時間となった。

神秘的な無言詣と近代的なガラディナー
大阪南部の住吉大社での文化体験

住吉大社では、閉門後に「無言詣」を体験した。神楽女に導かれて第一本宮を参拝し、境内では一切の会話が禁じられる中、厳かな雰囲気が漂った。この神秘的な儀式に、参加者は深い感銘を受けたようだ。その後、住吉大社境内の会館で学会開催ガラディナーが行われ、日本の伝統的なもてなしと近代的なディナーが見事に調和した空間として活用されていた。多くの参加者が正装し、主催者側には着物姿の女性も見られるなど、日本らしい華やかさが会場を彩った。今回のプログラムでは、「宗教と食」も4つのテーマの一つ。主催者は「住吉大社の宮司は、海外の参加者に日本文化を伝えたいという強い思いを持っていた。宗教施設であるため、批判や拒否されるのではないかという懸念もあったが、参加者は『無言詣』を日本文化の一部として理解し、高く評価していた」と述べている。この神秘的な体験と、続く西洋式ガラディナーの近代的な雰囲気とのギャップが、参加者の記憶に強く残り、満足度の高いイベントとなった。日本の伝統文化を深く学びながら、現代的な楽しみも味わえる構成は、多様な背景を持つ参加者にとって有意義な体験となった。

観光庁 Japan Tourism Agency

第37回アジア太平洋船舶海洋構造工学会議

概　　要　アジア・太平洋地域の研究者・技術者が船舶や海洋構造物に関する最近の研究成果やアイディアの情報交換を行い、設計・生産技術の向上機会を提供する国際会議

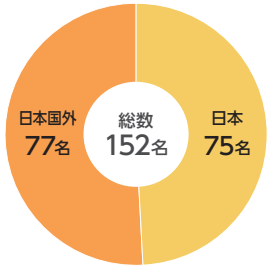
実証事業名　瀬戸内の都市間連携による海路・陸路を用いた新しいポストカンファレンスツアーの提案

成　　果　船を利用した瀬戸内を結ぶエクスカーションで、広範囲に都市間連携の効果拡大を行う。

呉を船で出発し、複数の島を巡り陸路で鞆の浦へ。福山城での陣幕パーティーを実施。
インバウンド客の訪問が少ない地域へも、学会に関連づけた移動手段で開催効果を広げる。

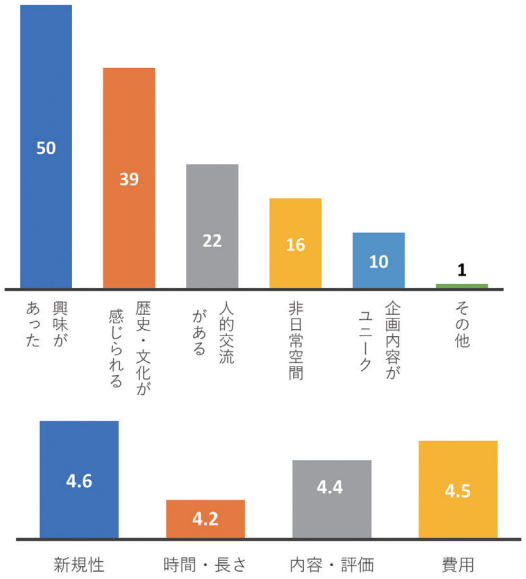
実証事業内容詳細

参加者情報（参加国含む）	国際会議参加者：152名（うち日本国外：77名） 実証事業参加者：90名（うち日本国外：32名） 参加国　：3か国
事業内容	呉を出発し、複数の島を巡り、大三島→鞆の浦→福山城と内容の濃いエクスカーションを実施。バンケットは福山城で開催。
事業のポイント	2025年開催の世界バラ会議での活用を意識した取組 ／ 船で巡るエクスカーションの為、今後の横展開として他県から出発することも可能なツアー。
事業の継続性	広島CBと福山CBの連携による今回の事業は、2025年開催の世界バラ会議を含め、瀬戸内の魅力を発信する取組として水平展開を目指す。



アンケート結果　集計数65名

地域と連携した企画内容の満足度



好意的な感想：
- Satisfying program and well arrangement
- 実費負担が少ないにも関わらず、文化や歴史に触れたり、色々な人との交流を楽しめた。
- Everything is satisfying
- 比較的安く大いに楽しめた！

【設問:エクスカーションに参加した理由】
大半が興味があったとの回答。瀬戸内の魅力を船で満喫できることが評価された。

【設問:エクスカーションの評価】
他の事業を上回る高評価。費用も手頃とコスト面のポイントが高い。

【設問：参加者のコメント】
主催した企画側の意図に応える感謝のコメントが多数。

【106】TEAM2024　事務局レポート

船舶海洋構造会議なので、参加者たちは海上自衛隊の艦艇にも大興奮！

映画のロケ地としても有名な
大崎下島・御手洗地区

「昭和レトロ」な看板は海外からの
参加者にも大人気

好評だったノベルティ

自由時間に名産品で一休み

福山城天守閣をバックに
ユニークベニュー

遠くに見える橋がサイトに使用された
「中の瀬戸大橋」

エクスカーションだからこそ！呉から福山へ、90キロの旅路

今回のエクスカーションは、呉港を船で出発し、最後は福山城へ向かうという、西から東へ約90キロの長い旅路だったがそのコースは非常にニッチな訪問先が含まれていた。特に参加者から好評だったのは、「下鎌苅島」や「大崎下島」への上陸だった。また、大三島の大山祇神社など外国人受けしそうな観光地が多数含まれていた。これらの場所は船や車がないと訪れるのが難しい地域だ。現在、東京大学で研究をしているというトルコ人の参加者は、「普段見ることのできない島の日常や街並みを船から眺められた」と楽しそうに話していた。なんと、学会参加者であった東京大学の鈴木克幸教授は、このツアーが楽しみで、今回の行程を事前に自転車で回ったそうだ。また、会議の代表者である濱田邦裕教授は、「宮島や原爆ドームではなく、玄人向けのニッチな場所を巡るコースは日本人にとっても新鮮で嬉しい」と語っていた。

国際会議参加の思い出に嬉しいノベルティ

このエクスカーションの最後は福山市にある福山城天守前広場を貸し切り、夕食も兼ねた「ユニークベニュー」が行われた。福山市は、2025年5月に「第20回世界バラ会議福山大会」を控えており、アンケートのノベルティには福山のバラをイメージした「福山オードパルファム」などを含む、福山市と資生堂との共同開発で作られたアメニティグッズが配られた。このノベルティは回答率を高めただけでなく、広島・福山の思い出として旅の満足感を述べる参加者も多く見られた。

思わぬ盛り上がり！こんなところにあの橋が

今会議のサイト制作にあたり、トップ画像に使う写真として「呉で有名な場所」を田中智行准教授が依頼したそう。旅の途中、その「中の瀬戸大橋」を船で通過した際、橋に気づいた参加者たちは大いに盛り上がり写真を撮る、という場面もあった。

観光庁 Japan Tourism Agency

第15回新材料とデバイスの原子レベルキャラクタリゼーションに関する国際シンポジウム

概　　要　新デバイスや新規材料の開発に向けた物質の原子レベルのキャラクタリゼーションについて議論する国際会議

実証事業名　「たたらで縁結び」ー波及効果を広げるテクニカルビジットと地域貢献の融合ー

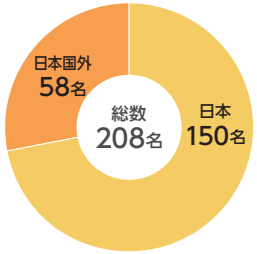
成　　果　**たたら製鉄にゆかりのあった複数の地域を広域で回る。参加者が唸る工夫が随所に。**

たたら製鉄の理解を深めるエクスカーション、鳥取県へ移動してポストコンファレンスツアー、島根ワイナリーと一畑電車でのバンケットなどで、地方都市における工夫したMICE開催の事例

実証事業内容詳細

参加者情報（参加国含む）

国際会議参加者：208名
（うち日本国外：58名）
実証事業参加者：166名
（うち日本国外：69名）
参加国　　：16か国



事業内容

安来市・雲南市・出雲市の3コースのツアー後、一畑電車で貸切バンケットを開催。鳥取県と連携したポストコンファレンスツアーも開催。

事業のポイント

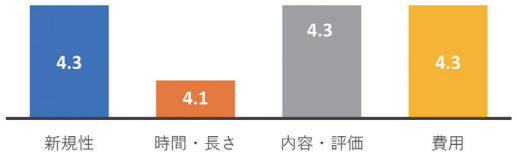
「たたら製鉄」を軸にエクスカーション、バンケット、ポストコンファレンスツアーをストーリー仕立てで組み立てた。松江市で開催した国際会議のバンケットを初めて市外の出雲市で開催し、出雲市長が歓迎挨拶を行った。会議終了後、米子市でツアーを行った。

事業の継続性

単なる観光ツアーではない、会議テーマとの親和性があるストーリー仕立てのテクニカルビジットは今後の同会議においても引き続き企画が可能。

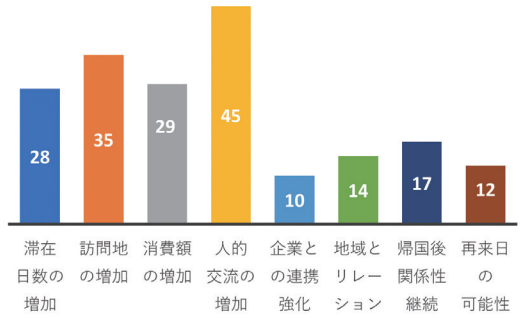
アンケート結果　集計数89名

地域と連携した企画内容の満足度



【設問：エクスカーションの評価】

電車を貸し切ってのレセプションや隣県の米子市を訪問したエクスカーションは、一定の評価を得た。



【設問：プログラムに寄る変化】

人的交流や訪問地の増加を含め様々な分野に参加者の関心を与える結果となった。

【107】ALC’24　事務局レポート

観光庁
Japan Tourism Agency

出雲市コース：出雲大社（拝殿）

安来市コース：足立美術館

雲南市コース：菅谷たたら山内（高殿）

ミニたたら製鉄の実演

一畑電車を貸し切った二次会

とっとりコンベンションビューロー理事長のガイド

島根県産間伐材を使った名札

たたら製鉄で結ばれる縁と技術の交流

国際シンポジウムでは、たたら製鉄をテーマに地域と研究者をつなぐ場が設けられた。安来市の足立美術館では、ミシュラン三ツ星の日本庭園を楽しむとともに、たたら製鉄で財を成した創設者の歴史に触れる機会があった。ここでは、たたら製鉄が地域の文化や経済に与えた影響についても考えさせられる訪問となった。雲南市では、鉄の歴史博物館と現存する唯一の菅谷たたら山内を訪問。博物館では製鉄の道具や技術の詳細を見学し、山内では3日間不眠不休で行われる過酷な製鉄作業についての説明があり、その技術の精巧さや労力に驚きの声が上がった。出雲市では、縁結びで有名な出雲大社と出雲歴史博物館を訪れ、神話と文化がたたら製鉄と結びつく背景を学ぶ機会があった。訪問地はいずれも魅力的で、参加者の満足度は非常に高かった。参加者から「エクスカーションが特に楽しかった、足立美術館の庭は絵画のようで本当に素晴らしかった」と感想も聞けた。

非日常体験が育む国際的な絆

シンポジウムのバンケットでは、島根ワイナリーでのミニたたら製鉄の実演や、出雲神話を語り継ぐ出雲神楽の上演、地元産のブドウを使ったワインの試飲が行われ、参加者に地域の文化と味覚を楽しんでもらう貴重な機会となった。さらに、一畑電車を貸し切ってユニークな二次会が開催され、非日常的な体験が参加者同士の距離を縮め、国際的な絆を深める場となった。

ポストコンファレンスツアーでは、鳥取県を訪れ、たたら製鉄の足跡を巡る旅が実施された。参加者は実際にその歴史に触れながら、地域の魅力を再発見した。このツアーでは、とっとりコンベンションビューローの理事長がガイドとして同行し、地域の文化や歴史に対する深い知識を提供していただいた。さらに、島根県産の間伐材を使った名札が配布され、環境への配慮と日本の美意識を象徴するものとして、特に海外からの参加者に高く評価された。

観光庁 Japan Tourism Agency

17th The Hypervelocity Impact Symposium

概　　要　高速及び超高速衝撃の物理学と関連技術分野の議論、情報交換、発表を目的とした国際会議

実証事業名　アジア初開催をきっかけとした宇宙産業の拡大

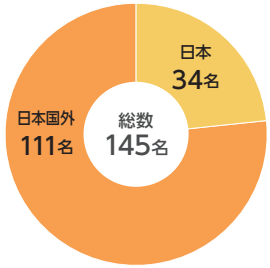
成　　果　**視察や交流会は、地域ならではの見逃しがちなコンテンツを利用し価値を高める。**

宇宙産業を基軸としたテーマに基づくエクスカーションを実施。JAXA宇宙センターの見学と地域事業者との交流会を開催。二度の交流会は工夫が必要な宴席となるもCBの協力で一定の成果。

実証事業内容詳細

参加者情報（参加国含む）

国際会議参加者：145名
（うち日本国外：111名）
実証事業参加者：287名
（うち日本国外：207名）
参加国　　：15か国



事業内容

JAXA宇宙センター視察、つくば市物産会との情報交流会

事業のポイント

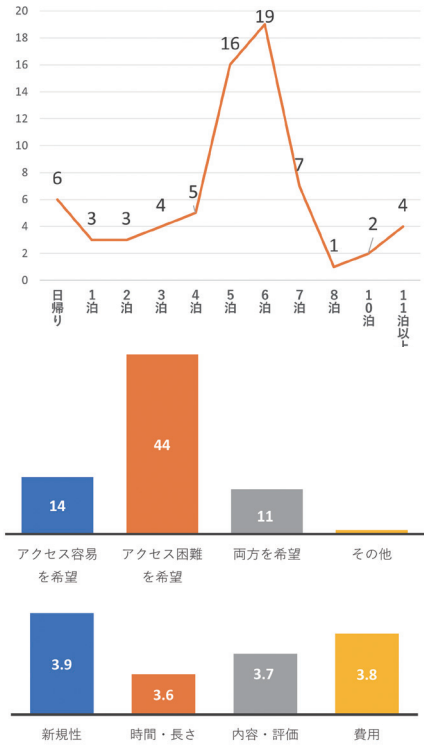
JAXA宇宙センターの視察後の、関連事業者との交流効果あり。宇宙センターでは専門家を交えた取組があればさらにベター ／ つくばの銘産である地酒の活用は外国人に人気 ／ 日本刀を使ったがま口上は外国人の目を引くコンテンツ

事業の継続性

地域資源の再整理と地域事業者との連携構築が必須

アンケート結果　集計数70名

地域と連携した企画内容の満足度



【設問：滞在日数（開催地つくば）】

5泊と6泊が大半である。観光資源の乏しいつくばにおいて、メリハリなど刺激が必須と推測する。

【設問：訪問先に希望する利便性】

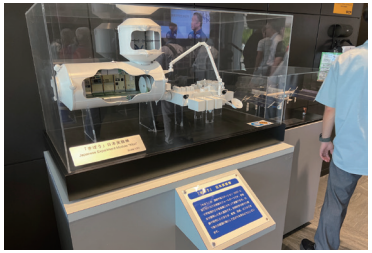
圧倒的にアクセス困難を希望する声が高い。知らない観光地への訪問ニーズも半数近くあった。

【設問：宇宙センターの見学評価】

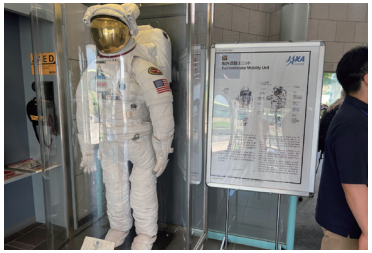
スケジュール上の制約により、見学が駆け足となった結果、満足感を十分に得ることができなかった。一般観光とは異なる視察方法が必要と思われる。

【108】HVIS2024　事務局レポート

筑波宇宙センター「ロケット広場」


「きぼう」日本実験棟の模型

ＪＡＸＡオリジナルグッズが並ぶ売店


宙飛行士養成エリア見学

和風建築の宴会場にて
地元の日本酒と銘菓がふるまわれた

多くの参加者が列をなして
日本酒を楽しんでいた

つくば市の地域文化財に認定されている
「ガマの油売り口上」が英語にて上演

つくば市の魅力コンテンツとして「宇宙」

2024年9月、茨城県つくば市で開催された第17回Hypervelocity Impact Symposium（HVIS2024）は、国内初の宇宙産業の拡大を目指す重要なイベントであった。学園都市つくばというロケーションに相応しい会議内容だったように思う。JAXAつくば宇宙センターへのエクスカーションでは、宇宙飛行士養成エリアや「きぼう」運用管制室の見学が行われ、参加者は宇宙産業の最前線を体感した。運用管制室では24時間体制での様子がガラス越しでリアルに見学できるようになっており、国際会議参加者からは一部の知人が働いている様子を確認することができ歓声が上がっていた。

つくばならではの強み「地酒」を楽しむ

バンケット会場では、つくば市の名産である地酒がふるまわれ外国人の多くが楽しんでいた。会議では日本人参加者が少なく海外参加者が多数いるなかで、日本の「SAKE」は魅力あるコンテンツであった。茨城県全体は41もの酒蔵があり、つくば市はその中でも特に人気があり最多の酒蔵を有している。つくばエクスプレスの駅内には「いばらき地酒バーつくば」があり、つくば市のすべての地酒をショットで楽しむことができるというのは大きな強みとなる。
欧米から来た参加者はお箸を上手に使いこなしながら「刺し身やお寿司など日本ならではの和食。SAKEとのマリアージュはとても楽しい。日本はどこを訪れても酒文化が発達しているので、各地で食事や酒との組み合わせで味や香りの違いなどそれぞれが楽しめる」とのコメントが寄せられた。

観光庁 Japan Tourism Agency

アジア生物学教育協議会第29回隔年会議

概　　要　アジア諸国における生物学教育の改善、研究促進をテーマに隔年で開催される国際会議

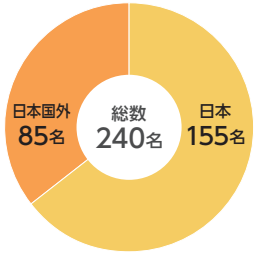
実証事業名　国際会議開催によるMICE人材の育成と地域産業の活性化による国際対応の強化

成　　果　**大学生が国際会議の運営役として活躍。地元事業者が連携してハラル対応にも挑戦。**

愛媛大学と松山観光コンベンション協会が連携し、大会スタッフとして学生の人材育成プログラムを実施。参加企業は訪日外国人向けサービスの効果拡大を図り、ノウハウを蓄積する。

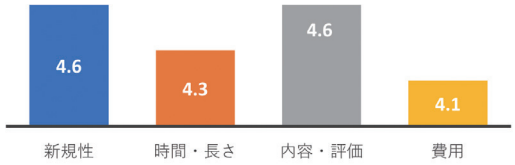
実証事業内容詳細

参加者情報 （参加国含む）	国際会議参加者：240名 （うち日本国外：85名） 実証事業参加者：60名 （うち日本国外：20名） 参加国　　：8か国
事業内容	事前にハラルの講習会を開催。エクスカーションは、とべ動物園、スクールビジット。会議場では日本文化体験を３種用意。事後にも学生向け研修を行う。
事業のポイント	学生を大会運営スタッフとして登用は地元に大きなレガシー効果をもたらす ／ 地元企業の連携によるハラルメニューの開発、提供 ／ 銅鏡磨き体験、水引体験は一般的な日本文化体験と異なる貴重なコンテンツ
事業の継続性	今後松山CBが中心となってマネタイズやメニュー化を推進する。



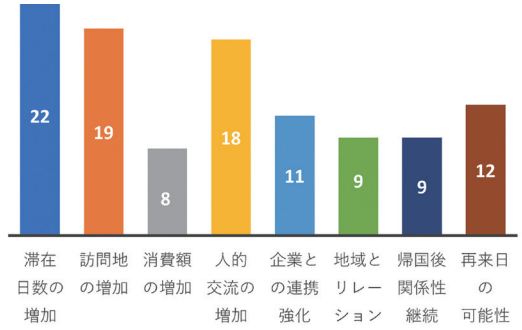
アンケート結果　集計数58名

地域と連携した企画内容の満足度



【設問：国際会議の満足度】

参加者が250名近くいる中、圧倒的に国際会議の参加について満足度が高い結果となっている。



【設問：プログラムの評価】

滞在日数の増加や人的交流の増加、訪問地の増加が特に評価が高かった。

【109】AABE2024　事務局レポート

大学生が国際会議の運営役として活躍

体験型のワークショップは
アンケートでも高い評価を得た

「銅鏡磨き」ワークショップ

事前指導を受けた学生が
ワークショップの運営を担う

愛媛大学教育学部附属中学校では、
2年生の生物の授業を見学

とべ動物園では特別にバックヤードから見学

広大な園内では大学生が各所に分かれ、
ガイド役を担当

効果を促進するための国際会議開催前・開催後の講習会の実施

MICE人材育成を目的に、CBと連携して地域の大学生や企業を対象とした5つの講習会が実施された。

1. トコロジストに関する講演会
2. ワークショップ開催に向けた現地調査
3. ハラル対応に向けた講習会
4. ミニエクスカーションおよびエクスカーション実施に関する講習会
5. 道後観光の現状に関する研修会

特に5では、参加した学生や企業関係者の交流を促進し、今後の発展への期待を込めて実施された。経験で終わらせず、事後に振り返りの研修を行うことで有効性や課題を整理・共有し、地域ネットワークの強化にもつながった。この取組は他の事業への展開も期待される。

大学生へのインタビューでは多様な意見が寄せられた。「磨く」という単純な作業においても国や文化の違いが見られたことや、国際会議を通じて海外の教育について学べたとの声があった。さらに、地元松山を案内し喜ばれた経験や、ハラルについて新たに学べたことを収穫として挙げる意見もあり、それぞれが貴重な経験を得たことが伺えた。

「MICE人材バンク」を活用した松山の新たな挑戦

当事業で育成した人材は、松山観光コンベンション協会が設立する「MICE人材バンク」への登録を促し、研修や人材派遣を通じて継続的に活用される。MICE主催者は、松山観光コンベンション協会に派遣を依頼することで、MICE活動の機会を提供し、持続的な活用を図る。

また、ステークホルダーは協会と連携して人材育成の研修を実施するほか、自社のサービスや製品をMICE向けにブラッシュアップする際に、MICE人材の意見を活用することができる。さらに、ステークホルダーの育成に向けて、松山観光コンベンション協会は「松山MICEサポート企業」制度を設け、登録企業がMICE向けサービスや製品を可視化できる仕組みを構築する。加えて、登録企業にはMICE受入に関する課題の洗い出しや解決に向けた研修の機会を提供し、既存コンテンツの質向上を支援する。

観光庁 Japan Tourism Agency

第16回エコバランス国際会議

概　　要　LCA(ライフサイクルアセスメント) 研究者が中心に研究発表・交流を行う、隔年で日本各地で開催される国際会議

実証事業名　会議の環境負荷最小化のための取組を通じた世代・地域間連携の実践

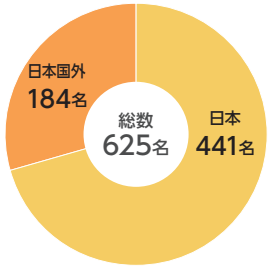
成　　果　**世界から環境に関わる専門家が集結した会議で、様々なサステナブルな先駆的取組を実践。**

カーボンオフセットやPSカトラリーの循環利用、バイオマス容器の活用、地域連携による環境負荷最小化を実践し、仙台モデルを推進。農林水産事業者と連携したメニュー開発や多世代共創を通じて、地域間交流を促進。

実証事業内容詳細

参加者情報
(参加国含む)

国際会議参加者：625名
（うち日本国外：184名）
実証事業参加者：36名
（うち日本国外：23名）
参加国　　：26か国



事業内容

会議のテーマにも通じる国際会議の環境負荷最小化のための取組を実施。

事業のポイント

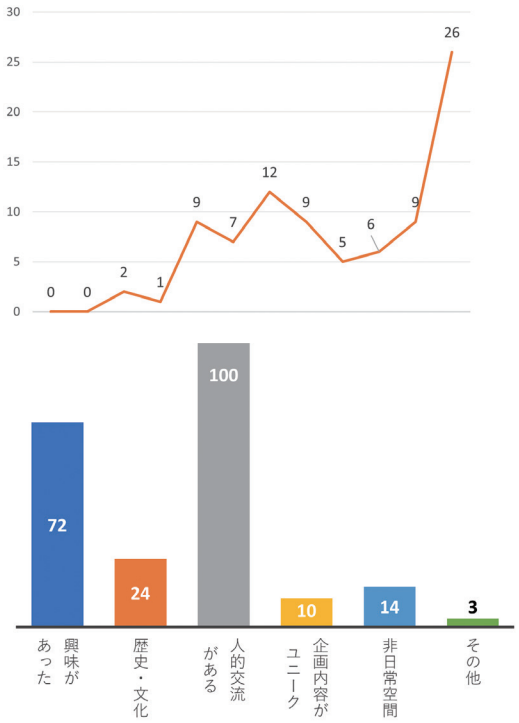
環境問題の専門家により①自然資本管理由来の限定したカーボンクレジットの購入②移動排出のオフセットプランの提案③イベント内カトラリーのプラスチック循環を実現し、欧米の専門家から高評価。

事業の継続性

自然資本保全型カーボンクレジット購入のマニュアルを作り、会議の環境負荷軽減の好事例とする。イベントプラ循環仙台モデルも他の会場での実施や仙台での定着に向けて仙台コンベンションビューローと連携しながらレガシー構築を行う。

アンケート結果　集計数224名

地域と連携した企画内容の満足度



【設問：滞在日数(日本)】

28カ国から参加するも、初来日は、3割以下。そのような参加状況でも回答者の半数以上が長期滞在である。

【設問:エクスカーションに参加した理由】

最も多い回答は、「人的交流があるから」である。環境系の会議では人的交流を通しての情報交換やコミュニケーションが最重要と思われる。また、そのことが滞在数にも関連性があると推測できる。

【112】EcoBalance 2024　事務局レポート

回収ボックスを設置
ポリスチレン製カトラリー回収＆リサイクル取組をパネル掲示

回収されたカトラリーや容器のリサイクル
方法と製品例を紹介するブース設置

カーボンオフセット水田で収穫された
米や野菜を使用した料理を提供

パタゴニアが連携して生産する
地域環境に配慮したホップによるビール

秋田工業高等専門学校が地元酒造メーカーと
連携し、下水処理水を用いて生産した酒米の
日本酒「酔思源」

エクスカーションでも様々な形で
SDGsに取り組む施設を中心に訪れた
（牡蠣殻を漆喰に再利用したレストラン）

エクスカーション先の一つ「KIBOTCHA」
は東日本大震災で被災した小学校を
リユースした施設

循環型プラスチック利用の新しい挑戦

このエコバランス会議では、イベントプラ循環仙台モデルが実践された。これはプラスチック廃棄物排出最小化の取組でランチやバンケットで提供されたカトラリー類は再利用可能なポリスチレン製、食事後に分別回収され、次のイベントで再利用される仕組みを導入した。回収対象のカトラリーや容器をパネルで掲示し、参加者はこの取組に大変協力的だった。

専用回収ボックスを用いて分別回収を行い、東北大学の松八重先生は、「プラスチックを一切使わない選択肢もあるが、今回はポリスチレンを循環リサイクルすることで、参加者からも称賛のコメントを得た」と述べていた。

回収に携わるスタッフからは「珍しいからか、外国の方も日本の方も写真を撮っていかれる方が多い」と伺った。参加者からは「この取組には会議の主催者の先進性が表れている。廃棄物を削減していく世間の動きを促進するだろう」との意見を得られた。

食を通して環境負荷を低減するバンケット

エコバランス国際会議のバンケットでは、仙台のおもてなし料理が振舞われた。カーボンクレジットを創出する米や野菜、ブルーカーボンクレジットを創出する漁場で水揚げされた魚など、ほぼ全てのメニューにおいて環境に配慮された食材が使用された。他にも、市場に流通させることのできない未利用魚や廃用牛、規格外の野菜や果物も積極的に活用され、料理ごとに日英で説明が加えられた。

フェアウェルパーティにおいても、宮城県石巻市や三重県志摩市などの漁師と連携し調達した、ウツボをはじめとした未利用魚を食材としたフライ料理が提供された。

参加者からは「料理がおいしかった。仙台が大好きになった」との声が寄せられた。

料理長からも「地元の新鮮な食材を使い、無駄なく食材の味を楽しんでもらえた」「食材の調達には難しい面もあったが、今回やってみて、新たに生産者ともつながりが持てた。今後も依頼があれば積極的に参加したい」とのコメントが得られた。

観光庁 Japan Tourism Agency

ユビキタス社会・再生エネルギー・ヘルスに資するナノマテリアル/デバイスを実現する光・X線計測技術に関する国際会議

概　　要　ユビキタス社会・再生エネルギー・ヘルスに関する
ナノマテリアル/デバイスを実現する光・X線計測技術に関する国際会議

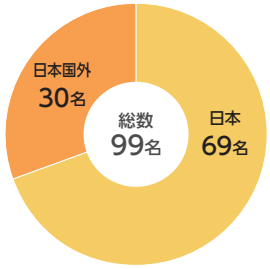
実証事業名　MICEをきっかけとした「長期滞在型岡山観光モデル」

成　　果　**直島は外国人参加者にとっても満足度の高いキラーコンテンツ。国際会議にどう活用するかが課題。**

直島や浅口の観光エクスカーションを含む新たな地域連携による長期滞在型岡山観光モデルを実証し、国際会議参加者のニーズを検証。ガストロノミーツアーとしての側面も効果的。

実証事業内容詳細

参加者情報 (参加国含む)	国際会議参加者：99名 （うち日本国外：30名） 実証事業参加者：40名 （うち日本国外：22名） 参加国　　：11か国
事業内容	会議開催前日に直島のアートを巡るツアーを開催。会議終了後には浅口ツアーを開催し、長期滞在を促すエクスカーション。
事業のポイント	人気の高い直島ツーリズムに加えて、各種体験型コンテンツを豊富に用意 ／ 日本酒、ウイスキー、チーズ、チョコなどガストロノミーツアーに相応しい外国人好みの内容を用意。
事業の継続性	直島は大人数を受け入れることが難しく、少数グループへの対応となる。一定規模の会議にどう対応していくかが課題。



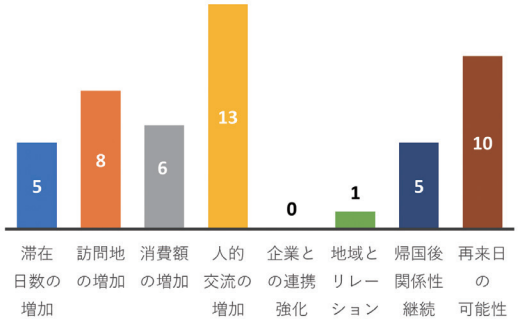
アンケート結果　集計数42名

地域と連携した企画内容の満足度

- I am completely satisfied
- Very satisfied. Exceeded my expectations.
- Very nice museum
- Very satisfied
- It was a great trip
- I loved it all.

【設問：参加者の満足度(直島)】

新規性、内容・評価がともに4.7と高いポイントとなった。下記のコメントにもあるように優れた印象を与えた。



【設問：エクスカーションの評価】

結果、人的交流の増加や再来日の可能性など、次の訪日へつながる結果となった。

【113】OptoX-NANO2024　事務局レポート

身体を動かし、手延べうどんを作る作業を楽しむ

有形文化財でもある酒蔵で地酒の試飲

醸造所では麹や酒粕などの香りに関心が集まる

牡蠣と日本酒の試食では市長が雄弁に盛り上げる

サプライズの獅子舞に参加者から歓声が

直島では島を代表する美術館を巡る

チャーター船から瀬戸内の島々を望む

地域間の連携が新たなレガシーに

MICEをきっかけとした観光モデルの推進には、地域間の連携が欠かせない。
直島や浅口市の観光資源を活用するため、地元の方々の大きな協力を得ることができた。
浅口は岡山県民にとっても「何があるんだろうと思うような地域」だとの声もあったが、行ってみないとわからない魅力がたくさん詰まっており、特に観光に力を入れている市長から、新しいチャレンジとして多大な尽力をいただいた。
かもがた町家公園交流館という施設も、これまでは通常では飲食ができるような場所ではなかったところに、金屏風を持ち込み琴の演奏を入れ、テーブルのセッティングをして見事に風流な宴席へ。新しい活用形が見えたとのことだった。
岡山では海外の方からもとから人気のあったコンテンツである直島へのエクスカーションが企画された。アート施設の説明が可能なガイドツアーが同行し、直島に合うアートの展示の模索の経緯やアートの説明がされ、「個人では到底体験できないツアーだった、完璧だった」と海外参加者から話を聞くことができた。

新たな観光資源の発掘と、岡山・中四国への面的な発展

今回のような観光資源の活用と地域の連携を、笠岡、津山、真庭のような岡山県の他の地域に発展させていくことが今後の課題となる。
アンケートでも「(沿岸の都市部ではない) 内陸部がどういうところか興味があった」「田園風景を見ることができてよかった」など、カントリーサイドとも言うべき地域の魅力に満足を感じている参加者の声が聞かれた。
岡山市にはコンベンションホールがあり宿泊施設数も多いが、会場周辺の観光地となると定番化された岡山城と岡山後楽園や近隣地域の倉敷美観地区となりがちだ。
リピーター会議主催者がある中、ツアー関係者は、「様々な特色のある地域の、それぞれの良いところを活用しながら広域にどんどん広げていくことで、岡山としても中四国としても、面的な誘致を行っていきたい」と語っていた。

観光庁 Japan Tourism Agency

IEEE R10 SYWL Congress 2024

概　　要　IEEE R10（アジア・パシフィック地域）が主管する隔年の国際会議
学生、若手技術者、女性エンジニア、生涯会員のボランティア意識向上を目的としている

実証事業名　サテライトワークショップ併催による参加者への地方都市アピール

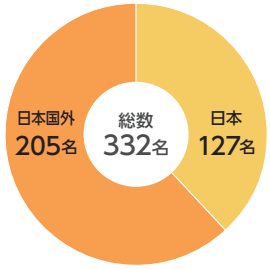
成　　果　サテライト会議を利用して、地方の魅力・誘致のアピールにつなげる。

名古屋で予選会を開催。カルチュラルナイトで各CBによる名古屋・大阪をアピールする予定だったが、台風の影響で担当者が現地入りできず、実証半ばとなってしまった。今後の横展開に期待。

実証事業内容詳細

参加者情報（参加国含む）

国際会議参加者：332名
（うち日本国外：205名）
実証事業参加者：332名
（うち日本国外：205名）
参加国　　：20か国



事業内容

名古屋でサテライト会議。ポスターセッション・カルチュラルナイトで各CBによる名古屋・大阪をアピール。

事業のポイント

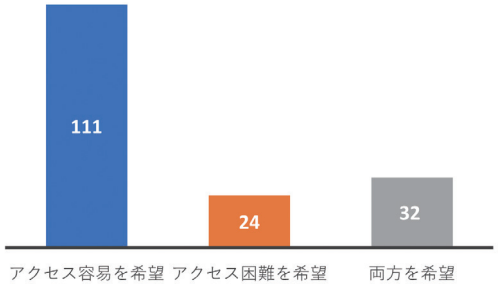
予選会を名古屋で開催することにより、予選会の内容を発表するとともに、名古屋の魅力をアピール ／ 施設内におけるケータリングの厳しい制約もあり、食の多様化を補う形で、施設の前庭でキッチンカーを展開。一つの工夫をした事例となった。

事業の継続性

IEEEは国内で頻繁に開催する国際会議であることから、カルチュラルナイトの事例として活用していく。

アンケート結果　集計数170名

地域と連携した企画内容の満足度



【設問：訪問先に希望する利便性】

68%の方が初来日の為か、アクセス容易を希望する回答が多数。

Mount Fuji / Mt. Fuji / 富士山: 11
Shibuya crossing / 渋谷: 5
Tokyo Tower: 4
Kyoto: 3
Hokkaido: 3
Kawaguchiko: 2
Asakusa: 2
Meiji Temple / Meijin Temple: 2
Shopping areas / designer goods shopping: 2
Hakone sightseeing: 1
Asakusa temple, Yoyogi Park: 1
Shirretoko, Hokkaido: 1
Tea ceremony, sake manufacturing: 1
Metro experience and local markets: 1

【設問：再訪したい・知人に教えたい場所】

様々な場所へアクセス容易な東京開催だからこその、多岐にわたる訪問。地域回遊に期待。

【114】RIO SYWLC 2024　事務局レポート

参加者の集合写真

ベジタリアン、ハラルメニュー

ダンスパフォーマンスが、
会場を魅了した瞬間

情熱的なギター演奏が響き渡る
カルチュラルナイトのひととき

食事を楽しむ参加者

河内音頭を踊る参加者

津軽三味線

ベジタリアン、ハラルメニューの実現へ

国際会議終了後、原崎運営委員長へのヒアリングを行った。会議には多様な文化背景を持つ参加者が集まり、その約40%がインドからの参加者であった。このため、特にイスラム教徒やベジタリアンの食事対応が重要な課題として挙げられていた。さらに、会場の規則により外部からの食事調達が禁止されており、限られた条件の中でどのように対応するかが大きな課題となった。原崎運営委員長は、正式なハラル料理を提供することが難しい現状を深く認識しつつも、イスラム教徒や特定の食事制限を持つ方々が安心して食べられるメニューを用意することを目指し、会場関係者との密な調整を行ってきた。
この取組を通じて、限られた条件の中でも文化的背景に配慮した運営が可能であることが示された。また、会議全体の運営においても、異文化理解が深まる機会となり、多文化共生を目指す国際会議運営の重要性と課題が浮き彫りになった。
会場内には、提供される食事に含まれている食材を示す張り紙が掲示され、イスラム教徒他の参加者が自分の食事に対して安心感を持てるよう配慮がなされていた。

交流の場としての成功

カルチュラルナイトは、参加者たちにとって貴重な交流の機会を提供する場となった。日本の伝統文化と世界中の文化が一堂に会することで、異なるバックグラウンドを持つ人々が自然に交流し、絆を深めていく瞬間が随所に見られた。
イベントのオープニングでは日本舞踊の披露があり、その後は河内音頭を皆で踊った。華やかな踊りとエネルギッシュな音楽が会場を瞬く間に盛り上げた。観客も踊りの輪に加わり、全員で楽しむ光景が広がり、会場は一体感に包まれた。余興では、各国の音楽や踊りが次々と披露され、文化を通じた交流がさらに深まる場となった。参加者同士の距離が縮まり、新たな絆が生まれる時間となった。
また、アンケートの自由記述(34. 満足または不満足の理由) には、「各国の異なる文化や遺産に関するプログラムがとても気に入った」等の声が寄せられ、イベントの満足度が高かったことがうかがえた。参加者同士の交流も非常に充実しており、異文化理解と尊重を深めるという目的を見事に達成していた。このカルチュラルナイトは、多様な文化を尊重し、共に楽しむことの大切さを再認識させてくれた。

観光庁 Japan Tourism Agency

第29回先進的応用のためのデータベースシステムに関する国際会議

概　　要　アジア・オセアニア地域で開催されるデータベース分野の国際会議

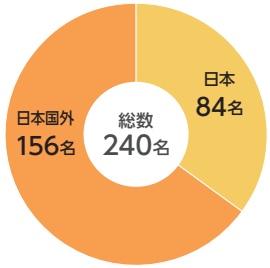
実証事業名　「東海国立大学機構」(名古屋＆岐阜大学) の航空宇宙研究拠点の活用による新たなる観光資源の開発と、広域観光圏の形成

成　　果　**若手研究者の会議では、日本をよく知る広域文化、歴史、ものづくり体験等は効果的コンテンツ。**

主催者の名古屋大学とローカルホストの岐阜大学のタッグ。エクスカーションでは岐阜市外の長良川流域文化や愛知県内の広域観光圏連携をテーマに広範な産学官連携も生まれる。

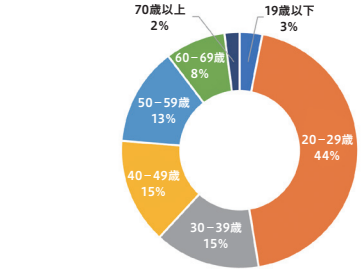
実証事業内容詳細

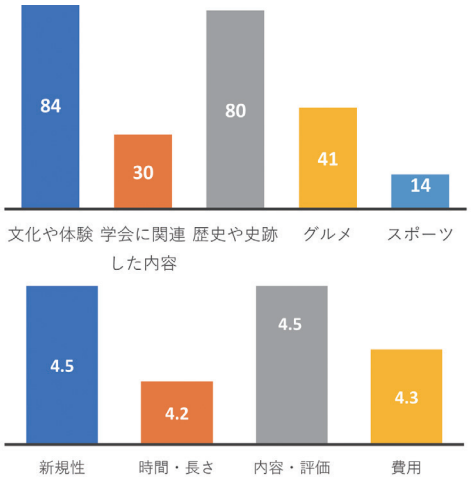
参加者情報 (参加国含む)	国際会議参加者：240名 （うち日本国外：156名） 実証事業参加者：189名 （うち日本国外：160名） 参加国　　：13か国
事業内容	エクスカーションは、半日・終日ツアー(長良川の鵜飼い、郡上八幡、刃物ミュージアム、トヨタ、八丁味噌) バンケットでは郡上おどりを披露。
事業のポイント	名古屋大学主催の会議を、岐阜で開催。東海国立大学機構を基盤とした学術連携の実現 ／ 岐阜観光CBと名古屋観光CBの広域観光圏連携が実現。
事業の継続性	岐阜観光CBと名古屋観光CBの連携に関して、今回実施したコンテンツをHP等で共有し、双方で活用できる仕組みを構築する。「中部コンベンション連絡協議会」を活用し、中部エリア全体のMICE関連コンテンツのPRを推進する。



アンケート結果　集計数97名

地域と連携した企画内容の満足度





【設問：年齢構成】

40歳未満が半数以上の若手研究者が集まる。また6回以上の来日が47%と、高頻度での来日経験。

【設問:好みのエクスカーション等】

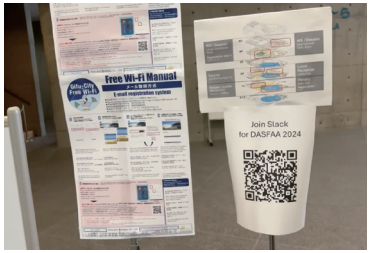
若手の多さ・来日頻度の高さからか、学会に沿った内容より、文化・体験・歴史等が好まれる。

【設問：エクスカーションの評価】

新規性・内容ともに4.5と高評価。岐阜での体験が好反応のコメントもあり。

【115】DASFAA 2024　事務局レポート

地元ならではの視点で聞ける貴重な話
ガイドブックには載っていない情報を知ることができたと、参加者から喜びの声が上がった



告知はSlackメインで行われた

船上でも温かい食事が提供された

船頭さんも英語ができる方が配置され、
滞りなくエスコート可能な長良川鵜飼

国宝犬山城からの眺めは絶景

石川先生立案の忍者ショーは大盛況
参加型のエンタメは大いに盛り上がった

手製のガイドブックを使用しながらの商業
観光の説明内容は素晴らしかった

岐阜という未知の魅力を世界へ届ける挑戦

多くの参加者にとって岐阜という地名は初耳だったようだ。中国や韓国からの訪問者の中には「名古屋には何度か行ったけれど、岐阜は初めて」という方が多数を占めていた。しかし、岐阜を訪れた彼らは「森や城、美しい自然がこんなに身近にあるとは」と驚きの声をあげた。

今回の会議では、近隣の観光資源を効果的に活用し、名古屋から岐阜への周遊プランを提案された。その結果、岐阜の魅力を広めることができたと実感があったとのことだ。特に、名古屋から電車でわずか20分というアクセスの良さが評価され、「名古屋と岐阜をセットで観光できたのが良かった」という声も多く聞かれた。今回の機会を通じて、岐阜はその魅力を世界に届ける第一歩を踏み出せたのではないかと思われる。

エクスカーションが生んだ特別な体験

今回のエクスカーションは参加者から高評価だった。毎日開催されるエクスカーションを楽しみに参加した先生もいたほどだ。特に、長良川の鵜飼いとお座敷体験のディナーは、「特別な空間」を提供でき、様々な国際会議に出席し尽くしたと言われる著名な先生が、「今までで経験したことがないほど素晴らしかった」と感動しきりだった。この成功は、岐阜ならではの自然と文化が持つポテンシャルを改めて証明するものとなった。

課題と未来への仕掛けづくり

一方で、今回の会議では新たな課題も見つかった。会議自体は盛況のうちに幕を閉じたものの、一部でノーショーという事態（論文が採録されたのに学会に出席しない行為。近年アジア圏で問題となっている）が見られた点が挙げられる。主催者である石川先生は、この状況を受けて「現地に足を運びたくなるような魅力的な仕掛けが、まだ十分ではないのかもしれない」と振り返った。次回以降に向けて、石川先生は「現地に行かなければ体験できない特別感」をより強く打ち出すとともに、参加者同士のディスカッションが自然と活性化するようなプログラムの企画も目指したいと語る。

観光庁
Japan Tourism Agency